

精密工学会東海支部 創立70周年記念誌



公益社団法人 精密工学会
東海支部

令和5年3月

精密工学会東海支部
創立70周年記念誌

公益社団法人 精密工学会
東海支部

令和5年3月

序 文

精密工学会東海支部 創立70周年記念誌の発行について

第70期東海支部長
(ブラザー工業株式会社)

伊 藤 敦



精密工学会東海支部は、今期で70周年を迎えることができました。支部創立当時の戦後の混乱が残る中、精密工学の必要性に着目した産官学一体の組織で、その後の日本の発展を支えて来られた諸先達の慧眼と支部発展のために賜りましたご尽力に対し、深く敬意を表します。資源が乏しい日本が、原料やエネルギーを輸入し、優れた工業技術でそれらの加工、組み立てを行い、高付加価値で高品質の製品を安価に多量生産し、輸出してきたことにより、日本は戦後の敗戦から急速な復興を遂げることができました。精密工学がその発展の一翼を担ってきたといえます。ここ東海地区は日本の「ものづくり」の中心地であり、自動車、航空・宇宙産業をはじめ、工作機械、金属・セラミックス材料、機械要素など有力な産業が発展しており、33社の賛助会員をはじめとして産官学から多くの方々にご参加をいただいております。産官学の方々が交流を持つことができる機会を提供することで、各自の知識と知恵を持ち寄り、今後も更なる産業の発展につながる場となれる支部であり続けたいと思っております。

東海支部の創立70周年記念事業として、本記念誌刊行、記念式典、特別講演会に加えて、「精密工学会東海支部」のホームページの更新や、ロゴマークコンテスト、「精密を極める」ものづくりフォトコンテスト、「精密工学が拓（ひら）く未来社会」絵画・イラスト・CGコンテストも行うことができました。これらの立案、準備、実行に多大な尽力をしていただきました前支部長 柴田隆行教授、秦誠一教授、古谷克司教授、梅原徳次教授、鈴木浩文教授、産総研の松本章宏様、事務局の佐野貴子様と柿崎由里様、それと企画委員の皆様にご心より感謝申し上げます。

また、毎年開催されている「ものづくり講習会」の講師を引き受けていただいている諸先生方と、学生優秀賞受賞者向け見学会に協賛してご協力していただいている賛助会員の企業様にも深く感謝申し上げます。

2021年1月20日にジョー・バイデン氏がアメリカ大統領に就任してから、世界はゲームチェンジとなりました。今まで環境保全に後ろ向きであったアメリカが積極的にCO2削減に向かうことになり、脱炭素化に向けて世界が大きく舵を切ることになりました。日本が直近のCOP26において2年連続で「化石賞」という汚名をもらっています。2020年度の日本における発電は化石燃料による火力発電が76.3%を占めています（総合エネルギー統計）。東海支部のこれからの活動が脱炭素化に向けて世界に誇れる研究開発へ結びつき、日本がその汚名を返上することとなる期待を込めて、創立70周年特別講演会の題目は「グリーンイノベーション（脱炭素化、SDG）」というメインテーマで特別講演会を開催することになりました。この開催が決まった後にもまた大きな変化がありました。2022年2月24日にロシアがウクライナに侵攻したことにより、世界のエネルギー政策に大きな変化が生じました。西側の経済制裁に対抗し、ロシアがパイプラインによるヨーロッパへの天然ガス供給量を大きく減らしたことから、国内電力供給量を確保するために脱炭素化と反対の火力発電の見直しが行われています。しかし、この新たに浮上した火力発電見直しは一時的なもので、長期的にエネルギー安全保障とともに脱炭素化に向かうことに疑いの余地はないと考えられます。

このように激動する世の中にあり、脱炭素化への方向は不変で、本特別講演会が一つの契機となり、東海支部から脱炭素化に大きく貢献する研究や技術開発がこれから生まれることを期待し、最後の言葉といたします。

会長祝辞

精密工学会東海支部創立70周年に寄せて

精密工学会 2022年度会長

藤 嶋 誠



精密工学会東海支部創立70周年を迎えられること誠におめでとうございます。東海支部は1953年6月に4番目の支部として設立され、現在では関西支部と並ぶ最大規模の会員数になられています。精密工学会では他の学会と同様に少子高齢化の影響を受け会員数の減少に悩んでおり、東海地区での会員数も2011年に比べて2021年では25%の減少になっておりますが、精密工学会全体で会員数は約30%の減に比べて比較的減少幅が少なくなっておられます。片や賛助会員の企業数は2011年に比べて10%増えている状況で、産学連携の活発な活動をされていることがわかります。講演会、講習会、セミナー、見学会等を毎年の活動に組み込んでいただき、特に2004年から毎年開催の「ものづくり実践講座」では多くの若手エンジニアが参加し、技術向上やエンジニアのネットワーク構築の場として有意義な活動になっておられることに本部としても深く感謝申し上げます。

さて、東海地区は日本の製造業をけん引する地域であり、自動車、航空宇宙、鉄鋼・金属、工作機械、ゴム、プラスチック、窯業など幅広い分野の工業製品が生産されております。70周年記念のテーマに「グリーンイノベーション(脱炭素化)、SDG」を掲げていただきました。2020年度の日本の部門別二酸化炭素排出量(全国地球温暖化防止活動推進センターJCCCA)では、工場を含む産業部門でのCO2間接排出量は全部門の34.0%となっており、環境に大きな影響を与えております。日本の産業の中心地域である東海地区でグリーンイノベーションの啓蒙活動を継続して実施いただくことによりCO2排出の削減への貢献を期待します。

70周年記念のテーマの、温暖化防止は世界の共通課題であり、COP26で合意されたように産業革命前からの気温上昇を1.5℃に抑えることで環境変化による悪影響を抑える必要があります。1.5℃目標を目指すためには2050年までに世界の二酸化炭素排出量を実質ゼロにし、2030年までに2010年比で約45%削減することが必要です。そのためには精密工学会としても精密加工、精密計測の分野だけでなく幅広い科学技術の分野と連携しながら、産学官が一体となってこの目標に向かって技術革新を続けることが望まれます。そのなかの一つのコア技術はデジタルトランスフォーメーション(DX)ではないでしょうか。DXにより生産活動を効率化し省エネを実現しカーボンニュートラルを達成することが極めて重要です。

さて、1983年に谷口博士がCIRP(国際生産工学アカデミー)で発表されたキーンノートペーパー「Current status in, and future trends of, ultraprecision machining and ultrafine materials processing」の「The development of achievable machining accuracy」では2020年には超高精度加工の領域でサブナノオーダーの達成が予想されており、実際に光学系の大型X線集光ミラーなどでは実際に原子や粒子レベルの精度が達成されています。谷口紀男先生が40年も前に予測されたことが実現することに感銘するとともに、日本の研究者が発表した論文が未だに新しい研究論文で参照されていることに誇りを覚えます。

精密工学会東海支部はカーボンニュートラル達成目標の2050年から2年後の2052年に100周年を迎えられることになっていると存じます。そのときには無事カーボンニュートラルを達成し精密工学会の地球環境への貢献について語る事が出来ることを祈念して、お祝いの挨拶に代えさせていただきます。

精密工学会東海支部 創立70周年記念誌

目 次

序 文	伊 藤 敦	i
会長祝辞	藤 嶋 誠	ii
1. 寄 稿		1
東海支部最近の10年を振り返る——ものづくりへの思い	辻 裕 之	1
精密工学会東海支部の最近20年活動を振り返って	山 本 秀 彦	2
2. 随 想		3
精密工学会東海支部の最近の活動を振り返る	古 谷 克 司	3
精密工学会東海支部最近の10年を振り返る	松 本 章 宏	4
3. 創立70周年記念行事		5
創立70周年記念講演会		5
創立70周年記念講演会・祝賀会を振り返って	梅 原 徳 次	7
4. 東海支部の発足		9
4.1 東海支部の創立		9
4.2 東海支部設立総会		9
5. 東海支部設立後の経緯		9
5.1 支部規則		10
5.2 支部運営規程		11
5.3 支部賞規程		12
5.4 支部の会員数の変遷		12
5.5 支部の会計		13
5.6 支部役員		14
5.7 支部在住の本部役員		29
5.8 支部在住の名誉会員		33
5.9 支部賞受賞者		33
5.10 学生優秀賞		34
5.11 精密工学会ものづくり賞		36
6. 東海支部の事業の概要		36
6.1 総会（総会・特別講演会・見学会）		36
6.2 特別講演会（特別講演会・見学会）		42
6.3 ものづくり実践講座		53
6.4 東海支部創立記念事業		57
6.5 秋季大会		58
6.6 創立70周年コンテスト企画		60
7. 賛助会員名簿		63
編集後記		64

1. 寄 稿

1. 寄稿

東海支部最近の10年を振り返る ——ものづくりへの思い

日本ガイシ株式会社
(第54期～68期商議員幹事 第64期支部長)

辻 裕 之



東海地区は日本の中でも製造業が最も盛んであり、精密工学会においても東海支部は特徴を持った存在で産官学連携による活動を行い「ものづくり」について広く交流ができる場です。現状の「ものづくり」は更にグローバル化の中で生産性は向上していますが、消費エネルギーの削減は大きな課題です。気候変動による大規模な自然災害や地政学的リスクの現実化によりその緊急度は増しています。ここで「ものづくり」の変化と東海支部の活動について10余年を振り返り今後の期待について考えていきます。

まず海外に目を向けると、日本企業の海外工場では強みを活かしつつも現地の特徴を活かした運営がなされています。同時に中国、アジアメーカーの製造技術は進歩していて特にファウンドリの成長は著しいものが有ります。一方で国内に目を向けると自動車関連は基幹産業として経済を支え、電子部品・デバイス、半導体関連など材料とプロセス技術に強みのある分野では高いシェアを獲得している製品も多くあります。注目すべきは精密工学に関係が深い生産機械、自動化・計測機器などの国内装置メーカーの発展であり、日本企業の製品開発から量産、海外展開での良きパートナーです。状況としては国際分業が進み日本では量産をしていない製品も多くなりました。拠点の集中は効率向上に効果がありますが変化に対してはリスクが増大します。生産拠点の分散と国内生産の重要性を感じますが、将来を見据えた競争力の高い製造技術での対応が必要と考えます。

東海支部では「ものづくり」に触れる機会を重視して、主な活動としては「ものづくり実践講座」と「見学会」に力を入れています。「ものづくり実践講座」は2004年に2講座から始まり最近では基礎から最新技術の6～8講座になりました。先生方の強い熱意に支えられた結果であり、実体験の重要性を再認識しました。「見学会」は年2～3回の実施で長年継続していることから候補選は議題となり、魅力ある「ものづくり」の情報収集と見学依頼に努力がなされています。これにより幅広く企業・研究機関を見学させていただくことで交流の場が広がることを期待します。また、東海地区で精密工学を学ぶ学生を対象に2014年から「東海支部学生優秀賞」が設立され、各大学・高等専門学校で1～2名に表彰を実施、2017年から最新技術に触れる「特別企業見学会」も付与されました。意欲のある学生に広く拡大して学びと研究のモチベーション向上に寄与すると考えています。

残念なことに、これほど活発な活動をしているにも関わらず、東海支部でもここ数年は個人会員数が減少しています。それ以前の10年程は個人会員600名を維持してきただけに危機感を覚えます。新型コロナウイルス感染症の拡大による影響も大きいと思いますが、新規分野への挑戦と継続、研究発表や学び方の変化が根底にあると考えます。変革する時代に対応するためにも広く仲間を迎え入れて交流の輪が広がるように東海支部活動の魅力を伝えていきたいと思えます。

これからの社会について触れると、デジタル化社会の更なる進展と2050年に向けたカーボンニュートラルの達成は世界的な潮流であり、産業構造も大きく変化していきます。精密工学はデジタル機器の発展に大きな貢献をしましたが、精密な「ものづくり」には大量のエネルギーを必要とします。高精度化とエネルギー消費削減の両立は精密工学会が取り組むべきテーマです。また、東海地区は多くの産業があり大量のエネルギー消費地でもあります。東海支部においては産官学連携の中で情報収集を行い、学びと交流の場を提供することで研究テーマの発掘や新規技術の創出に貢献していくことを祈念します。

精密工学会東海支部の最近20年活動を振り返って

岐阜大学工学部
(第61期 東海支部長)

山 本 秀 彦



思い起こせば、ほぼ半世紀前、生産技術のエンジニアとなって精密工学会正会員となり、工場・生産ラインの自動化に取り組んできました。当時は、「Japan as No.1」と言われ、モノづくりを世界に貢献しなければいけない世界状況の下、当時の通産省の一声で、産官学共同のIMS (Intelligent Manufacturing Systems) プログラムが発足しました。このIMS プログラムは21世紀の生産はどのようにするのかを、企業・大学・国で研究して、将来の工場運営を実現する目的でした。当時(株)豊田自動織機のエンジニアとしてこのプログラムに参画していました。

思い起こせば、このIMS プログラムが、後の精密工学会での人脈形成に役にだっていました。というのも、一緒に集って21世紀の生産を喧々諤々討論しあったグループの中に、長江昭充さん(当時マザック取締役で後の第36代会長)、森脇俊道さん(当時神戸大教授で後の第34代会長)、杉村延広さん(当時神戸大助教授で後の第69期(2009年度)関西支部長)などなど、最近20年の精密工学会の重鎮の方々と、人見知りだった当時30歳前後の私でも楽しく交流させていただきました。そして、この討論の結論の1つが自律分散型工場でした。つまり、各機械や工場運営には知的な技術が必要になる、というものでした。

思い起こせば、最近20年、東海支部の生産に関する会員の方々も、多かれ少なかれ、知的な機械づくりに向かっており、自律分散型工場とまではいかないまでも、IoT生産、さらにはサイバーフィジカル工場を目指してきていることより、IMSプログラムでの結論も、まんざら無駄ではなかったように思いました。

東海支部の会員の多くは、モノづくりの企業さんの集団ですので、今後一層の加工・工作機械・生産システム・画像・センサー・ロボットなどの分野へのインテリジェントな技術開発に向かっていく姿を見させていければ幸いです。

2. 随 想

2. 随 想

精密工学会東海支部の最近の活動を振り返る

豊田工業大学 工学部
(第68期～ 庶務幹事)

古 谷 克 司



前回の周年記念行事は60周年の10年前であるが、記念誌発行は50周年の20年前である。この間には、世の中では書ききれないくらい多くのことが起こっており、東海支部もその影響を大きく受けている。

私が商議員・幹事を前任の東正毅先生から引き継いだのが2011年3月1日の商議員会からで、庶務幹事を名古屋工業大学・糸魚川文広先生から引き継いだのが2020年3月13日の商議員会からである。2011年には3月11日の東日本大震災があり、2020年3月中旬は新型コロナウイルス禍で社会全体の活動が停滞する予兆が出始めたころであった。いつでも何らかのことが起こっているので、探せば何かは出てくるが、世の中が変わるほど大きなことが見つかることは少ないのではないかと思う。

そろそろ本題の支部活動のことに移る。

東海支部は、現在の日本経済をけん引している製造業の集積地の一つである愛知県、岐阜県、三重県、静岡県をカバーしている。支部活動は活発であり、春と秋の見学会、総会に合わせての特別講演会や見学会が定期的で開催されている。2017年度からは講演会／講習会／見学会の企画委員会を組織し、支部主催行事のさらなる活性化のための活動が続けられている。2013年度からは学生優秀賞として、精密工学分野の学業成績優秀かつ人格の優れた学生（学部4年生、高専本科5年生）を顕彰している。講義だけでなく、実習・実演も併用するものづくり実践講座は、さまざまなニーズに対応できるように講座数を増やしている。また、この10年だけでも、東海支部ゆかりの方から会長に2名が就任されており、精密工学会賞が7名、技術賞、技術奨励賞、ものづくり賞が多数授与されている。

ここまではアナログ時代のことであるが、コロナ禍以降、否応なしにデジタル・トランスフォーメーション（DX）が進んでいる。本支部の活動も2020年5月以降、幹事会や商議員会・総会等をオンライン化せざるを得なくなり、対面的な活動としては、コロナ感染状況が小康状態になった2020年と2021年の秋の見学会だけであった。幹事会は2022年5月に久々に対面での会議となった。オンラインでの活動は、時差がない範囲では物理的な距離がまったく問題にならない。支部活動は、もともと物理的な距離が近いところで地域の特性を活かした企画を実施し、人的ネットワークを構築することなどが目的であると考えられる。デジタルネイティブ世代が今後の中心となると、オンラインの活動に抵抗がなくなるかもしれない。ネット上の仮想世界であるメタバースが普通になると、メタバース支部ができて自分の分身であるアバターが学会活動するようになるかもしれない。XR（Virtual Reality：VR, Augmented Reality：AR, Mixed Reality：MR）技術がさらに発展してストレスなく使えるようになるまでには、ポストDX時代の支部の役割を考えておく必要がある。精密工学分野ではデジタル・ツイン技術が進んだとしてもその片方である現実世界における三現主義は重要視され続けることが間違いないと考えられるが、共存共栄する必要がある。上記のものづくり実践講座でも、オンライン化して実施することで遠方からでも受講しやすくする工夫をしたり、オンライン時代のプレゼンテーション技術の講座に拡張するなど、すでに守りだけでなく攻めに転じていただいた例もある。Sustainable Development Goals（SDGs）が一般的になってきて、CO2排出量削減やカーボンニュートラルの観点からは、遠方はオンラインで、リアルは近場でという流れができるかもしれない。その時がまさに支部活動のありかたが問われるときであると考えられる。

最後になりましたが、活発な支部活動を実施するにあたりご尽力いただいている東海支部事務局の佐野貴子氏、柿崎由里氏に感謝します。

精密工学会東海支部最近の10年を振り返る

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
(第64～70期 会計幹事)

松 本 章 宏



中部地区は自動車・航空機関連、金属工作機械をはじめとした製造業の割合が高いことが知られており、その中で国立研究開発法人産業技術総合研究所中部センターは、セラミックスや金属を中心とした材料系ものづくりの総合的な研究開発拠点として、多様な部材やデバイスを生産するための製造技術の研究開発や、省エネルギー・省資源に効果が期待される部材開発に取り組んでいます。

さて、精密工学会東海支部会計幹事への経緯について少し触れたいと思います。私自身、名古屋工業技術試験所（現在の産業技術総合研究所中部センター）に1992年に入所後2000年頃から、レアメタル代替硬質合金に関する研究を開始しました。具体的には、金属を切削するチップとして大量に使用される超硬合金において、その構成元素であるタングステンとコバルトを他の金属あるいは合金と置き換えた新硬質合金を開発するというものです。そして2010年から開始された知の拠点あいち重点研究プロジェクト「低環境負荷型次世代ナノ・マイクロ加工技術の開発プロジェクト（2010～2015）」の中で、新硬質合金を開発する研究テーマを担当することとなりました。本プロジェクトでは、中部地区の大学で、切削加工、精密加工技術を研究する著名な先生方、企業の方々のご一緒する機会を得ることができました。これをきっかけとして、精密工学会に入会（2011年）するとともに、精密工学会東海支部の商議員に名前を連ねさせていただき（2016年）、正にはほぼ同じタイミングで、当時会計幹事を務められていた名古屋市工業研究所の浅尾文博氏から、会計幹事を引き継いでほしいとのお話をいただき、現在へとつながっている次第です。

精密工学会以外に複数の材料系学会に入会しており、その支部活動も行ってきましたが、精密工学会東海支部は特に活発な支部活動を行っている印象を受けます。毎年開催している「ものづくり実践講座」はまさにその象徴であり、先生方のご協力には頭が下がる思いです。同時に企業の方々の、先生方の研究への期待度の高さをひしひしと感ずることが出来ます。その意味では、産学の協力関係がうまく構築できていると思います。

さて、会計幹事の立場から、現在の最も大きな課題は、次の大きなイベントの一つである80周年記念行事などを行うために、早急に安定した財政基盤を立て直すことではないかと思えます。企画委員会にて世の中の動向を踏まえつつ、毎年ものづくり実践講座の内容を検討しています。しかし、あいにく新型コロナ禍が長引くなどして、ここ数年中止を余儀なくされる講座が多く、新型コロナ禍以前のような安定した収益が得られていない状況にあります。したがって、現状、次の大きなイベントを迎えるための財政基盤が脆弱なものとなっています。今後、幹事の方々のご協力を賜りつつ、精密工学会東海支部が将来にわたって継続発展していけるように、微力ながら貢献したいと考えています。

最後になりますが、会計幹事の要職を無事務めさせていただけるのも、事務局の佐野様、柿崎様の多大なるご尽力があるからこそであり、深く感謝しつつ筆をおきます。

3. 創立 70 周年記念行事

3. 創立70周年記念講演会

創立70周年記念講演会・1

「グリーンイノベーション基金事業の概要について」

田中 真悟 氏



講師プロフィール

経済産業省 産業技術環境局 環境政策課
 カーボンニュートラルプロジェクト推進室
 産業技術総括調査官（2022. 9月現在）

（国研）産業技術総合研究所にて電池技術を中心とした材料科学の研究活動に従事。

現在は、経済産業省にてグリーンイノベーション基金を所掌する室にて、プロジェクトの組成やモニタリングに関するワーキンググループなどを担当。「2050年カーボンニュートラルの実現」への取り組みをはじめ、エネルギー・環境領域に全般に関する研究開発とその成果の社会実装の実現について興味を深めているところ。

【経歴】

1970. 5 広島県生まれ

1998. 9 大阪府立大学大学院理学系研究科物質科学専攻博士後期課程終了 博士（理学）

1998.10 工業技術院大阪工業技術研究所 入所 通商産業技官

2001. 4 独法化に伴い（独）産業技術総合研究所生活環境系特別研究体 研究員

その後組織改変に伴い、同所ユビキタスエネルギー研究部門、電池技術研究部門の主任研究員、研究グループ長を経て現在に至る。

現在 兼務先 同所ゼロエミッション国際共同研究センター及び電池技術研究部門

一般社団法人 日本物理学会 領域代表（領域10）

講演概要

グリーンイノベーション（GI）基金事業では、「2050年カーボンニュートラル」の実現に向け、2兆円の基金が造成され、野心的な目標にコミットする企業に対して、最長10年間の研究開発・実証から社会実装まで継続して支援していくことが掲げられています。そのため、プロジェクトを組成する段階、プロジェクトを推進していく段階において常にCO2削減効果や社会実装に伴う経済波及効果をモニタリングしながら運営しているところです。本講演では、GI基金事業の概要をご説明し、既にPJ組成済みの事業を例にして、具体的な取り組み状況をご紹介します。

創立70周年記念講演会・2

「気候変動と科学技術」

土屋 敏之 氏



講師プロフィール

NHK メディア総局解説委員室 解説主幹 (2022. 6月現在)

長年科学分野の番組ディレクター／プロデューサーとして、科学技術、医療、気候変動をはじめとする環境問題をテーマに、「NHKスペシャル」「クローズアップ現代」「サイエンスZERO」「コズミックフロント」などの番組を制作してきた。現在は解説委員として、科学および環境問題を主に担当。時論公論「“夢の降圧剤”問われる臨床研究」、同「“疑う余地がない”温暖化とどう向き合う？」など出演多数。

【経歴】

1966. 9 愛知県生まれ

1989. 3 東京大学工学部精密機械工学科卒業

1989. 4 日本放送協会(NHK)入局

名古屋放送局ディレクター、

(株)NHKエデュケーショナル科学健康部担当部長、

NHK科学・環境番組部チーフ・プロデューサーなどを経て

2015. 6 放送総局解説委員室 解説委員

2022. 4 メディア総局解説委員室 解説主幹

講演概要

既にその被害も顕在化しつつある気候変動に対し、「2050年カーボンニュートラル」さらにその先は「カーボンネガティブ」の実現が世界的に求められている。当初は懐疑派も多かった気候変動問題に対し、科学はどのような役割を果たしてきたのか、そしてこれから産業・科学技術の分野で期待されること、求められることはなにか。11月にエジプトで開催予定のCOP27の議論も踏まえて考える。

創立70周年記念講演会・祝賀会を振り返って

名古屋大学 工学研究科
(第66期 支部長)

梅原 徳次



2022年11月25日（金）15：00 から、ストリングスホテルで創立70周年記念講演会並びに祝賀会が開催された。

精密工学会は、昭和8年に精機協会として設立し、昭和22年に精機学会、昭和61年に精密工学会と改称された。精密工学会東海支部は、昭和28年精機学会の東海支部として設立し、今年度第70期を迎えた。

その間、のべ70名の支部長、庶務幹事に支えられ、幹事や商議員はのべ2000名以上となる。また、東海支部の管轄である愛知県、岐阜県、三重県及び静岡県所属の学会会員は、国内でも関東、関西に次ぎ多く、国内での本支部の価値は非常に高く、学問だけでなく、実学でも多くの貢献をしてきたと信ぜられる。

この度、このような伝統ある支部の業績を記念し、記念講演会並びに祝賀会が開催された。新型コロナ禍でもあり、参加者は50名弱であったが、本部から会長、副会長、事務局長及び事業部長を招待し、素晴らしい会を開催することができた。



受付



会場の様子



主査・事務局



伊藤支部長挨拶



講師の方（控室にて）



藤嶋会長挨拶



鈴木副支部長閉会挨拶



会場の様子

本70周年行事は、2年前から3期をまたぎ企画され、本70期により無事開催された。この開催にあっても、この期間の幹事、商議員並びに支部会員のボランティアにより企画実行された。

特別講演会は、未来志向である本支部の方向性を定めるために、環境負荷低減持続型成長のためのものづくりに関する貴重な講演であり、データに立脚した、非常に実になるご講演であった。

また、祝賀会では、支部長経験者など多くの当支部の重鎮の方々が集まり、同窓会のような賑わいであった。

このような素晴らしい周年行事を、この新型コロナ禍で開催できたことは、現支部長をはじめとする庶務幹事、幹事、商議員及び支部会員のおかげであり、紙面を借りてお礼申し上げる次第である。



記念講演会 田中氏



記念講演会 土屋氏



参加者からの質問



コンテスト結果報告



閉会挨拶 柴田第69期支部長



祝賀会 開会挨拶



山内副会長 乾杯挨拶



祝賀会の様子

4. 東海支部の発足
5. 東海支部設立後の経緯
6. 東海支部の事業の概要
7. 賛助会員名簿

4. 東海支部の発足

4.1 東海支部の創立

東海地区では早くから時計、ミシン、工作機械などの精密機械工業が盛んであり、東海支部の設置は多年の懸案であった。特に、第二次世界大戦が終了し、戦後復興がなされるにしたがって、技術と頭脳を集約する精密機械は日本にとって最適な輸出部門となり、精密工業に従事する研究者、技術者の密接な連携が必要であることが痛感されるに至って、急速に設置の気運が高まった。

このような事情の下に、精機学会（精密工学会の旧名称）中部代表理事である久田太郎氏を中心として支部設置の準備が進められた。その上で、本会細則第42条「地方支部を設置するときは当該地方に居住する精機学会会員十名以上の連記を以て会長に申出るものとする。前項の申出ありたるときは評議員会の審議を経て総会においてその採否を決するものとする。」に基づいて、昭和28年3月付書面にて、東海支部設立発起人代表久田太郎氏ほか9名から精機学会会長真島正市氏あてに支部設置を申し出た。

昭和28年4月20日精機学会通常総会において東海支部の設置が承認可決され、同年6月11日愛知県商工館ホールにおいて設立総会を開催し、関西・東北・中国四国に次いで第4番目の支部として当支部が発足する運びとなった。

4.2 東海支部設立総会

精機学会東海支部設立発起人会を昭和28年5月2日、幹事会（発起人の互選により、支部長、幹事候補者を予備選挙）を5月21日に開き、支部規則原案、6月11日に愛知県商工館ホールにおいて開催予定の東海支部設立総会の次第、発会式並びに記念講演会の開催、発起人全員を商議員候補者とする事などを決めた。

設立総会の出席者は約90名で、設立経過報告の後、支部規則を原案通り承認決議し、第1期支部長として久田太郎氏、幹事として土井静雄、中野幸久、井形厚臣、岡井弘、能登鉄治、春日保男、鹿取一男の7氏、および商議員14名を議決した。発会式では、支部長式辞、精機学会会長代理中田孝理事の挨拶、日本機械学会東海支部長生源寺順氏、名古屋商工会議所副会頭・中部精密機器工業会会長村岡嘉六氏の祝辞を得た。引き続いての記念講演会では下記の特別講演と10件の学術講演がなされた。

(1)「サーボ」機構とその性能試験について

東工大教授 中 田 孝

(2)非切削加工による歯車の工作

東北大学教授 成 瀬 政 男

5. 東海支部設立後の経緯

東海支部70年の変遷を以下に示す。

5.1 支部規則

設立総会において議決された支部規則は次の通りである。

精機学会東海支部規則

- 第1条 当支部は精機学会東海支部という。
- 第2条 支部事務所は名古屋市に置く。
- 第3条 静岡県、愛知県、岐阜県、三重県に勤務または居住する精機学会会員をもって支部会員とする。
- 第4条 支部は次の役員を置く。
支部長、幹事、商議員
商議員は若干名とし、支部会員の投票によってこれを選挙する。
支部長は1名、幹事は若干名とし商議員の互選をもってこれを定める。
- 第5条 支部長は支部を代表し会務を総括する。
幹事は支部長を補佐し会務を処理する。
商議員は重要な会務を商議する。
- 第6条 役員任期は1ヶ年とし重任を妨げない。
- 第7条 支部長であったものはこれを前支部長と称し商議員会に出席し意見を述べ決議に加わることができる。
なお前期支部長は幹事会にも出席意見を述べることができる。
- 第8条 支部の事業は次の通りである。
1. 講演会を開くこと。
2. 見学視察をなすこと。
3. その他適当と認められる事業をなす。
- 第9条 支部の事業は次の会合の決議によりこれを行う。
幹事会、商議員会、支部総会
幹事会および商議員会は必要に応じて支部長これを招集する。
- 第10条 支部総会は毎年春季にこれを開き諸般の報告または必要な諸事を行う。
- 第11条 商議員会の議事は出席者の数全員の4分の1に達しないときは仮決議をなし書面をもって欠席者の意見を徴し全員の過半数の意見によりこれを決する。

- 第12条 商議員会および支部総会の決議はその都度会長へ報告する。
幹事会、商議員会および支部総会の議事は議事録に記録しこれを保存する。
- 第13条 支部の経費は寄付金および本部の補助金をもってこれに当てる。
- 第14条 支部の事業年度は毎年3月1日に始まり翌年2月末日をもって終る。
- 第15条 本規則を変更せんとするときは支部総会の決議を経て本部理事会の承認をうることを要する。

付 則

このほか支部規則に定めなき事項は本部定款に準ずるものとする。

昭和36年までに北陸・北海道・九州の各支部が設置されて支部は7支部となったが、当支部は関西支部と並ぶ会員数を占め、昭和43年には両者で支部

会員の6割を分け合う大支部となった。

この間に本部定款は昭和32、33、36、43年と4度改正、各支部規則も改められてきており、他支部と比較して当支部のみ異なる規則条項について検討する必要が生じてきた。昭和44年1月17日の商議員会、7月7日、10月8日、11月5日、12月10日の幹事会で検討が続けられ、昭和45年3月26日開催の支部総会において、昭和45年4月1日を施行日とする支部規則改正が議決された。これによってほぼ現行の支部規則となった。

昭和50年代後半になると精機学会がカバーする分野が拡がり、名称が精密工学会と変更されたのに伴い、支部規則の表題、第1条、第3条にある精機学会の精密工学会への改正を昭和61年1月1日に逆上って適用することが昭和61年3月19日の支部総会で議決された。

平成14年3月22日支部総会で、庶務幹事・会計幹事を明記し、その職務の規定、支部の事業を本部定款に準ずることを議決された。

精密工学会東海支部規則

- 第1条 当支部は精密工学会東海支部という。
- 第2条 支部事務所は名古屋市に置く。
- 第3条 静岡県、愛知県、岐阜県、三重県に勤務または居住する精密工学会会員をもって支部会員とする。
- 第4条 支部には次の役員を置く。
支部長、副支部長、庶務幹事、会計幹事、会計監査、幹事、商議員。
商議員は若干名とし、支部会員の投票によって決める。幹事は若干名とし、商議員の互選によって決める。支部長、副支部長は各1名とし商議員会において幹事の中より選出する。幹事の中から庶務幹事、会計幹事の各1名を選び、支部長がこれを委嘱する。
- 第5条 支部長は支部を代表し会務を総括する。副支部長は支部長を補佐し、支部長が事故あるときはその職務を代行する。庶務幹事は支部長を補佐し、庶務に関する日常の会務を処理する。会計幹事は支部長を補佐し、会計に関する日常の会務を処理する。幹事は支部長を補佐し、会務を処理する。商議員は重要な会務を商議する。会計監査は

支部の会計を監査する。

- 第6条 役員の任期は1ヶ年とし重任を妨げない。
- 第7条 支部の事業は本部定款第5条に準ずる。
- 第8条 支部の事業は幹事会、商議員会、支部総会の決議によりこれを行う。幹事会および商議員会は必要に応じて支部長がこれを招集する。
- 第9条 支部総会は毎年春季にこれを開き、諸般の報告または必要な諸事を行う。なお支部総会は支部正会員の5分の1以上の出席（委任状を含む）をもって成立し、出席者の過半数の同意が得られなければ決議することができない。ただし支部総会の開催を必要とするときは臨時にこれを開くことができる。
- 第10条 商議員会の議事は出席者の数が全員の4分の1に達しないときは仮決議をなし、書面をもって欠席者の意見を徴し全員の過半数の意見によりこれを決する。
- 第11条 商議員会および支部総会の決議はその都度会長へ報告する。幹事会、商議員会および支部総会の議事は議事録に記録しこれを保存する。

- 第12条 支部の経費は本部補助金、寄付金およびその他の収入をもってこれに当てる。
- 第13条 支部の事業年度は毎年4月1日に始まり翌年3月末日をもって終る。
- 第14条 本規則を変更しようとするときは支部総会の決議を経て本部理事会の承認をうることを要する。

付 則

1. このほか支部規則に定めなき事項は本部定款に準ずるものとする。
2. この規則は昭和45年4月1日より施行する。
3. この改正規則は平成14年4月1日より施行する。

5.2 支部運営規程

公益社団法人精密工学会支部運営規程

(目的)

第1条 支部は、公益社団法人精密工学会（以下「本学会」という。）定款第3条の目的を達成するため、同第4条の事業を行なうことにより、技術情報の発信等をつうじて社会の発展に寄与することをめざす本学会の活動を、地域レベルで、活性化しかつ補完することを目的とする。

(支部の設置)

第2条 この規程は、本学会定款第49条の規定に基づき設置される支部の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(支部の区域)

- 第3条 本学会に、支部を設置する。
2. 支部は北海道、東北、北陸・信越、東海、関西、中国・四国、九州の各支部とし、それぞれの地域の本学会会員をもって構成する。
 3. 名称は精密工学会〇〇支部という。
 4. 支部はその連絡先を定め、本学会に届ける。
 5. 新たに支部を設置するときは、当該地域に居住する本学会会員の20名以上の連記をもって理事会に申し出るものとする。
 6. 前項の申し出のあったときは、理事会の承認を得て、社員総会においてその認否を決する。

(役職)

第4条 支部の運営のため、以下の役職を置く。

- (1) 支部長 1名
- (2) 副支部長 1名を原則とする。ただし、支部に属する正会員数が500名以上の場合、2名置くことができる。
- (3) 幹事 若干名
- (4) 庶務幹事 1名、会計幹事 1名
- (5) 監事 1名乃至2名
- (6) 商議員 若干名

2. 役職者の母体となる商議員の数については、その地域の正会員数に応じた上限数を理事会で定める。

(選出方法)

第5条 商議員は、支部所属の本学会正会員の互選によって選出する。

但し、支部の事情により賛助会員所属の非会員からの選出も可能とする。

2. 支部長、副支部長、幹事、監事等は、商議員の中から互選によって選出する。
3. 庶務幹事、会計幹事は幹事の中から支部長が委嘱する。

(職務)

- 第6条 支部長は支部を代表し、会務を総括する。
2. 副支部長は支部長を補佐し、支部長が事故のときはその職務を代行する。
 3. 庶務幹事は支部長を補佐し、庶務に関する日常の会務を処理する。
 4. 会計幹事は支部長を補佐し、会計に関する日常の会務を処理する。
 5. 幹事は支部長を補佐し、会務を処理する。
 6. 監事は支部の事業および会計を監査する。
 7. 商議員は重要な会務を商議する。

(任期)

- 第7条 役職者の任期は選任後1年とし、重任を妨げない。ただし、商議員会議の決議により、役職者の任期を選任後2年とすることができる。
2. 役職者の中に欠員が生じたときは次点者で補う。ただし、補欠役職者の任期は前任者の残りの期間とする。

(会議及び決議)

- 第8条 商議員会議において諸般の報告、決算、予算の決議その他必要な事項を決議する。議決内容及びその経緯につき議事録を作成し保存する。
2. 商議員会および幹事会は必要に応じて支部

長が招集する。

3. 商議員会および幹事会の決議は過半数の出席（委任状含む）と出席者の過半数の同意を必要とする。
4. 支部長は、所属する精密工学会正会員による支部総会を招集し、支部の活動状況、運営状況について報告しなければならない。その開催回数は、毎年度1回以上とする。

（事業計画及び事業報告）

第9条 支部長は本学会の事業年度ごとに、事業計画書、収支予算書、事業報告書、収支決算書および支部役職者名簿を理事会が指定した期日までに理事会に提出し、理事会の承認を得なければならない。

2. 支部の会計年度は、毎年2月1日に始まり、翌年1月31日に終了する。

第10条 支部の運営は、本学会から支給される支部活動運営費、支部講演会等事業の収入、および外部からの寄付金でまかなう。

2. 支部活動運営費の支給額は理事会で審議し決定する。
3. 支部は理事会の承認を得て、本学会に対する寄付を募ることができる。
4. 前項により受け入れた寄付金は、支部の運営のため使用することができる。

（その他）

第12条 この規定に定める事項の他、支部について必要な事項は、理事会が決める。

付 則

1. この規定は2010年3月17日より施行する。2010年1月理事会承認
2. 2012年1月20日理事会にて承認
3. 2012年11月16日理事会にて承認

5.3 支部賞規程

精密工学会東海支部賞規程

（支部賞の設立と目的）

第1条 精密工学会東海支部の活動に積極的に寄与し、本支部の発展に顕著な功績を示した個人に対して、精密工学会東海支部賞（以下「支部賞」と略す）を授与する。もって、支部活動の活性化を図るとともに、精密工学分野における学術活動ならびに実用化技

術開発の振興を促すことを目的とする。

（受賞者の資格）

第2条 支部賞を受ける資格は第1条に記す業績を有する東海支部所属の正会員もしくは賛助会員に属する個人とする。ただし、支部幹事会が特に認めた場合にはこの限りではない。

（表彰の件数）

第3条 当該年度の表彰件数は、原則として2件以内とする。

（選考方法）

第4条 受賞候補者を選考するために支部賞選考委員会（以下「選考委員会」と略す）を設置する。

2. 支部長が支部幹事の中から選考委員長を指名する。
3. 選考委員会は選考委員長が支部幹事の中から指名した委員で構成し、受賞候補者の選考を行う。
4. 選考委員会で推薦された候補者を支部幹事会の議を経て最終候補者とし、支部商議委員会に諮り決定する。

（表彰の方法）

第5条 表彰は支部長名により行い、受賞者に賞状を贈り表彰する。また、副賞（記念品）を贈ることができる。

2. 支部総会において表彰する。

（表彰の報告）

第6条 支部長は、受賞者および表彰内容について、本学会理事会に報告する。

（表彰に関する経費）

第7条 支部賞に係る諸経費は支部の経費より支出する。

（規程の変更）

第8条 この規程を変更しようとするときは、支部幹事会の議を経て、支部商議員会の承認を得なければならない。

付 則

この規程は、支部商議員会にて承認のあと、2013年3月5日から実施する。

5.4 支部の会員数の変遷

創立当初は、89名と100名に満たない会員数であったのが急伸を続け、平成4年度（創立40周年）に

はほぼ10倍の833名となり、平成5年度（第41期）に843名とピークを迎えた。その後、多少の増減を繰り返しながら全体として会員数が減少傾向に転じ、平成14年度（創立50周年）は672名、平成24年度（創立60周年）は610名、令和4年度（創立70周年）は467名であった。

5.5 支部の会計

創立当初において、支部の経費は主として本部からの補助金でまかなわれてきており、昭和45年（第18期）に支部規則第13条が、「支部の経費は寄付金および本部の補助金をもってこれに当てる。」から「支部の経費は本部の補助金および寄付金をもってこれに当てる。」に改正された。また、その期と時を同じくして、支出決算額が補助金を大きく上回ることとなった。さらに、昭和56年（第29期）よりは事業収入が支部収入の大半を占めることとなってきた。特に、昭和56年は本部創立50周年にあたり、支部でも協賛する形で会勢拡張が進められ、以降の会計規模の基礎となった。29期以降は、ほぼ200～300万円の会計規模であるが、32期には800万円近く、36期には約460万円となっている。これは、32期には発展事業に関する会計が470万円程度くみ込まれ、36期には3日にわたるサマーセミナーを実施

することにより300万円を越える収支があったことによる。32期、36期を除いた平年度における支出決算額は創立当初に比べ、約190倍となっている。これは、物価上昇もあるが、学会の進展を物語るものでもある。当支部の記念誌を発行した50期以降も会計規模は200～300万円程度で推移しており、支部活動を支える財政基盤の健全化を図るために、平成16年度（第52期）より「ものづくり実践講座」（現時点で6～8講座）を企画・運営し、毎年200万円程度の安定した収入の獲得に至っている。これによって、本部からの補助金と合わせて、支部事業の正常な運営に支障を来すことなく、総会、特別講演会、見学会などの活動を行うことができている。また、創立70周年記念事業（記念講演会・祝賀会、支部ホームページの刷新、各種コンテスト企画、記念誌発行）においても、これまでの積立金を運用することで、盛大に執り行うことができた。ただし、令和2年度（68期）以降は、コロナ禍の影響で、ものづくり実践講座の開催を自粛せざるを得なかったために支部の収益が大きく減少した。しかし、コロナ禍以前の常態に戻り、活動が完全に再開できれば、安定した収益が見込めることから、支部創立80周年に向けて財源の確保に努める。

表1 支部の会計

会期	年次	補助金	支出決算額	会期	年次	補助金	支出決算額
1	昭和28年	32,600	16,312	27	54	771,000	1,072,372
2	29	20,000	15,562	28	55	913,600	1,238,588
3	30	15,000	60,094	29	56	1,069,400	2,912,946
4	31	15,000	35,198	30	57	1,130,000	3,012,369
5	32	33,000	21,435	31	58	1,139,000	2,858,374
6	33	45,000	95,631	32	59	1,152,500	7,839,762
7	34	45,000	79,061	33	60	1,146,200	2,749,676
8	35	56,000	66,789	34	61	1,176,000	3,257,525
9	36	65,000	79,501	35	62	1,218,000	2,306,795
10	37	84,000	149,200	36	63	1,218,000	7,596,516
11	38	101,000	215,070	37	平成元年	1,570,000	2,219,794
12	39	114,000	146,573	38	2	1,478,000	2,467,042
13	40	165,000	144,975	39	3	1,479,000	2,668,699
14	41	172,000	191,598	40	4	1,444,000	2,346,187
15	42	208,000	183,550	41	5	1,502,530	2,683,234
16	43	203,000	245,828	42	6	1,552,090	2,169,805
17	44	264,000	349,786	43	7	1,343,210	2,326,863
18	45	270,000	625,988	44	8	1,549,640	2,830,355
19	46	290,000	666,222	45	9	1,503,020	2,318,309
20	47	288,000	462,425	46	10	1,546,280	2,417,915
21	48	368,000	523,902	47	11	1,549,400	2,558,765
22	49	440,000	325,640	48	12	1,510,890	2,621,880
23	50	523,000	582,328	49	13	1,477,860	3,202,716
24	51	525,400	791,868	50	14	1,493,210	13,095,814
25	52	637,200	974,310	51	15	1,449,320	2,548,307
26	53	754,300	1,377,521	52	16	1,524,817	2,368,014

会期	年次	補助金	支出決算額	会期	年次	補助金	支出決算額
53	17	1,481,838	2,322,923	62	26	1,247,000	2,713,848
54	18	1,476,274	2,642,572	63	27	1,172,000	3,238,832
55	19	1,345,000	3,330,257	64	28	1,327,000	3,075,645
56	20	2,028,000	5,105,946	65	29	1,321,000	2,718,969
57	21	1,661,000	3,407,348	66	30	1,265,000	2,716,543
58	22	2,077,000	19,875,804	67	令和元年	1,105,000	21,808,025
59	23	1,245,000	2,187,675	68	2	1,256,000	1,448,356
60	24	1,349,000	6,082,948	69	3	1,236,000	2,454,273
61	25	1,415,000	2,901,093	70	4	1,196,000	3,453,228

5.6 支部役員

支部役員数の規定は、商議員、幹事とも若干名となっており、初年度は支部長1、幹事7、商議員14で発足した。当初、幹事の分担は明記されなかったが、第4期に会計監査、昭和45年（第18期）における支部規則改正に伴い副支部長、庶務幹事、会計幹事が置かれた。事務局は当初は通産省名古屋工業技術試験所、その後に名古屋大学工学部機械工学教室内に置かれたため、上記常任幹事は名古屋工業技術試験所の太田英一、青木茂樹、伊藤正治、名古屋大学工学部機械学科の山口勝美、堤成晃、森敏彦の6氏が交替で努めた。なお、支部役員数の変遷を図3に示すが、前に記したように若干名の規定であり、会員数の増加、支部事業の拡充、分野の拡大、また、前支部長は自動的に商議員となる規定のために、第35期まではほぼ増加の一途をきたし、80名を越える役員数となった。この期に至って、当支部は他学会と比較して会員数の割に商議員が多く、商議員会を開催しても欠席者が多い等の弊害が出たため、規模の適正化が議論され、36期より大巾に減らされることとなった。幹事数は度々適正規模が見直され9名～22名の間で増減を繰り返し、最近ではほぼ25名前後で定着している。

最後に、歴代支部長をまとめて示す。第5期、第23期には支部長が途中より交替している。

支部役員数の規定は、商議員、幹事とも若干名となっており、初年度は支部長1、幹事7、商議員

14で発足した。当初、幹事の分担は明記されなかったが、第4期に会計監査（現、監事）、昭和45年（第18期）における支部規則改正に伴い副支部長、庶務幹事、会計幹事が置かれた。事務局は当初は通産省名古屋工業技術試験所、その後に名古屋大学工学部機械工学教室内に置かれたため、上記常任幹事は名古屋工業技術試験所の太田英一、青木茂樹、伊藤正治、名古屋大学工学部機械学科の山口勝美、堤成晃、森敏彦の6氏が交替で努めた。表2に歴代の支部役員を示す。なお、第5期、第23期には支部長が途中より交替している。前記したように支部役員数は若干名の規定ではあるが、会員数の増加、支部事業の拡充、精密工学の対象分野の拡大、また、前支部長は自動的に商議員となる規定であったために、第35期まではほぼ増加の一途をたどり、80名を越える役員数となった。この期に至って、当支部は他学会と比較して会員数に占める商議員の割合が多く、商議員会を開催しても欠席者が多い等の弊害が生じたため、規模の適正化が議論され、36期より現在の規模（60名程度）に見直すこととなった。また、幹事数についても適正規模が適宜見直され9～22名の間で増減を繰り返し、最近ではほぼ25名前後で定着している。なお、事務局が名古屋大学工学部内に置かれた後は、23期より庶務幹事は名古屋大学の幹事が務めていたが、60期より他機関の幹事も庶務幹事として支部の運営に参画する体制となっている。

表2 精密工学会東海支部各期役員

会期	年次	支部長 副支部長	商議員（○：幹事、◎庶務幹事、□：会計幹事、△：会計監査）											
1	昭和28	久田 太郎	○井形 厚臣 川上 嘉市 久田 太郎	江見 節男 河本 章徳 藤井 義信	大隈 孝一 齊藤 信治	○岡井 弘 ○土井 静雄	○春日 保男 ○中野 幸久	○鹿取 一男 ○能登 鉄治						
2	29	久田 太郎	○井形 厚臣 ○春日 保男 ○中野 幸久 松尾 義人	○梅原 半二 ○鹿取 一男 長山 三男 安井 正義	江見 節男 川上 嘉市 ○能登 鉄治	○大隈 孝一 齊藤 信治 久田 太郎	○岡井 弘 島 千広 藤井 義信	○風間 一郎 ○土井 静雄 藤島亀太郎						

会期	年次	支 部 長 副 支 部	商議員 (○：幹事、◎庶務幹事、□：会計幹事、△：会計監査)								
3	30	荒 木 鶴 雄	荒木 鶴雄 ○風間 一郎 ○土井 静雄 藤島亀太郎	○井形 厚臣 ○春日 保男 ○中野 幸久 松尾 義人	○梅原 半二 ○鹿取 一男 長山 三男 安井 正義	江見 節男 川上 嘉市 ○能登 鉄治	大隈 孝一 齊藤 信治 久田 太郎	○岡井 弘 島 千広 藤井 義信			
4	31	土 井 静 雄	荒木 鶴雄 ○大隈 孝一 川上 嘉市 富田 環 ○成松 明寿 松尾 義人	○井形 厚臣 大沢 秀雄 北野多喜雄 友森 二郎 ○能登 鉄治 安井 正義	○石田健二郎 ○岡井 弘 ○斉藤 信治 長岡 德行 ○久田 太郎	岩波 健彦 風間 一郎 △島 千広 ○中野 平治 藤井 義信	梅原 半二 ○春日 保男 竹島 弘 ○中野 幸久 藤島亀太郎	江見 節男 ○鹿取 一男 土井 静雄 長山 三男 本田 熊夫			
5	32	久 田 太 郎 白 井 直 光	○荒木 鶴雄 大沢 秀雄 ○北野多喜雄 富田 環 ○成松 明寿 ○三井 寿雄	○井形 厚臣 ○岡井 弘 ○佐藤 申一 友森 二郎 ○能登 鉄治 ○茂木 吉治	石河 正満 風間 一郎 △島 千広 長岡 德行 久田 太郎 安井 正義	○石田健二郎 ○春日 保男 白井 直光 中野 平治 ○藤井 義信	岩波 健彦 鹿取 一男 竹島 弘 ○中野 幸久 本田 熊夫	○梅原 半二 川上 源一 土井 静雄 永嶺 源吾 松尾 義人			
6	33	白 井 直 光	○荒木 鶴雄 大沢 秀雄 ○北野多喜雄 竹島 弘 中野 平治 本田 熊夫	○井形 厚臣 ○岡井 弘 榑 秀信 ○土井 静雄 ○中野 幸久 松尾 義人	石河 正満 風間 一郎 ○佐藤 申一 富田 環 永嶺 源吾 ○三井 寿雄	○石田健二郎 ○春日 保男 △島 千広 友森 二郎 ○成松 明寿 ○茂木 吉治	岩波 健彦 鹿取 一男 白井 直光 長岡 振吉 ○能登 鉄治 安井 友七	○梅原 半二 川上 源一 ○鈴木 幸雄 長岡 德行 ○藤井 義信			
7	34	井 形 厚 臣	○荒木 鶴雄 ○梅原 半二 鹿取 一男 白井 直光 友森 二郎 ○能登 鉄治 ○茂木 吉治	井形 厚臣 大沢 秀雄 川上 源一 鈴木 昭郎 長岡 振吉 藤井 正一 安井 友七	石河 正満 ○岡井 弘 ○北野多喜雄 鈴木 俊三 長岡 德行 ○藤井 義信	○石田健二郎 岡屋 精二 榑 秀信 ○鈴木 幸雄 中野 平治 ○本田 熊夫	岩岡 次郎 加治慶之助 ○佐藤 申一 ○土井 静雄 ○中野 幸久 松尾 義人	○岩波 健彦 ○春日 保男 △島 千広 ○富田 環 永嶺 源吾 ○三井 寿雄			
8	35	荒 木 鶴 雄	荒木 鶴雄 ○梅原 半二 ○鹿取 一男 △島 千広 友森 二郎 ○成松 明寿 ○三井 寿雄	井形 厚臣 大沢 秀雄 川上 源一 ○白井 直光 長岡 振吉 ○能登 鉄治 ○茂木 吉治	石河 正満 ○岡井 弘 北野 純 鈴木 俊三 長岡 德行 藤井 正一 持田 勇吉	○石田健二郎 岡屋 精二 ○北野多喜雄 ○鈴木 幸雄 中野 平治 ○藤井 義信 安井 友七	岩岡 次郎 加治慶之助 榑 秀信 ○土井 静雄 ○中野 幸久 ○本田 熊夫	○岩波 健彦 ○春日 保男 ○佐藤 知雄 ○富田 環 永嶺 源吾 松尾 義人			
9	36	藤 井 義 信	荒木 鶴雄 ○岩波 健彦 加治慶之助 榑 秀信 富田 環 永嶺 源吾 ○本田 熊夫 ○山田 国男	井形 厚臣 ○梅原 半二 ○春日 保男 △島 千広 友森 二郎 ○成松 明寿 松尾 義人	○飯島喜太郎 大沢 秀雄 鹿取 一男 ○白井 直光 ○長岡 振吉 ○能登 鉄治 ○三井 寿雄	石河 正満 岡井 弘 北野 純 鈴木 俊三 長岡 德行 藤井 正一 ○茂木 吉治	○石田健二郎 岡屋 精二 北野多喜雄 ○鈴木 幸雄 中野 平治 藤井 義信 ○持田 勇吉	岩岡 次郎 小野 俊 栗本 道彦 土井 静雄 ○中野 幸久 ○古田 久一 ○安井 友七			
10	37	岡 井 弘	朝倉 行一 岩岡 次郎 小野 俊 近藤 甚蔵 鈴木 俊三 長岡 德行 ○本田 熊夫 ○山田 国男	荒木 鶴雄 岩波 健彦 ○春日 保男 榑 秀信 鈴木 幸雄 中野 平治 松尾 義人	○飯島喜太郎 梅原 半二 鹿取 一男 篠宮 茂 土井 静雄 ○中野 幸久 ○三井 寿雄	井形 厚臣 大沢 秀雄 北野 純 △島 千広 富田 環 ○能登 鉄治 ○茂木 吉治	石河 正満 岡井 弘 ○北野多喜雄 白井 直光 友森 二郎 藤井 義信 持田 勇吉	○石田健二郎 岡屋 精二 ○栗本 道彦 菅 富一 長岡 振吉 古田 久一 安井 友七			

会期	年次	支 部 長 副 支 部 長	商 議 員 (○：幹事、◎庶務幹事、□：会計幹事、△：会計監査)						
11	38	鹿 取 一 男	浅井 留吉 岩岡 次郎 小野 俊 ○栗本 道彦 △島 千広 友森 二郎 能登 鉄治 持田 勇吉	朝倉 行一 ○岩波 健彦 ○春日 保男 近藤 甚蔵 白井 直光 ○長岡 振吉 藤井 義信 山田 国男	荒木 鶴雄 梅原 半二 鹿取 一男 榊 秀信 ○杉本 正司 長岡 德行 古田 久一	○飯島喜太郎 ○江木 芳郎 貴田 勝造 篠田米三郎 鈴木 俊三 中野 平治 松尾 義人	井形 厚臣 大沢 秀雄 北野 純 篠宮 茂 ○鈴木 幸雄 ○中野 幸久 水谷 二郎	○石田健二郎 岡井 弘 ○北野多喜雄 ○島田 正雄 土井 静雄 仁礼 義信 ○三井 寿雄	
12	39	島 千 広	朝倉 行一 岩岡 次郎 岡井 弘 北野 純 篠田米三郎 ○杉本 正司 中野 平治 古田 久一 持田 勇吉	浅井 留吉 △岩波 健彦 岡田 俊一 ○北野多喜雄 篠宮 茂 ○鈴木 幸雄 ○中野 幸久 松尾 義人 山田 国男	荒木 鶴雄 梅原 半二 ○春日 保男 ○栗本 道彦 ○島田 正雄 土井 静雄 根本 文夫 水谷 二郎	○飯島喜太郎 ○江木 芳郎 鹿取 一男 近藤 甚蔵 島 千広 友森 二郎 ○能登 鉄治 ○三井 寿雄	井形 厚臣 大沢 秀雄 岸田 寿朗 榊 秀信 白石順一郎 永井 嘉吉 樋口 重彦 武藤 七郎	○石田健二郎 大森 淳夫 貴田 勝造 塩田 茂 白井 直光 ○長岡 振吉 藤井 義信 長岡 德行	
13	40	三 井 寿 雄	○浅井 留吉 岩波 健彦 ○加藤 由美 木戸 義一 篠宮 茂 杉本 正司 長岡 振吉 松尾 義人 ○山田 国男	浅川 七平 梅原 半二 兼岩 金弥 ○栗本 道彦 ○島田 正雄 ○鈴木 憲二 長岡 德行 水谷 二郎	朝倉 行一 大沢 秀雄 岸田 寿朗 近藤 甚蔵 島 千広 ○鈴木 幸雄 中野 平治 三井 寿雄	○栗野 泰吉 大森 淳夫 貴田 勝造 榊 秀信 白石順一郎 筒井 清治 中野 幸久 武藤 七郎	飯島喜太郎 岡田 俊一 北野 純 ○佐藤 敏一 白木 武 友森 二郎 能登 鉄治 ○村瀬善三郎	○石田健二郎 ○春日 保男 北野多喜雄 篠田米三郎 ○杉浦 隆一 永井 嘉吉 古田 久一 持田 勇吉	
14	41	杉 本 正 司	○浅井 留吉 ○石田健二郎 岡田 俊一 貴田 勝造 榊 秀信 ○杉浦 隆一 長岡 振吉 松尾 義人 ○山田 国男	浅川 七平 ○岩波 健彦 ○春日 保男 北野 純 ○佐藤 敏一 杉本 正司 長岡 德行 水谷 二郎	朝倉 行一 梅原 半二 ○加藤 仁 北野多喜雄 篠田米三郎 ○鈴木 憲二 中野 平治 三井 寿雄	○栗野 泰吉 大沢 秀雄 △加藤 由美 木戸 義一 ○島田 正雄 ○鈴木 幸雄 中野 幸久 武藤 七郎	飯島喜太郎 小野 俊 兼岩 金弥 ○栗本 道彦 白石順一郎 友森 二郎 能登 鉄治 村上 一男	井口 一男 大森 淳夫 岸田 寿朗 小出 鏡一 白木 武 永井 嘉吉 古田 久一 ○村瀬善三郎	
15	42	中 野 幸 久	○浅井 留吉 ○石田健二郎 大野 賢二 ○加藤 由美 栗田 肇 ○佐藤 敏一 ○鈴木 幸雄 長岡 德行 能登 鉄治 村上 一男	朝倉 行一 井藤 正照 大森 淳夫 鹿取 一男 ○栗本 道彦 篠田米三郎 立道 有年 ○中野 平治 藤井 義信 ○村瀬善三郎	荒木 鶴雄 稻葉 道次 岡井 弘 岸田 寿朗 ○黒石 亮平 ○島田 正雄 土井 静雄 中野 幸久 古田 久一 △山田 国男	○栗野 康吉 ○岩波 健彦 岡田 俊一 貴田 勝造 小出 鏡一 島 千広 友森 二郎 仲 正男 水谷 二郎	○飯島喜太郎 梅原 半二 ○春日 保男 北野多喜雄 紅村 正 杉本 正司 永井 嘉吉 成美 清隆 三井 寿雄	井口 一男 大沢 秀雄 ○加藤 仁 木戸 義一 榊 秀信 鈴木 憲二 長岡 振吉 西田 恒男 武藤 七郎	

会期	年次	支 部 長 副 支 部	商 議 員 (○：幹事、◎庶務幹事、□：会計幹事、△：会計監査)						
16	43	岩 波 健 彦	○浅井 留吉 稲葉 道次 岡田 俊一 貴田 勝造 黒石 亮平 篠田米三郎 千藤 猛 長岡 振吉 成美 清隆 水谷 二郎	荒木 鶴雄 岩波 健彦 ○春日 保男 北野 芳蔵 小出 鏡一 ○島田 正雄 高村 正一 長岡 德行 △西田 恒男 三井 寿雄	栗野 泰吉 大沢 秀雄 加藤 仁 北野多喜雄 紅村 正 島 千広 立道 有年 中野 平治 野口 正秋 武藤 七郎	飯島喜太郎 ○太田 英一 ○加藤 由美 木戸 義一 榊 秀信 杉本 正司 土井 静雄 中野 信 藤井 義信 村上 一男	○石田健二郎 大森 淳夫 河口 勘次 栗田 肇 佐藤 申一 ○鈴木 憲二 友森 二郎 中野 幸久 藤城 郁哉 ○村瀬善三郎	井藤 正照 岡井 弘 岸田 寿朗 栗本 道彦 沢田 義明 鈴木 幸雄 永井 嘉吉 仲 正男 松崎 沢二 山田 国男	
17	44	春 日 保 男	○浅井 留吉 稲葉 道次 岡田 俊一 木戸 義一 榊 秀信 杉本 正司 土井 静雄 中野 信 藤井 義信 ○村瀬善三郎	荒木 鶴雄 岩波 健彦 春日 保男 栗田 肇 佐藤 申一 鈴木 憲二 友森 二郎 中野 幸久 藤城 郁哉 山田 国男	栗野 泰吉 大沢 秀雄 ○加藤 仁 黒石 亮平 ○沢田 義明 ○鈴木 幸雄 永井 嘉吉 仲 正男 松崎 沢二	飯島喜太郎 ○太田 英一 河口 勘次 小出 鏡一 篠田米三郎 千藤 猛 ○長岡 振吉 成美 清隆 水谷 二郎	○石田健二郎 大森 淳夫 岸田 寿朗 紅村 正 ○島田 正雄 高村 正一 長岡 德行 ○西田 恒男 三井 寿雄	井藤 正照 岡井 弘 北野 芳蔵 △小山金次郎 島 千広 立道 有年 中野 平治 野口 正秋 武藤 七郎	
18	45	石 田 健二郎 (副支部長) 西 田 恒 男	□青木 茂樹 井藤 正照 春日 保男 北野 芳蔵 斎藤 長男 島 千広 ○立道 有年 長岡 振吉 仲 正男 △松崎 沢二	浅井 留吉 稲葉 道次 ○加藤 仁 ◎木戸 義一 榊 秀信 杉本 正司 寺島 道彦 長岡 德行 成美 清隆 武藤 七郎	荒木 鶴雄 岩波 健彦 加藤 容三 ○栗田 肇 佐藤 申一 鈴木 憲二 土井 静雄 中瀬 隆夫 西田 恒男 ○村瀬善三郎	○栗野 泰吉 大沢 秀雄 河合 望 黒石 亮平 ○沢田 義明 ○鈴木 幸雄 東岡 卓三 中野 平治 野口 正秋 山田 国男	飯島喜太郎 ◎太田 英一 河口 勘次 紅村 正 篠田米三郎 千藤 猛 友森 二郎 中野 信 三井 寿雄	石田健二郎 岡井 弘 岸田 寿朗 ○小山金次郎 ○島田 正雄 高村 正一 永井 嘉吉 中野 幸久 藤城 郁哉	
19	46	石 田 健二郎 (副支部長) 西 田 恒 男	□青木 茂樹 稲葉 道次 岡井 弘 岸田 寿朗 紅村 正 ○島田 正雄 高村 正一 永井 嘉吉 中野 幸久 三井 寿雄	荒木 鶴雄 上田 康 春日 保男 北野 芳蔵 ○小山金次郎 島 千広 立道 有年 長岡 振吉 仲 正男 ○村瀬善三郎	○栗野 泰吉 上田 康 ○加藤 仁 鬼頭 初末 斎藤 長男 杉本 正司 △寺島 道彦 長岡 德行 成美 清隆 安井 義一	○飯島喜太郎 大石 清 加藤 容三 ○木戸 義一 榊 秀信 鈴木 憲二 土井 静雄 中瀬 隆夫 西田 恒男 安島 洋三	石田健二郎 大沢 秀雄 河合 望 ○栗田 肇 ○沢田 義明 ○鈴木 幸雄 東岡 卓三 ○中野 平治 野口 正秋 山田 国男	井藤 正照 ◎太田 英一 河口 勘次 黒石 亮平 篠田米三郎 千藤 猛 友森 二郎 中野 幸男 藤城 郁哉	
20	47	加 藤 仁 (副支部長) 斎 藤 長 男	□青木 茂樹 岩波 健彦 春日 保男 北野 芳蔵 ○小山金次郎 ○沢田 義明 鈴木 幸雄 △寺島 道彦 中瀬 隆夫 野口 正秋 安井 義一	荒木 鶴雄 上田 康 加藤 仁 鬼頭 初末 近藤 秀一 篠田米三郎 千藤 猛 土井 静雄 中野 平治 羽中田映夫 山本 敏男	○栗野 泰吉 ○大石 清 ○加藤 容三 ○木戸 義一 斎藤 長男 ○島田 正男 高井 増市 東岡 卓三 中野 幸男 藤城 郁哉	○飯島喜太郎 ○太田 英一 ○河合 望 ○栗田 肇 財満 鎮雄 島 千広 高村 正一 友森 二郎 中野 幸久 三井 寿雄	石田健二郎 岡井 弘 河口 勘次 黒石 亮平 坂崎 勝彦 杉本 正司 立道 有年 長岡 振吉 成美 清隆 三輪 政司	稲葉 道次 小野 俊 河本 章徳 紅村 正 桜井 博 ○鈴木 憲二 勅使 晴夫 長岡 德行 ○西田 恒男 ○村瀬善三郎	

会期	年次	支 部 長 副 支 部 長	商議員 (○：幹事、◎庶務幹事、□：会計幹事、△：会計監査)							
21	48	島 田 正 雄 (副支部長) 村 瀬 善三郎	□青木 茂樹 稲葉 道次 小野 俊 河本 章徳 紅村 正 坂崎 勝彦 杉本 正司 立道 有年 中瀬 隆夫 藤城 郁哉 山本 敏男	荒木 鶴雄 岩波 健彦 春日 保男 北野 芳蔵 ○小林 朗 桜井 博 ○鈴木 憲二 勅使 晴夫 中野 平治 松本 淳	○栗野 泰吉 上田 康 加藤 仁 鬼頭 初末 ○小山金次郎 ○沢田 義明 鈴木 幸雄 土井 静雄 中野 幸男 三井 寿雄	○飯島喜太郎 ○大石 清 ○加藤 容三 ○木戸 義一 近藤 秀一 椎名 敏夫 千藤 猛 東岡 卓三 △西田 恒男 ○三輪 政司	石田健二郎 ○太田 英一 ○河合 望 ○栗田 肇 ○斎藤 長男 島田 正雄 高井 増市 長岡 振吉 野口 正秋 村瀬善三郎	井藤 正照 岡井 弘 河口 勘次 ○黒石 亮平 財満 鎮雄 島 千広 高村 正一 長岡 德行 羽中田映夫 安井 義一		
22	49	斎 藤 長 男 (副支部長) 河 合 望	□青木 茂樹 稲葉 道次 小野 俊 河本 章徳 黒石 亮平 坂崎 勝彦 島 千広 立道 有年 中野 平治 松本 淳	荒木 鶴雄 岩波 健彦 春日 保男 北野 芳蔵 小林 朗 桜井 博 杉本 正司 勅使 晴夫 中野 幸男 三井 寿雄	○栗野 泰吉 上田 康 ○加藤 仁 鬼頭 初末 ○小山金次郎 ○佐藤 芳久 ○鈴木 憲二 土井 静雄 △西田 恒男 ○三輪 政司	○飯島喜太郎 ○大石 清 ○加藤 容三 木戸 義一 近藤 秀一 ○沢田 義明 千藤 猛 東岡 卓三 野口 正秋 ◎村瀬善三郎	石田健二郎 ◎太田 英一 河合 望 木原 清博 斎藤 長男 椎名 敏夫 高井 増市 長岡 振吉 ○菱田 健夫 安井 義一	井藤 正照 岡井 弘 ○河口 勘次 ○栗田 肇 財満 鎮雄 島田 正雄 高村 正一 中瀬 隆夫 藤城 郁哉		
23	50	栗 野 泰 吉 (副支部長) → (支部長) 佐 藤 芳 久	○青木 茂樹 伊藤 哲朗 □太田 英一 ○河口 勘次 日下部 猛 斎藤 長男 ○沢田 義明 千藤 猛 長岡 振吉 ○菱田 健夫 三井 寿雄	新井 智一 井藤 正照 岡井 弘 河本 章徳 ○楠 兼敬 財満 鎮雄 椎名 敏夫 高井 増市 中瀬 隆夫 平田 三郎 ○三輪 政司	荒木 鶴雄 稲葉 道次 春日 保男 北野 芳蔵 ○栗田 肇 坂崎 勝彦 島田 正雄 立道 有年 中野 平治 藤城 郁哉 ○村瀬善三郎	栗野 泰吉 岩波 健彦 ○加藤 仁 ○喜多 春雄 黒石 亮平 桜井 博 島 千広 ◎堤 成晃 中野 幸男 ○船橋 鉦一 安井 義一	飯島喜太郎 上田 康 ○加藤 容三 鬼頭 初末 小林 朗 ○佐藤 文雄 杉本 正司 勅使 晴夫 △西田 恒男 ○増井 敏郎 山口 勝美	石田健二郎 遠藤甲子男 ○河合 望 木原 清博 近藤 秀一 佐藤 芳久 ○鈴木 憲二 東岡 卓三 長谷川武彦 松本 淳 山中 正		
24	51	村 瀬 善三郎 (副支部長) 沢 田 義 明	○青木 茂樹 井藤 正照 春日 保男 北野 芳蔵 日下部 猛 財満 鎮雄 椎名 敏夫 千藤 猛 長岡 振吉 ○菱田 健夫 三井 寿雄 山中 正	新井 智一 稲葉 道次 加藤 仁 ○喜多 春雄 ○楠 兼敬 坂崎 勝彦 島田 正雄 高井 増市 中瀬 隆夫 平田 三郎 ○三輪 政司	荒木 鶴雄 岩波 健彦 加藤 容三 鬼頭 初末 ○栗田 肇 桜井 博 島 千広 立道 有年 中野 平治 藤城 郁哉 村瀬善三郎	飯島喜太郎 上田 康 ○河合 望 木原 清博 小林 朗 ○佐藤 文雄 杉本 正司 ○堤 成晃 中野 幸男 ○船橋 鉦一 安井 義一	石田健二郎 □太田 英一 ○河口 勘次 ○木村 尚 近藤 秀一 佐藤 芳久 ○鈴木 憲二 勅使 晴夫 西田 恒男 ○増井 敏郎 柳沢 猛	△伊藤 哲朗 岡井 弘 河本 章徳 木村 浩哉 ○斎藤 長男 沢田 義明 鈴木 秀雄 東岡 卓三 長谷川武彦 松本 淳 ◎山口 勝美		

会期	年次	支 部 長 副 支 部 長	商 議 員 (○：幹事、◎庶務幹事、□：会計幹事、△：会計監査)						
25	52	菱 田 健 夫 (副支部長) 太 田 英 一	□青木 茂樹 稲葉 道次 ○加藤 仁 鬼頭 初末 ○栗田 肇 坂埼 勝彦 島 千広 ○堤 成晃 中野 幸男 ○船橋 鉦一 柳沢 猛	新井 智一 岩波 健彦 加藤 容三 木原 清博 小林 朗 桜井 博 杉本 正司 勅使 晴夫 橋本 致明 ○増井 敏郎 ◎山口 勝美	荒木 鶴雄 上田 康 ○河合 望 ○木村 尚 近藤 一義 ○佐藤 文雄 鈴木 秀雄 東岡 卓三 長谷川武彦 松本 淳 山中 正	飯島喜太郎 太田 英一 ○河口 勘次 木村 浩哉 近藤 秀一 ○佐藤 芳久 ○千藤 猛 長岡 振吉 菱田 健夫 ○三輪 政司 和田 龍児	△伊藤 哲朗 岡井 弘 河本 章徳 ○日下部 猛 ○斎藤 長男 沢田 義明 高井 増市 中瀬 隆夫 平田 三郎 村瀬善三郎	井藤 正照 春日 保男 ○喜多 春雄 ○楠 兼敬 財満 鎮雄 島田 正雄 立道 有年 中野 平治 藤城 郁哉 安井 義一	
26	53	楠 兼 敬 (副支部長) 栗 田 肇	□青木 茂樹 飯島喜太郎 ○太田 英一 ○加藤 容三 ○日下部 猛 小林 朗 ○佐藤 文雄 ○千藤 猛 長岡 振吉 藤城 郁哉 ○三輪 政司 渡辺 俊弥	浅井 達矢 伊藤 哲朗 大塚 隆之 兼松 弘 楠 兼敬 近藤 一義 ○佐藤 芳久 立道 有年 中瀬 隆夫 藤田 修一 ○村瀬善三郎 和田 龍児	○阿部 彦俊 井藤 正照 岡井 弘 ○河合 望 喜多 春雄 近藤 秀一 島田 正雄 田中 光一 中野 幸男 ○船橋 鉦一 安井 義一	阿部山尚三 稲葉 道次 岡野 威 ○河口 勘次 久野精市郎 斎藤 長男 島 千広 ◎堤 成晃 橋本 致明 ○増井 敏郎 柳沢 猛	新井 智一 乾 昇 春日 保男 ○木村 尚 栗田 肇 財満 鎮雄 杉本 正司 勅使 晴夫 長谷川武彦 松本 淳 ○山口 勝美	荒木 鶴雄 岩波 健彦 ○加藤 仁 木村 浩哉 小西 竜郎 桜井 博 鈴木 秀雄 東岡 卓三 ○服部 正三 牧野 弘 村瀬善三郎	○伊藤 哲朗 大塚 隆之 兼松 弘 ○日下部 猛 近藤 一義 佐藤 芳久 ○立道 有年 中瀬 隆夫 福岡 貞三 松本 淳 ○山口 勝美
27	54	佐 藤 文 雄 (副支部長) 増 井 敏 郎	□青木 茂樹 井藤 正照 岡井 弘 ○河合 望 楠 兼敬 近藤 秀一 島田 正雄 田中 光一 中野 幸男 藤城 郁哉 真野 育三 山中 正	浅井 達矢 稲葉 道次 岡野 威 ○河口 勘次 久野精市郎 斎藤 長男 島 千広 ◎堤 成晃 橋本 致明 藤田 修一 水野 高爾 渡辺 俊弥	阿部山尚三 乾 昇 春日 保男 喜多 春雄 ○栗田 肇 ○財満 鎮雄 杉本 正司 勅使 晴夫 長谷川武彦 ○船橋 鉦一 ○三輪 政司 和田 龍児	新井 智一 岩波 健彦 ○加藤 仁 ○木村 尚 小西 竜郎 桜井 博 鈴木 秀雄 東岡 卓三 ○服部 正三 牧野 弘 村瀬善三郎	荒木 鶴雄 ○太田 英一 ○加藤 容三 木村 浩哉 小林 朗 佐藤 文雄 ○千藤 猛 長岡 振吉 菱田 健夫 増井 敏郎 柳沢 猛	伊藤 哲朗 大塚 隆之 兼松 弘 ○日下部 猛 近藤 一義 佐藤 芳久 ○立道 有年 中瀬 隆夫 福岡 貞三 松本 淳 ○山口 勝美	
28	55	財 満 鎮 雄 (副支部長) 木 村 尚	□青木 茂樹 井藤 正照 梅原 半二 ○加藤 仁 木村 尚 小林 朗 桜井 博 鈴木 秀雄 勅使 晴夫 長谷川武彦 藤田 修一 ○松本 淳 山口 勝美	浅井 達矢 稲葉 道次 ○太田 英一 ○加藤 容三 ○木村 浩哉 近藤 一義 △佐藤 文雄 千藤 猛 東岡 卓三 ○服部 正三 ○船橋 鉦一 真野 育三 山中 正	阿部山尚三 乾 昇 大塚 隆之 兼松 弘 日下部 猛 近藤 秀一 佐藤 芳久 多賀巴三雄 長岡 振吉 菱田 健夫 ○牧野 弘 水野 高爾 和田 龍児	新井 智一 岩波 健彦 岡井 弘 ○河合 望 楠 兼敬 ○齐田 義幸 島田 正雄 立道 有年 ○中瀬 隆夫 福岡 貞三 ○増井 敏郎 三輪 政司	荒木 鶴雄 ○植松 芳郎 ○岡野 威 ○河口 勘次 久野精市郎 斎藤 長男 島 千広 田中 光一 中野 幸男 福村 直慧 松影 泰三 村瀬善三郎	○伊藤 哲朗 内田 広顕 春日 保男 喜多 春雄 ○栗田 肇 財満 鎮雄 杉本 正司 ◎堤 成晃 橋本 致明 藤城 郁哉 松林 恒雄 柳沢 猛	

会期	年次	支 部 長 副 支 部 長	商議員 (○：幹事、◎庶務幹事、□：会計幹事、△：会計監査)									
29	56	栗 田 肇 (副支部長) 木 村 浩 哉	○青木 茂樹 井藤 正照 梅原 半二 ○加藤 容三 △木村 尚 小林 朗 桜井 博 鈴木 秀雄 勅使 晴夫 長谷川 武彦 藤城 郁哉 松本 淳 ○山口 勝美	浅井 達矢 稲葉 道次 □太田 英一 ○兼松 弘 木村 浩哉 ○近藤 一義 佐藤 文雄 千藤 猛 東岡 卓三 花井 優 ○船橋 鉦一 真野 育三 山中 正	阿部山尚三 乾 昇 大塚 隆之 ○河合 望 日下部 猛 近藤 秀一 佐藤 芳久 多賀巳三雄 長岡 振吉 菱田 健夫 星 鐵太郎 水野 高爾 ○和田 龍児	新井 智一 岩波 健彦 ○岡野 威 ○河口 勘次 楠 兼敬 ○斉田 義幸 島田 正雄 ○立道 有年 中瀬 隆夫 ○平田 清 ○牧野 弘 三輪 政司	荒木 鶴雄 ○植松 芳郎 春日 保男 喜多 春雄 久野精市郎 斎藤 長男 島 千広 田中 光一 中野 幸男 ○福岡 貞三 ○増井 敏郎 村瀬善三郎	○伊藤 哲朗 内田 広顕 ○加藤 仁 木原 清博 栗田 肇 財満 鎮雄 杉本 正司 ◎堤 成晃 橋本 致明 福村 直慧 松影 泰三 柳沢 猛				
30	57	木 村 尚 (副支部長) 船 橋 鉦 一	阿部山尚三 稲葉 道次 梅原 半二 兼松 弘 ○木村 浩哉 小林 朗 財満 鎮雄 鈴木 秀雄 勅使 晴夫 花井 優 ○藤城 郁哉 真野 育三 山口 一彦	○青木 茂樹 乾 昇 □太田 英一 河合 望 日下部 猛 ○近藤 一義 桜井 博 千藤 猛 東岡 卓三 菱田 健夫 船橋 鉦一 水野 高爾 ○山口 勝美	新井 智一 犬塚 幸男 大塚 隆之 ○河口 勘次 楠 兼敬 ○近藤 静 佐藤 文雄 多賀巳三雄 長岡 振吉 平田 清 ○星 鐵太郎 三輪 政司 山中 正	泉沢 正郎 岩瀬 郁雄 春日 保男 喜多 春雄 久野精市郎 近藤 秀一 島田 正雄 ○立道 有年 中瀬 隆夫 ○平野 幸久 ○牧野 弘 村瀬善三郎 ○渡辺 俊弥	伊藤 哲朗 岩波 健彦 ○加藤 仁 木原 清博 熊沢 猛彦 ○斉田 義幸 島 千広 田中 光一 橋本 致明 ○福岡 貞三 ○増井 敏郎 森 敏彦 和田 龍児	井藤 正照 内田 弘顕 ○加藤 容三 木村 尚 栗田 肇 斎藤 長男 杉本 正司 ◎堤 成晃 長谷川 武彦 福村 直慧 松影 泰三 柳沢 猛				
31	58	加 藤 容 三 (副支部長) 斉 田 義 幸	○青木 茂樹 乾 昇 □太田 英一 河合 望 日下部 猛 ○近藤 静 佐藤 文雄 千藤 猛 東岡 卓三 林 泰造 ○藤城 郁哉 松影 泰三 柳沢 猛	新井 智一 犬塚 幸男 大塚 隆之 ○河口 勘次 楠 兼敬 近藤 秀一 島田 正雄 多賀巳三雄 長岡 振吉 菱田 健夫 藤田 修一 真野 育三 山口 一彦	泉沢 正郎 岩瀬 郁雄 春日 保男 喜多 春雄 久野精市郎 斉田 義幸 島 千広 ○立道 有年 中瀬 隆夫 △平田 清 ○船橋 鉦一 水野 高爾 ○山口 勝美	○伊藤 哲朗 岩波 健彦 ○加藤 仁 木村 篤良 ○栗田 肇 斎藤 長男 杉下 潤二 田中 光一 橋本 致明 ○平野 幸久 ○星 鐵太郎 三輪 政司 山中 正	井藤 正照 内田 弘顕 加藤 容三 木村 尚 小林 朗 財満 鎮雄 杉本 正司 ◎堤 成晃 長谷川 武彦 ○福岡 貞三 ○牧野 弘 村瀬善三郎 ○渡辺 俊弥	稲葉 道次 梅原 半二 兼松 弘 ○木村 浩哉 ○近藤 一義 桜井 博 鈴木 秀雄 勅使 晴夫 花井 優 福村 直慧 ○増井 敏郎 森 敏彦 和田 龍児				
32	59	木 村 浩 哉 (副支部長) 藤 城 郁 哉	○青木 茂樹 井藤 正照 ○植松 芳郎 岡野 威 喜多 春雄 久野精市郎 ○斉田 義幸 杉下 潤二 田中 俊二 橋本 致明 ○平野 幸久 ○船橋 鉦一 三輪 政司 ○渡辺 俊弥	○荒井 伸治 稲葉 道次 内田 弘顕 春日 保男 木村 篤良 久保田 保 斎藤 長男 杉本 正司 ◎堤 成晃 服部 秀三 福岡 貞三 ○星 鐵太郎 村瀬善三郎 和田 龍児	新井 智一 乾 昇 梅原 半二 ○加藤 仁 木村 尚 ○栗田 肇 桜井 博 鈴木 秀雄 勅使 晴夫 花井 優 福村 直慧 ○増井 敏郎 森 敏彦	泉沢 正郎 犬塚 幸男 大河内禎一 加藤 容三 木村 浩哉 小林 朗 佐藤 文雄 千藤 猛 東岡 卓三 ○林 泰造 ○藤井 洋 松影 泰三 柳沢 猛	伊藤 正治 △岩瀬 郁雄 □太田 英一 河合 望 日下部 猛 ○近藤 一義 島田 正雄 多賀巳三雄 長岡 振吉 菱田 健夫 藤城 郁哉 真野 育三 山口 一彦	伊藤 哲朗 岩波 健彦 ○太田 和宏 ○河口 勘次 楠 兼敬 ○近藤 静 島 千広 田中 光一 中瀬 隆夫 平田 清 藤田 修一 ○水野 高爾 ○山口 勝美				

会期	年次	支 部 長 副 支 部 長	商 議 員 (○：幹事、◎庶務幹事、□：会計幹事、△：会計監査)					
33	60	船 橋 鉦 一 (副支部長) 太 田 和 宏	青木 茂樹 井藤 正照 内田 弘顕 ○小木曾英雄 ○河口 勘次 楠 兼敬 ○斉田 義幸 杉下 潤二 多賀巴三雄 ○戸松 憲雄 菱田 健夫 藤田 修一 ○水野 高爾 和田 龍児	○荒井 伸治 乾 昇 梅原 半二 春日 保男 喜多 春雄 久野精市郎 斎藤 長男 杉本 正司 田中 光一 長岡 振吉 ○平野 幸久 船橋 鉦一 村瀬善三郎	新井 智一 犬塚 幸男 大河内禎一 加藤 忠 木村 篤良 久保田 保 桜井 博 ○杉山 昉 田中 俊二 中瀬 弥富 広野 雅道 ○星 鐵太郎 森 敏彦	泉沢 正郎 △岩瀬 郁雄 □太田 英一 ○加藤 仁 木村 尚 ○栗田 肇 佐藤 文雄 鈴木 秀雄 ◎堤 成晃 橋本 致明 福村 直慧 ○増井 敏郎 山口 一彦	○伊藤 正治 岩波 健彦 太田 和宏 加藤 容三 木村 浩哉 ○近藤 一義 島田 正雄 千藤 猛 勅使 晴夫 服部 秀三 ○藤井 洋 松影 泰三 ○山口 勝美	伊藤 哲朗 ○植松 芳郎 岡野 威 河合 望 日下部 猛 近藤 静 島 千広 高橋 徹 東岡 卓三 花井 優 ○藤城 郁哉 真野 育三 ○渡辺 敏昭
34	61	斉 田 義 幸 (副支部長) 山 口 勝 美	○青木 茂樹 井藤 正照 梅原 半二 春日 保男 木村 篤良 久保田 保 斎藤 長男 清水 紀彦 高橋 徹 東岡 卓三 服部 秀三 藤田 修一 ○水野 高爾 山口 勝美	○荒井 伸治 乾 昇 ○江草 友良 加藤 忠 木村 尚 ○栗田 肇 桜井 博 杉下 潤二 多賀巴三雄 ○戸松 憲雄 菱田 健夫 船橋 鉦一 宮津 雄 ○渡辺真一郎	新井 智一 犬塚 幸男 大河内禎一 ○加藤 仁 ○木村 浩哉 小林 政教 佐藤 文雄 杉本 正司 田中 俊二 長岡 振吉 ○平野 幸久 ○星 鐵太郎 村瀬善三郎 ○渡辺 敏昭	泉沢 正郎 岩波 健彦 太田 英一 加藤 容三 日下部 猛 ○近藤 一義 佐藤 芳久 ○杉山 昉 谷口 肇彦 中瀬 弥富 広野 雅道 ○増井 敏郎 森 敏彦 和田 龍児	□伊藤 正治 内田 弘顕 △太田 和宏 金子雄一郎 楠 兼敬 近藤 静 島田 正雄 鈴木 秀雄 ◎堤 成晃 ○西沢 芳信 ○藤井 洋 真野 育三 柳下 福蔵	伊藤 哲朗 内山 宏之 岡野 威 河合 望 久野精市郎 斉田 義幸 島 千広 千藤 猛 勅使 晴夫 橋本 致明 ○藤城 郁哉 丸井 悦男 山口 一彦
35	62	太 田 和 宏 (副支部長) 青 木 茂 樹	青木 茂樹 □伊藤 正治 内川 嘉樹 太田 和宏 金子雄一郎 楠 兼敬 近藤 静 島田 正雄 高橋 徹 ○戸松 憲雄 菱田 健夫 藤田 修一 ○水野 高爾 ◎山口 勝美	○青島 祥造 伊藤 哲朗 内田 弘顕 岡野 威 ○河合 望 久野精市郎 斉田 義幸 島 千広 高原 基彰 長岡 振吉 ○平野 幸久 船橋 鉦一 宮津 雄 ○吉田 建彦	△荒井 伸治 井藤 正照 内山 宏之 春日 保男 木村 篤良 久保田 保 斎藤 長男 清水 紀彦 多賀巴三雄 中瀬 弥富 広野 雅道 ○星 鐵太郎 村瀬善三郎 ○渡辺真一郎	新井 智一 乾 昇 梅原 半二 加藤 忠 木村 尚 ○栗田 肇 桜井 博 杉下 潤二 田中 俊二 ○西沢 芳信 ○藤井 洋 ○松田 孝 森 敏彦 ○渡辺 敏昭	泉沢 正郎 犬塚 幸男 大河内禎一 加藤 仁 木村 浩哉 小林 政教 佐藤 文雄 杉本 正司 谷口 肇彦 橋本 致明 ○藤江 秀雄 真野 育三 柳下 福蔵 和田 龍児	磯谷 智生 岩波 健彦 太田 英一 加藤 容三 日下部 猛 ○近藤 一義 佐藤 芳久 千藤 猛 ○堤 成晃 服部 秀三 ○藤城 郁哉 ○丸井 悦男 山口 一彦
36	63	藤 城 郁 哉 (副支部長) 高 原 基 彰	○青島 祥造 伊藤 重巳 岡野 威 木村 浩哉 小林 政教 ○高川 溥之 谷口 肇彦 服部 秀三 藤田 修一 水野 高爾 山口 一彦	○荒井 伸治 □伊藤 正治 加藤 忠 楠 兼敬 近藤 一義 高橋 徹 ○堤 成晃 ○平野 幸久 ○船橋 鉦一 宮津 雄 ◎山口 勝美	新井 透 内山 宏之 加藤 容三 久野精市郎 近藤 静 高原 基彰 ○戸松 憲雄 ○広瀬 徳雄 ○星 鐵太郎 毛利 尚武 ○吉田 建彦	泉沢 正郎 大井 司郎 金子雄一郎 久保 勝司 清水 紀彦 多賀巴三雄 中瀬 弥富 藤井 洋 ○松田 孝 森田 信義 和田 龍児	△磯谷 智生 大河内禎一 河合 望 久保田 保 ○杉下 潤二 田中 俊二 中村 保 ○藤江 秀雄 真野 育三 森 敏彦	五十君清司 ○太田 和宏 木村 篤良 小杉 隆 鈴木 秀雄 ○田中 勝 難波 義治 藤城 郁哉 ○丸井 悦男 柳下 福蔵

会期	年次	支 部 長 副 支 部 長	商 議 員 (○：幹事、◎庶務幹事、□：会計幹事、△：会計監査)							
37	平成元	高 原 基 彰 (副支部長) 堤 成 晃	○荒井 伸治 □伊藤 正治 金子雄一郎 久野精市郎 近藤 静 ○高川 溥之 谷口 肇彦 ○平野 幸久 ○船橋 鉦一 毛利 尚武 和田 龍児	新井 透 梅田 吉弘 上林 睦雄 久保 勝司 ○坂和 克明 高橋 徹 堤 成晃 ○広瀬 徳雄 ○星 鐵太郎 森田 信義	△磯谷 智生 大井 司郎 木村 篤良 久保田 保 清水 紀彦 高原 基彰 ○戸松 憲雄 ○藤井 洋 ○松田 孝 森 敏彦	五十君清司 大河内禎一 木村 浩哉 小杉 隆 ○杉下 潤二 ○館石 博道 中瀬 弥富 ○藤江 秀雄 丸井 悦男 柳下 福蔵	○伊東 章郎 岡野 威 清崎 茂 小林 政教 鈴木 秀雄 田中 俊二 中村 保 ○藤城 郁哉 水野 高爾 山口 一彦	伊藤 重巳 加藤 忠 楠 兼敬 近藤 一義 鈴木 康夫 ○田中 勝 難波 義治 藤田 修一 宮津 雄 ◎山口 勝美		
38	2	山 口 勝 美 (副支部長) 藤 江 秀 雄	○荒井 伸治 伊藤 重巳 大河内禎一 木村 浩哉 小林 政教 ○杉下 潤二 ○高原 基彰 ○中澤 浩 藤城 郁哉 毛利 尚武 和田 龍児	新井 透 □伊藤 正治 岡野 威 清崎 茂 近藤 一義 ○鈴木 聰 ○館石 博道 中瀬 弥富 ○藤本 英雄 森 敏彦	○井川 正治 井原 素三 岡村 鐘雄 楠 兼敬 久保 勝司 近藤 静 鈴木 秀雄 田中 俊二 中村 保 船橋 鉦一 柳下 福蔵	△磯谷 智生 内田 悦行 金子雄一郎 久保 勝司 ○坂和 克明 ○佐々木 彰 ○高川 溥之 ○田中 勝 ○谷口 肇彦 ◎堤 成晃 ○丸井 悦男 山口 一彦	○五十君津司 梅田 吉弘 上林 睦雄 久保田 保 ○藤江 秀雄 ○丸井 悦男 山口 勝美	○伊東 章郎 大井 司郎 木村 篤良 小杉 隆 清水 紀彦 高橋 徹 ◎堤 成晃 藤江 秀雄 宮津 雄 山中 寛一		
39	3	谷 口 肇 彦 (副支部長) 星 鐵太郎	新井 透 □伊藤 正治 金子雄一郎 久保 勝司 小林 政教 清水 紀彦 ○館石 博道 難波 義治 星 鐵太郎 柳下 福蔵 和田 龍児	○井川 正治 井原 素三 上林 睦雄 久保 高啓 近藤 一義 ○杉下 潤二 ○田中 俊二 ○藤井 洋 ○松原十三生 山内 烈	△磯谷 智生 内田 悦行 木村 篤良 久保田 保 近藤 静 ○鈴木 聰 谷口 肇彦 ○藤江 秀雄 丸井 悦男 山口 一彦	○五十君清司 梅田 吉弘 木村 浩哉 黒田 清 斎藤 静雄 鈴木 康夫 ◎堤 成晃 藤城 郁哉 宮津 雄 ○山口 勝美	○伊東 章郎 大井 司郎 清崎 茂 小杉 隆 ○坂和 克明 高橋 徹 中瀬 弥富 藤本 英雄 ○毛利 尚武 山中 寛一	伊藤 重巳 岡村 鐘雄 楠 兼敬 ○小林 和彦 ○佐々木 彰 ○高原 基彰 中野 欣一 船橋 鉦一 ○森 敏彦 ○渡辺 敏昭		
40	4	堤 成 晃 (副支部長) 館 石 博 道	井川 正治 打田 元美 上林 睦雄 久保田 保 近藤 静 鈴木 康夫 堤 成晃 藤井 洋 ○増田 義久 ◎森 敏彦 和田 龍児	△磯谷 智生 内田 悦行 本村 篤良 ○黒田 清 斎藤 静雄 高橋 徹 中瀬 弥富 ○藤江 秀雄 ○松田 孝 柳下 福蔵	○五十君清司 梅田 吉弘 木村 浩哉 ○小林 明彦 佐々木 彰 ○高原 基彰 中野 欣一 藤城 郁哉 ○松原十三生 ○山口 一彦	○伊東 章郎 大久保忠規 清崎 茂 ○小林 和彦 清水 紀彦 館石 博道 難波 義治 藤本 英雄 ○丸井 悦男 ○山口 勝美	伊藤 重巳 岡村 鐘雄 久保 勝司 小林 政教 ○蛇川 忠暉 ○谷口 肇彦 橋本 淳 船橋 鉦一 宮津 雄 山中 寛一	□伊藤 正治 金子雄一郎 久保 高啓 近藤 一義 ○鈴木 聰 ○土屋加津彦 林 靖享 ○星 鐵太郎 ○毛利 尚武 ○渡辺 敏昭		

会期	年次	支 部 長 副 支 部 長	商議員 (○：幹事、◎庶務幹事、□：会計幹事、△：会計監査)						
41	5	蛇 川 忠 暉 (副支部長) 松 原 十三生	○井川 正治 打田 元美 上林 陸雄 ○小林 明発 斎藤 静雄 ○鈴木 聰 谷口 肇彦 ○藤井 洋 松原十三生 柳下 福蔵	○五十君清司 内田 悦行 木村 篤良 小林 和彦 ○坂和 克明 鈴木 隆充 ○土屋加津彦 ○藤江 秀雄 丸井 悦男 ○山口 一彦	○伊東 章郎 梅田 吉弘 清崎 茂 小林 政教 佐々木 彰 ○鈴木 康夫 ○堤 成晃 藤城 郁哉 水口 忠一 ○山口 勝美	伊藤 重巳 大久保忠規 久保 勝司 近藤 一義 佐藤 貞雄 高橋 徹 中野 欣一 船橋 鉦一 宮津 雄 ○山中 寛一	□伊藤 正治 岡村 鐘雄 久保 高啓 近藤 静 清水 紀彦 △高原 基彰 ○難波 義治 星 鐵太郎 ○毛利 尚武 ○渡辺 敏昭	稲村豊四郎 川瀬 陽象 久保田 保 ○斎藤 重信 蛇川 忠暉 ○館石 博道 ○林 靖享 松田 孝 ◎森 敏彦 和田 龍児	
42	6	松 原 十三生 (副支部長) 山 口 一 彦	○井川 正治 打田 元美 川瀬 陽象 久保田 保 ○斎藤 重信 ○鈴木 聰 谷口 肇彦 ○林 靖享 松田 孝 宮津 雄 渡辺 和美	○五十君清司 内田 悦行 上林 陸雄 ○小林 明発 斎藤 静雄 鈴木 隆充 ○都築 良彦 藤井 洋 松田 文夫 ○毛利 尚武 渡辺 敏昭	伊東 章郎 ○梅田 吉弘 木村 篤良 小林 和彦 佐々木 彰 ○鈴木 康夫 ○堤 成晃 ○藤江 秀雄 松原十三生 ◎森 敏彦 和田 龍児	伊藤 重巳 大久保忠規 清崎 茂 小林 政教 佐藤 貞雄 高橋 徹 ○露木 和雄 藤城 郁哉 ○松本 和男 柳下 福蔵	□伊藤 正治 大野 正直 久保 勝司 近藤 一義 清水 紀彦 △高原 基彰 中野 欣一 藤本 英雄 ○丸井 悦男 山口 一彦	稲村豊四郎 ○緒方 誠夫 久保 高啓 近藤 静 蛇川 忠暉 ○田中 博 ○難波 義治 ○星 鐵太郎 水口 忠一 ○山口 勝美	
43	7	星 鐵太郎 (副支部長) 田 中 博	○井川 正治 内田 悦行 木村 篤良 小林 政教 佐藤 一雄 鈴木 隆充 ○都築 良彦 ○難波 義治 ○松原十三生 ○毛利 尚武 渡辺 和美	○五十君清司 ○梅田 吉弘 清崎 茂 近藤 一義 佐藤 貞雄 ○鈴木 康夫 堤 淳雄 ○藤井 洋 ○松本 和男 ◎森 敏彦 和田 龍児	伊藤 重巳 ○大野 正直 久保 高啓 近藤 静 柴田 輝彦 妹尾 允史 ○堤 成晃 藤本 英雄 ○真鍋 鷹男 柳下 福蔵	□伊藤 正治 ○緒方 誠夫 久保田 保 ○斎藤 重信 清水 紀彦 高橋 徹 ○露木 和雄 星 鐵太郎 丸井 悦男 △山口 一彦	稲村豊四郎 ○川瀬 陽象 ○小林 明発 斎藤 静雄 蛇川 忠暉 高原 基彰 中野 欣一 松田 孝 水口 忠一 ○山口 勝美	打田 元美 上林 陸雄 小林 和彦 佐々木 彰 ○鈴木 聰 田中 博 中村 寿 松田 文夫 宮津 雄 ○山田 正俊	
44	8	松 本 和 男 (副支部長) 藤 井 洋	○井川 正治 打田 元美 上林 陸雄 小林 和彦 佐藤 一雄 妹尾 允史 堤 成晃 ○花木 義磨 ○松原十三生 ○毛利 尚武 吉見 良一	○五十君清司 内田 悦行 木村 篤良 小林 政教 柴田 輝彦 高橋 徹 ○露木 和雄 藤井 洋 松本 和男 ◎森 敏彦 渡辺 和美	伊藤 重巳 ○梅田 吉弘 清崎 茂 近藤 一義 蛇川 忠暉 高原 基彰 ○露木 迪 藤本 英雄 ○真鍋 鷹男 ○柳下 福蔵 和田 龍児	□伊藤 正治 ○大野 正直 久保 高啓 近藤 静 ○鈴木 聰 田中 博 長江 昭充 ○星 鐵太郎 丸井 悦男 △山口 一彦	稲村豊四郎 ○緒方 誠夫 久保田 保 近藤隆一郎 鈴木 隆充 ○都築 良彦 中野 欣一 松田 孝 水口 忠一 ○山口 勝美	井下 輝昭 川瀬 陽象 ○小林 明発 佐々木 彰 ○鈴木 康夫 堤 淳雄 ○難波 義治 松田 文夫 宮津 雄 ○山田 正俊	

会期	年次	支 部 長 副 支 部 長	商 議 員 (○：幹事、◎庶務幹事、□：会計幹事、△：会計監査)						
45	9	藤 井 洋 (副支部長) 都 築 良 彦	○井川 正治 打田 元美 ○大村 博彦 久保田 保 佐藤 一雄 妹尾 允史 長江 昭充 ○花木 義磨 松田 文夫 ○毛利 尚武 渡辺 和美	○五十君清司 内田 悦行 ○緒方 誠夫 ○小林 明発 佐藤 豊 高原 基彰 中野 欣一 藤井 洋 松原十三生 ◎森 敏彦	伊藤 重己 ○梅田 吉弘 川瀬 陽象 小林 政教 柴田 輝彦 田中 博 中村 貞行 ○藤田 滋 松本 和男 ○柳下 福蔵	□伊藤 正治 海野 邦彦 上林 睦雄 近藤 一義 蛇川 忠暉 ○土屋総二郎 ○中村 柁雄 藤本 英雄 丸井 悦男 △山口 一彦	○稲村豊四郎 ○大泉 敏郎 清崎 茂 近藤隆一郎 鈴木 隆充 都築 良彦 ○難波 義治 ○星 鐵太郎 水口 忠一 ○山口 勝美	井下 輝昭 ○大野 正直 久保 高啓 佐々木 彰 ○鈴木 康夫 堤 淳雄 ○西沢 隆志 松田 孝 宮津 雄 ○山田 正俊	
46	10	山 口 一 彦 (副支部長) 松 田 孝	○五十君清司 内田 悦行 加藤 由人 ○小林 明発 佐藤 豊 ○土屋総二郎 ○中村 柁雄 ○藤田 滋 松田 孝 宮津 雄 ○山下 菊丈	伊藤 重己 梅田 吉弘 川瀬 陽象 小林 博人 杉原 晋 △都築 良彦 中本 剛 藤本 英雄 松田 文夫 ○毛利 尚武	□伊藤 正治 海野 邦彦 上林 睦雄 ○近藤 猛男 ○鈴木 清右 堤 淳雄 ○難波 義治 星 鐵太郎 松原十三生 ◎森 敏彦	○稲村豊四郎 ○大泉 敏郎 清崎 茂 近藤隆一郎 鈴木 康夫 寺井 康晴 ○西沢 隆志 洞口 巖 松本 和男 ○柳下 福蔵	井下 輝昭 ○大野 正直 久保 高啓 佐々木 彰 妹尾 允史 長江 昭充 ○花木 義磨 ○堀内 宰 丸井 悦男 山口 一彦	打田 元美 ○緒方 誠夫 久保田 保 佐藤 一雄 田中 博 ○中村 貞行 ○藤井 洋 ○松居 正夫 水口 忠一 ○山口 勝美	
47	11	松 田 孝 (副支部長) 花 木 義 磨	○五十君清司 内田 悦行 上村伸治郎 小林 博人 佐本 芳正 田中 博 ○永滝真太郎 丹羽小三郎 洞口 巖 ○松原十三生 ◎森 敏彦 ○山下 菊丈	□伊藤 正治 梅田 吉弘 川瀬 陽象 ○近藤 猛男 杉原 晋 ○土屋総二郎 中村 貞行 花井 嶺郎 ○堀内 宰 馬庭 国男 森本 義隆 米田 孝夫	稲村豊四郎 ○大野 正直 上林 睦雄 近藤隆一郎 杉山 豊 △都築 良彦 中村 柁雄 花木 義磨 本多 昭雄 丸井 悦男 ○毛呂 俊夫	井上 昭史 ○緒方 誠夫 清崎 茂 佐々木 彰 ○鈴木 清右 寺井 康晴 中本 剛 ○藤井 洋 ○松居 正夫 宮津 雄 ○柳下 福蔵	井下 輝昭 加藤 由人 久保田 保 佐藤 一雄 鈴木 康夫 長江 昭充 ○難波 義治 ○藤本 英雄 松田 孝 村上 良彦 ○山口 一彦	打田 元美 金子 透 ○小林 明発 佐藤 豊 妹尾 允史 中田 和彦 西沢 隆志 星 鐵太郎 松田 文夫 ○毛利 尚武 ○山口 勝美	
48	12	花 木 義 磨 (副支部長) 難 波 義 治	○五十君清司 内田 悦行 久保田 保 ○佐藤 一雄 妹尾 允史 長江 昭充 丹羽小三郎 洞口 巖 馬庭 国男 ○毛呂 俊夫	□伊藤 正治 ○大野 正直 ○小林 明発 佐藤 豊 田中 博 永滝真太郎 花井 嶺郎 ○堀内 宰 丸井 悦男 ○柳下 福蔵	稲村豊四郎 ○緒方 誠夫 小林 博人 佐本 芳正 ○土屋総二郎 中村 貞行 花木 義磨 ○松居 正夫 ○村上 良彦 ○山下 菊丈	井上 昭史 加藤 由人 ○近藤 猛男 杉原 晋 △都築 良彦 中本 剛 ○藤井 洋 ○松田 孝 毛利 尚武 米田 孝夫	井下 輝昭 金子 透 近藤隆一郎 杉山 豊 寺井 康晴 難波 義治 ○藤本 英雄 ○松田 文夫 ◎森 敏彦	打田 元美 上村伸治郎 佐々木 彰 鈴木 康夫 中田 和彦 西沢 隆志 星 鐵太郎 ○松原十三生 森本 義隆	

会期	年次	支 部 長 副 支 部 長	商議員 (○：幹事、◎庶務幹事、□：会計幹事、△：会計監査)						
49	13	難 波 義 治 (副支部長) 大 野 正 直	○五十君清司 大塚 二郎 加藤 由人 ○小林 明発 佐本 芳正 寺井 康晴 中本 剛 ○花木 義磨 洞口 巖 ○村上 良彦 米田 孝夫	稲村豊四郎 大野 正直 金子 透 ○近藤 猛男 杉原 晋 富川 和人 難波 義治 ○原田 浩史 ○堀内 宰 ◎森 敏彦	井上 昭史 大平 順二 ○兼松 涉 近藤隆一郎 ○鈴木 康夫 長江 昭充 西沢 隆志 ○東 正毅 ○松居 正夫 森本 義隆	井下 輝昭 ○小野田 誠 上村伸治郎 佐々木 彰 高橋 裕 中田 和彦 ○丹羽小三郎 野飼 亨 ○藤井 洋 ○松原十三生 毛呂 俊夫	打田 元美 笠井 直臣 北川 剛弘 ○佐藤 一雄 田中 博 中村 貞行 花井 嶺郎 星 鐵太郎 丸井 悦男 山下 菊丈	内田 悦行 勝野 春夫 久保田 保 佐藤 豊 △都築 良彦 中村 隆 花井 嶺郎 星 鐵太郎 丸井 悦男 山下 菊丈	
50	14	井 川 正 治 (副支部長) 佐 藤 一 雄	相沢 直樹 打田 元美 笠井 直臣 久保田 保 佐本 芳正 ○都築 良彦 中村 隆 野飼 亨 洞口 巖 森 敏彦	伊澤 守康 内田 悦行 勝野 春夫 ○小林 明発 杉原 晋 寺井 康晴 ◎中本 剛 花井 嶺郎 ○堀内 宰 ○毛呂 俊夫	○五十君清司 大塚 二郎 金井 厚雄 ○近藤 猛男 鈴木 浩文 ○富川 和人 ○梨木 政行 ○原田 浩史 ○松居 正夫 ○柳下 福蔵	○稲村豊四郎 ○大野 正直 ○兼松 涉 近藤隆一郎 ○鈴木 康夫 ○長江 昭充 ○難波 義治 ○東 正毅 馬庭 国男 山下 菊丈	井上 昭史 大平 順二 上村伸治郎 佐々木 彰 高橋 裕 中田 和彦 西沢 隆志 ○藤井 洋 丸井 悦男 米田 孝夫	井下 輝昭 ○小野田 誠 北川 剛弘 佐藤 豊 田中 博 中村 貞行 ○丹羽小三郎 藤本 英雄 ○村上 良彦	
51	15	佐 藤 一 雄 (副支部長) 土 屋 総二郎	相沢 直樹 井上 孝司 笠井 直臣 北川 剛弘 佐藤 一雄 鈴木 浩文 ○長江 昭充 西沢 隆志 藤本 英雄 ○丸井 悦男 米田 孝夫	井川 正治 打田 元美 勝野 春夫 久保田 保 佐藤 豊 ○鈴木 康夫 中田 和彦 ○丹羽小三郎 古橋 秀夫 ○村上 良彦	伊澤 守康 ○内村 浩 加藤 隆雄 ○小林 明発 佐本 芳正 高橋 裕 中村 貞行 野飼 亨 洞口 巖 森 敏彦	○五十君清司 △大野 正直 金井 厚雄 ○近藤 猛男 ○社本 英二 田中 博 中村 隆 ○服部 親将 ○堀内 宰 ○柳下 福蔵	○稲村豊四郎 大平 順二 ○兼松 涉 近藤隆一郎 杉原 晋 土屋総二郎 ○梨木 政行 原田 浩史 益田 正 山崎 謙一	井上 昭史 ○小野田 誠 上村伸治郎 佐々木 彰 ○鈴木 俊雄 寺井 康晴 ○難波 義治 ○東 正毅 馬庭 国男 □山下 菊丈	
52	16	土 屋 総二郎 (副支部長) 稲 村 豊四郎	伊澤 守康 ○内村 浩 金井 厚雄 ○小林 明発 ○重富 邦夫 高橋 裕 ○難波 義治 ○原田 浩史 洞口 巖 ○村上 良彦	○五十君清司 △大野 正直 ○兼松 涉 ○近藤 猛男 ◎社本 英二 土屋総二郎 西沢 隆志 ○東 正毅 ○堀内 宰 森 敏彦	稲村豊四郎 大平 順二 上村伸治郎 佐々木 彰 ○杉原 晋 寺井 康晴 ○丹羽小三郎 樋野 励 益田 正 ○柳下 福蔵	井上 昭史 笠井 直臣 北川 剛弘 ○佐藤 一雄 ○鈴木 俊雄 ○長江 昭充 野飼 亨 藤本 英雄 間瀬 隆 山崎 謙一	井上 孝司 勝野 春夫 久保田 保 佐藤 豊 ○鈴木 康夫 中田 和彦 ○服部 親将 古橋 秀夫 馬庭 国男 □山下 菊丈	打田 元美 ○加藤 隆雄 小池 信康 佐本 芳正 住田 克彦 中村 隆 羽生田智紀 細谷 隆志 丸井 悦男 米田 孝夫	
53	17	大 野 正 直 (副支部長) 稲 村 豊四郎	浅倉 秀和 打田 元美 加藤 隆雄 ○小林 明発 ○鈴木 俊雄 中島 常博 野飼 亨 古橋 秀夫 ○丸井 悦男 □山下 菊丈	伊澤 守康 ○内村 浩 金井 厚雄 佐々木 彰 ○鈴木 康夫 中田 和彦 ○服部 親将 細谷 隆志 △村上 良彦 ○山本 修司	○五十君清司 梅原 徳次 ○兼松 涉 ○佐藤 一雄 住田 克彦 中村 隆 羽生田智紀 洞口 巖 室井 國昌 ○米田 孝夫	稲村豊四郎 大野 正直 上村伸治郎 佐藤 豊 瀬藤 晴雄 ○難波 義治 ○原田 浩史 ○堀内 宰 ○森 雅彦	井上 孝司 大平 順二 北川 剛弘 ○重富 邦夫 高橋 裕 西沢 隆志 ○東 正毅 益田 正 ○柳下 福蔵	上田 廣隆 笠井 直臣 小池 信康 ◎社本 英二 ○長江 昭充 西村 正彦 藤本 英雄 間瀬 隆 山崎 謙一	

会期	年次	支 部 長 副 支 部 長	商 議 員 (○：幹事、◎庶務幹事、□：会計幹事、△：会計監査)							
54	18	稲 村 豊四郎 (副支部長) 小 林 明 発	伊澤 守康 ○内村 浩 小林 明発 ○重富 邦夫 ○住田 克彦 中村 隆 袴田 雅彦 洞口 巖 ○森 雅彦 ○山本 秀彦	伊藤 俊治 ○梅原 徳次 酒井 克彦 柴田 隆行 瀬藤 晴雄 ○中村 守 羽生田智紀 ○堀内 宰 ○柳下 福蔵 ○米田 孝夫	稲村豊四郎 笠井 直臣 佐々木 彰 ◎社本 英二 高橋 裕 ○難波 義治 ○原田 浩史 益田 正 山口 幸男	井上 孝司 加藤 隆雄 佐々木一衛 ○鈴木 実平 ○辻 裕之 西沢 隆志 ○東 正毅 水島 寿之 山崎 謙一	○上田 廣隆 北川 剛弘 佐藤 一雄 ○鈴木 俊雄 ○長江 昭充 西村 正彦 藤本 英雄 ○村上 泰三 □山下 菊丈	打田 元美 小池 信康 佐藤 昌彦 ○鈴木 康夫 中田 和彦 野田 純孝 古橋 秀夫 △村上 良彦 ○山本 修司		
55	19	小 林 明 発 (副支部長) 長 江 昭 充	伊澤 守康 内山 直樹 小池 信康 ○佐藤 一雄 ○鈴木 実平 長江 昭充 野田 純孝 古橋 秀夫 △村上 良彦	伊藤 俊治 ◎梅原 徳次 小林 明発 ○佐藤 昌彦 ○鈴木 俊雄 中田 和彦 袴田 雅彦 洞口 巖 ○柳下 福蔵	○稲村豊四郎 ○大岩 孝彰 ○斎藤 賢宏 ○重富 邦夫 ○住田 克彦 中村 隆 羽生田智紀 益田 正 山崎 謙一	井上 孝司 笠井 直臣 酒井 克彦 ○重松 一典 瀬藤 晴雄 ○難波 義治 ○東 正毅 水島 寿之 □山下 菊丈	打田 元美 加藤 隆雄 佐々木 彰 ○柴田 隆行 高橋 裕 西沢 隆志 ○藤嶋 誠 ○村上 正一 ○山本 秀彦	○内村 浩 北川 剛弘 佐々木一衛 社本 英二 ○辻 裕之 西村 正彦 藤本 英雄 ○村上 泰三 ○米田 孝夫		
56	20	長 江 昭 充 (副支部長) 東 正 毅	井沢 守安 打田 元美 笠井 直臣 ○斎藤 賢宏 ○鈴木 実平 ○辻 裕之 西澤 隆志 藤本 英雄 ○村上 正一 ○山本 秀彦	◎伊藤 敦 ○内村 浩 加藤 隆雄 酒井 克彦 ○鈴木 俊雄 鳥居 昭宏 西村 正彦 洞口 巖 △村上 良彦 ○米田 孝夫	伊藤 利治 内山 直樹 金丸 允昭 ○佐藤 一雄 ○住田 克彦 中田 和彦 野田 純孝 ○堀 康德 ○村木 俊之	伊藤 点 ◎梅原 徳次 川端 隆司 佐藤 誠 瀬藤 晴雄 長江 昭充 袴田 雅彦 益田 正 ○柳下 福蔵	◎稲村豊史郎 ○大岩 孝彰 小池 信康 ○柴田 隆行 高橋 裕 中村 隆 羽生田智紀 三浦憲二郎 山崎 謙一	井上 隆 ○皆見 章行 ○小林 明発 社本 英二 ○高山 直士 ○難波 義治 東 正毅 水島 寿之 □山下 菊丈		
57	21	東 正 毅 (副支部長) 米 田 孝 夫	□浅尾 文博 井上 孝司 ○大岩 孝彰 ○小林 明発 社本 英二 ○辻 裕之 西澤 隆志 洞口 巖 山崎 謙一	伊澤 守康 ○岩本 晃二 ○皆見 章行 ○斎藤 賢宏 ○鈴木 実平 鳥居 昭宏 西村 正彦 ○堀 康德 ○山崎 靖崇	○伊藤 敦 打田 元美 加藤 隆雄 酒井 克彦 ○鈴木 俊雄 ○長江 昭充 羽生田智紀 益田 正 ○山本 秀彦	伊藤 俊治 △内村 浩 金丸 允昭 ○相良 誠 ○住田 克彦 中田 和彦 東 正毅 三浦憲二郎 米田 孝夫	伊藤 天 内山 直樹 川端 隆司 ○佐藤 一雄 高橋 裕 中村 隆 福井 隆光 水島 寿之 山崎 靖崇	○稲村豊四郎 ◎梅原 徳次 倉 隆之 ○柴田 隆行 ○高山 直士 ○難波 義治 藤本 英雄 望月 哲		
58	22	米 田 孝 夫 (副支部長) 中 村 隆	□浅尾 文博 稲村豊四郎 ○大岩 孝彰 ○相良 誠 住田 克彦 中田 和彦 芳賀 卓 三浦憲二郎 米田 孝夫	伊澤 守康 井上 孝司 ○皆見 章行 ○佐藤 一雄 高橋 裕 中村 隆 羽生田智紀 村田 邦彦 若澤 靖記	市野 直志 ○岩本 晃二 加藤 隆雄 ○柴田 隆行 ○高山 直士 ○難波 義治 ○東 正毅 望月 哲	○伊藤 敦 ○内村 浩 金丸 允昭 社本 英二 ○辻 裕之 西澤 隆志 福井 隆光 山崎 謙一	伊藤 俊治 内山 直樹 ○小林 明発 ○鈴木 実平 鳥居 昭宏 西村 正彦 ○堀 康德 ○山崎 靖崇	伊藤 天 ◎梅原 徳次 酒井 克彦 △鈴木 俊雄 ○長江 昭充 ○二段 章 益田 正 ○山本 秀彦		

会期	年次	支 部 長 副 支 部 長	商 議 員 (○：幹事、◎庶務幹事、□：会計幹事、△：会計監査)									
59	23	中 村 隆 (副支部長) 堀 康 徳	□浅尾 文博 ○内村 浩 加藤 隆雄 ○柴田 隆行 ○高山 直士 ○難波 義治 羽生田智紀 三浦憲二郎 若澤 靖記	伊澤 守康 内山 直樹 金丸 允昭 社本 英二 ○辻 裕之 西澤 隆志 林 義光 村田 邦彦 渡辺 公寿	市野 直志 ◎梅原 徳次 ○小林 明彦 ○鈴木 実平 鳥居 昭宏 西村 正彦 ○藤尾三紀夫 望月 哲	○伊藤 敦 浦島 和浩 酒井 克彦 △鈴木 俊雄 ○長江 昭充 ○二段 章 ○古谷 克司 山崎 謙一	伊藤 俊治 ○大岩 孝彰 ○佐藤 一雄 ○鈴木 延明 中田 和彦 芳賀 卓 堀 康徳 ○山本 秀彦	井上 孝司 ○皆見 章行 佐野 明人 高橋 裕 中村 隆 ○羽生 博之 益田 正 ○米田 孝夫				
60	24	堀 康 徳 (副支部長) 山 本 秀 彦	□浅尾 文博 ○梅原 徳次 ○小久保光典 社本 英二 ○高山 直士 西川 昌宏 羽生田智紀 益田 正 山本 秀彦	○伊藤 敦 浦島 和浩 酒井 克彦 ○鈴木 実平 ○辻 裕之 西澤 隆志 羽田 芳智 松本 洋 ○米田 孝夫	伊藤 俊治 遠藤 進 ○佐藤 一雄 △鈴木 俊雄 鳥居 昭宏 西村 正彦 ○藤尾三紀夫 三浦憲二郎 若澤 靖記	井上 孝司 ○大岩 孝彰 佐藤 光俊 ○鈴木 延明 ○中島 淑岳 ○二段 章 ○古谷 克司 ○村木 俊之	○植竹 伸二 奥村 成史 佐野 明人 ○鈴木 浩文 中田 和彦 芳賀 卓 ○ベトロスA 望月 哲	内山 直樹 加藤 隆雄 ◎柴田 隆行 高橋 裕 ○中村 隆 ○羽生 博之 堀 康徳 森光 英樹				
61	25	山 本 秀 彦 (副支部長) 鈴 木 俊 雄	青木 涉 内山 直樹 加藤 隆雄 佐野 明人 ○鈴木 浩文 ○中島 淑岳 芳賀 卓 ○古谷 克司 望月 哲	□浅尾 文博 ○梅原 徳次 河田 圭一 ◎柴田 隆行 高橋 裕 中田 和彦 ○秦 誠一 ○ベトロスA 森光 英樹	○家城 淳 浦島 和浩 ○小久保光典 社本 英二 ○高山 直士 ○中村 隆 ○羽生 博之 益田 正 山口 和幸	○伊藤 敦 浦島 和浩 酒井 克彦 ○鈴木 実平 ○辻 裕之 西川 昌宏 羽生田智紀 三浦憲二郎 山本 秀彦	井上 孝司 ○岡田 伸彦 ○佐藤 一雄 鈴木 俊雄 鳥居 昭宏 西澤 隆志 羽田 芳智 村上 良彦 ○米田 孝夫	○植竹 伸二 奥村 成史 佐藤 光俊 △鈴木 延明 永井 亨 西村 正彦 ○藤尾三紀夫 ○村木 俊之 若澤 靖記				
62	26	鈴 木 俊 雄 (副支部長) 社 本 英 二	青木 涉 ○植竹 伸二 奥村 成史 佐藤 光俊 ○鈴木 浩文 ○中島 淑岳 芳賀 卓 ○古谷 克司 望月 哲 若澤 靖記	□浅尾 文博 内山 直樹 河田 圭一 佐野 明人 高橋 裕 中田 和彦 ○秦 誠一 ○ベトロスA 森光 英樹	○家城 淳 浦島 和浩 ○小久保光典 ◎柴田 隆行 ○高山 直士 ○中村 隆 ○羽生 博之 益田 正 山口 和幸	○伊藤 敦 浦島 和浩 奥水 大和 社本 英二 ○辻 裕之 西川 昌宏 羽生田智紀 三浦憲二郎 山田 貴孝	○伊藤 裕章 ○大岩 孝彰 酒井 克彦 ○鈴木 実平 鳥居 昭宏 西澤 隆志 羽田 芳智 村上 良彦 ○山本 秀彦	井上 孝司 ○岡田 伸彦 ○佐藤 一雄 鈴木 俊雄 永井 亨 西村 正彦 ○藤尾三紀夫 △村木 俊之 ○米田 孝夫				
63	27	社 本 英 二 (副支部長) 辻 裕 之	青木 涉 ○植竹 伸二 河田 圭一 ○酒井 茂次 社本 英二 鳥居 昭宏 ○秦 誠一 ○ベトロスA 山田 貴孝	□浅尾 文博 内山 直樹 木村 嘉浩 坂本 由夫 ○鈴木 実平 永井 亨 ○羽生 博之 三浦憲二郎 ○山本 秀彦	○家城 淳 浦島 和浩 ○小久保光典 ○佐藤 一雄 ○鈴木 浩文 ○中島 淑岳 羽生田智紀 村上 良彦 ○湯澤 隆	○伊藤 敦 浦島 和浩 奥水 大和 佐藤 光俊 高橋 裕 ○中村 隆 羽田 芳智 △村木 俊之 ○米田 孝夫	○伊藤 裕章 ○大岩 孝彰 後藤 昭弘 佐野 明人 ○竹内慎太郎 西村 正彦 ○藤尾三紀夫 森光 英樹 若澤 靖記	井上 孝司 奥村 成史 酒井 克彦 ◎柴田 隆行 辻 裕之 芳賀 卓 ○古谷 克司 山口 和幸				

会期	年次	支 部 長 副 支 部 長	商 議 員 (○：幹事、◎庶務幹事、□：会計幹事、△：会計監査)									
64	28	辻 裕 之 (副支部長) 大 岩 孝 彰	青木 涉 ○伊藤 裕章 奥村 成史 酒井 克彦 ○柴田 隆行 ○谷尾 雅之 ○秦 誠一 ○ペトロスA 山口 和幸 若澤 靖記	浅尾 文博 井上 孝司 河田 圭一 ○酒井 浩一 社本 英二 辻 裕之 ○羽生 博之 □松本 章宏 ○山田 貴孝	○家城 淳 内山 直樹 木村 嘉浩 ○酒井 茂次 鈴木 実平 鳥居 昭宏 羽田 芳智 三浦憲二郎 山本 章	板津 武志 ○梅原 徳次 ○小久保光典 坂本 由夫 ○鈴木 浩文 永井 亨 ○藤尾三紀夫 村上 良彦 山本 秀彦	◎糸魚川文広 浦島 和浩 興水 大和 ○佐藤 一雄 ○高橋 裕 中村 隆 藤原 正尚 △村木 俊之 ○湯澤 隆	○伊藤 敦 大岩 孝彰 後藤 昭弘 佐藤 光俊 ○高平 幹樹 西村 正彦 ○古谷 克司 森光 英樹 ○米田 孝夫				
65	29	大 岩 孝 彰 (副支部長) 酒 井 茂 次	青木 涉 井上 孝司 河田 圭一 ○酒井 浩一 ○鈴木 浩文 永井 亨 ○羽生 博之 □松本 章宏 ○山田 貴孝	浅尾 文博 内山 直樹 木村 嘉浩 酒井 茂次 ○千田 治光 中西 栄徳 ○藤尾三紀夫 三浦憲二郎 山本 章	○板津 武志 ○梅原 徳次 ○小久保光典 坂本 由夫 ○高橋 裕 中村 隆 藤原 正尚 村上 良彦 山本 秀彦	◎糸魚川文広 大岩 孝彰 興水 大和 ○佐藤 一雄 ○谷尾 雅之 西村 正彦 ○古谷 克司 △村木 俊之 ○湯澤 隆	○伊藤 敦 沖田 俊一 後藤 昭弘 ○柴田 隆行 ○辻 裕之 二ノ宮康弘 ○ペトロスA 森光 英樹 ○米田 孝夫	○伊藤 裕章 奥村 成史 酒井 克彦 社本 英二 鳥居 昭宏 ○秦 誠一 舞田 徹哉 ○山田 篤史 若澤 靖記				
66	30	酒 井 茂 次 (副支部長) 梅 原 徳 次	青木 涉 ○伊藤 裕章 沖田 俊一 酒井 克彦 ○佐藤 一雄 田中 浩 中村 隆 ○古谷 克司 村上 良彦 ○湯澤 隆	浅尾 文博 井上 孝司 奥村 成史 酒井 健司 ○柴田 隆行 ○谷尾 雅之 西村 正彦 ○ペトロスA △村木 俊之 若澤 靖記	石川 哲三 岩崎 誠 河田 圭一 ○酒井 浩一 社本 英二 ○辻 裕之 二ノ宮康弘 舞田 徹哉 森光 英樹	○板津 武志 内山 直樹 ○小久保光典 酒井 茂次 ○鈴木 浩文 ○辻村 桂司 ○秦 誠一 ○前田 利長 ○山田 篤史	◎糸魚川文広 梅原 徳次 興水 大和 坂本 由夫 永井 亨 西村 正彦 ○藤尾三紀夫 □松本 章宏 ○山田 貴孝	○伊藤 敦 ○大岩 孝彰 後藤 昭弘 佐藤 海二 ○高橋 裕 中西 栄徳 藤原 正尚 三浦憲二郎 山本 秀彦				
67	令和元	梅 原 徳 次 (副支部長) 村 木 俊 之	青木 涉 岩崎 誠 河田 圭一 ○酒井 茂次 ○千田 治光 永井 亨 八田 武士 ○堀 伸充 村木 俊之 ○湯澤 隆	石川 哲三 内山 直樹 ○小久保光典 坂本 由夫 ○高橋 裕 中西 栄徳 平野 誠治 舞田 徹哉 森光 英樹 若澤 靖記	○板津 武志 梅原 徳次 興水 大和 佐藤 海二 ○田中 浩 中村 隆 廣瀬 光典 ○前田 利長 八木橋 誠	◎糸魚川文広 ○大岩 孝彰 後藤 昭弘 ○柴田 隆行 ○谷尾 雅之 西村 正彦 ○藤尾三紀夫 □松本 章宏 ○山田 篤史	△伊藤 敦 沖田 俊一 酒井 克彦 社本 英二 ○辻 裕之 二ノ宮康弘 ○古谷 克司 三浦憲二郎 ○山田 貴孝	井上 孝司 奥村 成史 酒井 健司 ○鈴木 浩文 ○辻村 桂司 ○秦 誠一 ○ペトロスA 村上 良彦 山本 秀彦				
68	2	村 木 俊 之 (副支部長) 柴 田 隆 行	青木 涉 植野 輝旭 奥村 成史 後藤 昭弘 ○鈴木 浩文 ○辻 裕之 西村 正彦 ◎古谷 克司 村上 良彦 山本 秀彦	石川 哲三 内山 直樹 河田 圭一 酒井 克彦 ○千田 治光 ○辻村 桂司 ○秦 誠一 ○ペトロスA 村木 俊之 若澤 靖記	○板津 武志 ○梅原 徳次 金原 裕之 坂本 由夫 柚谷 啓 永井 亨 波多野祐規 ○堀 伸充 森光 英樹	○糸魚川文広 ○大岩 孝彰 ○栗谷 龍彦 佐藤 海二 ○高橋 裕 中西 栄徳 ○原 永志 ○前田 利長 八木橋 誠	△伊藤 敦 岡島 琢磨 ○小久保光典 柴田 隆行 ○田中 浩 中村 隆 廣瀬 光典 □松本 章宏 ○山田 篤史	○岩崎 誠 沖田 俊一 興水 大和 社本 英二 ○谷尾 雅之 成瀬 勇 ○藤尾三紀夫 三浦憲二郎 ○山田 貴孝				

会期	年次	支 部 長 副 支 部 長	商議員 (○：幹事、◎庶務幹事、□：会計幹事、△：会計監査)							
69	3	柴 田 隆 行 (副支部長) 伊 藤 敦	青木 渉 ○岩崎 誠 奥村 成史 後藤 昭弘 ○千田 治光 ○辻村 桂司 西村 正彦 ◎古谷 克司 村上 良彦 若澤 靖記	石川 哲三 内山 直樹 河田 圭一 酒井 克彦 柚谷 啓 永井 亨 ○秦 誠一 ○ペトロスA ○村木 俊之	△板津 武志 ○梅原 徳次 金原 裕之 佐藤 海二 ○高橋 裕 中西 栄徳 波多野祐規 ○前田 利長 森光 英樹	○糸魚川文広 ○大岩 孝彰 ○栗谷 龍彦 柴田 隆行 竹内 伸介 中村 隆 ○原 永志 □松本 章宏 八木橋 誠	伊藤 敦 岡島 琢磨 ○小久保光典 社本 英二 ○田中 浩 成瀬 勇 廣瀬 光典 三浦憲二郎 ○山田 篤史	○今西 耕造 沖田 俊一 奥水 大和 ○鈴木 浩文 ○辻 信彦 新川 真人 ○藤尾三紀夫 ○宮嶋 敦 ○山田 貴孝		
70	4	伊 藤 敦 (副支部長) 鈴 木 浩 文	青木 渉 ○今西 耕造 奥村 成史 ○近藤 好正 鈴木 浩文 武田 亘平 新川 真人 廣瀬 光典 三浦憲二郎 ○山田 貴孝	石川 哲三 ○岩崎 誠 河田 圭一 酒井 克彦 ○千田 治光 ○田中 浩 西村 正彦 ○藤尾三紀夫 水谷 圭介 若澤 靖記	△板津 武志 内山 直樹 ○栗谷 龍彦 佐藤 海二 柚谷 啓 ○辻 信彦 ○秦 誠一 ◎古谷 克司 村上 良彦	○糸魚川文広 ○梅原 徳次 ○小久保光典 ○柴田 隆行 ○高橋 裕 永井 亨 波多野祐規 ○ペトロスA ○村木 俊之	伊藤 敦 ○大岩 孝彰 奥水 大和 柴田 正明 ○高橋 浩良 中西 栄徳 八田 武士 ○前田 利長 森光 英樹	○伊藤 一豊 沖田 俊一 後藤 昭弘 社本 英二 竹内 伸介 中村 隆 ○原 永志 □松本 章宏 八木橋 誠		

精密工学会東海支部歴代支部長

久田 太郎 (1、2、5期)、荒木 鶴雄 (3、8期)、土井 静雄 (4期)、白井 直光 (5、6期)、井形 厚臣 (7期)、藤井 義信 (9期)、岡井 弘 (10期)、鹿取 一男 (11期)、島 千広 (12期)、三井 寿雄 (13期)、杉本 正司 (14期)、中野 幸久 (15期)、岩波 健彦 (16期)、春日 保男 (17期)、石田健二郎 (18、19期)、加藤 仁 (20期)、島田 正雄 (21期)、斎藤 長男 (22期)、栗野 泰吉 (23期)、佐藤 芳久 (23期)、村瀬善三郎 (24期)、菱田 健夫 (25期)、楠 兼敏 (26期)、佐藤 文雄 (27期)、財満 鎮雄 (28期)、栗田 肇 (29期)、木村 尚 (30期)、加藤 容三 (31期)、木村 浩哉 (32期)、船橋 鉦一 (33期)、斉田 義幸 (34期)、太田 和宏 (35期)、藤城 郁哉 (36期)、高原 基彰 (37期)、山口 勝美 (38期)、谷口 肇彦 (39期)、堤 成晃 (40期)、蛇川 忠暉 (41期)、松原十三生 (42期)、星 鐵太郎 (43期)、松本 和男 (44期)、藤井 洋 (45期)、山口 一彦 (46期)、松田 孝 (47期)、花木 義磨 (48期)、難波 義治 (49期)、井川 正治 (50期)、佐藤 一雄 (51期)、土屋総二郎 (52期)、大野 正直 (53期)、稲村豊四郎 (54期)、小林 明彦 (55期)、長江 昭充 (56期)、東 正毅 (57期)、米田 孝夫 (58期)、中村 隆 (59期)、堀 康徳 (60期)、山本 秀彦 (61期)、鈴木 俊雄 (62期)、社本 英二 (63期)、辻 裕之 (64期)、大岩 孝彰 (65期)、酒井 茂次 (66期)、梅原 徳次 (67期)、村木 俊之 (68期)、柴田 隆行 (69期)、伊藤 敦 (70期)

5.7 支部在住の本部役員

本部役員は直接支部事業に関連することはない。ただ、本部会議において支部の要望を伝える等、支部繁栄のため働く機会が多くあり、また、学会における支部の比重を表す尺度でもある。

表3に支部選出評議員、表4に支部在住の理事を示す。評議員の東海支部定員は昭和28～30年は4名、昭和31、32年7名、昭和33年～48年にかけては

20名から26名へと増えているが、昭和49年以降現在までは10名と一定している。

理事定員は昭和27、28年の1名、昭和33～36年の3名であった時期を除けば2名と一定している。その中でも、昭和35、36年に久田太郎氏が会長、その後、白井直光、加藤仁、山口勝美、松原十三生の4氏が副会長の要職を占めている。

表3 支部選出評議員

年次	評 議 員
昭和28	井形厚臣、鹿取一男、久田太郎、藤井義信
29	井形厚臣、鹿取一男、久田太郎、藤井義信
30	井形厚臣、鹿取一男、久田太郎、藤井義信
31、32	荒木鶴雄、井形厚臣、春日保男、鹿取一男、土井静雄、久田太郎、藤井義信
33、34	井形厚臣、藤井義信、春日保男、土井静雄、佐藤申一、荒木鶴雄、中野幸久、石田健二郎、鹿取一男、三井寿雄、白井直光、茂木吉治、岩波健彦、梅原半二、岡井弘、北野多喜雄、島千広、長岡振吉、成松明寿、能登鉄治
35、36	井形厚臣、藤井義信、春日保男、土井静雄、鈴木幸雄、荒木鶴雄、中野幸久、石田健二郎、鹿取一男、三井寿雄、白井直光、茂木吉治、岩波健彦、梅原半二、岡井弘、北野多喜雄、島千広、富田環、長岡振吉、能登鉄治、本田熊夫、鈴木俊三
37、38	栗木道彦、藤井義信、石田健二郎、春日保男、土井静雄、三井寿雄、鈴木幸雄、飯島喜太郎、鹿取一男、山田国雄、中野幸久、白井直光、茂木吉治、岩波健彦、梅原半二、岡井弘、北野多喜雄、島千広、富田環、長岡振吉、能登鉄治、本田熊夫、鈴木俊三
39、40	春日保男、栗本直彦、石田健二郎、土井静雄、三井寿雄、井形厚臣、鈴木幸雄、藤井義信、荒木鶴雄、鹿取一男、島田正雄、飯島喜太郎、中野幸久、岩波健彦、梅原半二、杉本正司、長岡振吉、朝倉行一、江本芳郎、能登鉄治、岡井弘、北野多喜雄、山田国男
41、42	朝倉行一、荒木鶴雄、岩波健彦、石田健二郎、梅原半二、大野賢二、岡井弘、春日保男、鹿取一男、加藤仁、北野多喜雄、栗本道彦、佐藤敏一、島田正雄、鈴木幸雄、杉本正司、土井静雄、中野幸久、長岡振吉、能登鉄治、藤井義信、三井寿雄、山田国男
43、44	浅井留吉、荒本鶴雄、栗野泰吉、飯島喜太郎、石田健二郎、大森淳夫、岡井弘、加藤仁、北野多喜雄、栗本道彦、沢田義明、島千広、島田正雄、杉本正司、鈴木幸雄、高村正一、土井静雄、中野幸久、長岡振吉、野口正秋、藤井義信、松崎沢二、三井寿雄、山田国男
45	浅井留吉、荒木鶴雄、栗野泰吉、飯島喜太郎、岩波健彦、大森淳夫、太田英一、岡井弘、加藤仁、春日保男、木戸義一、小山金次郎、沢田義明、島千広、島田正雄、杉本正司、鈴木憲二、鈴木幸雄、立道有年、土井静雄、中野幸久、野口正秋、松崎沢二、三井寿雄、村瀬善三郎、山田国男
46	安島洋三、青木茂樹、飯島喜太郎、岩波健彦、上田康、大石清、太田英一、岡井弘、加藤仁、春日保男、木戸義一、栗田肇、小山金次郎、沢田義明、島千広、島田正雄、杉本正司、鈴木憲二、鈴木幸雄、土井静雄、中野平治、中野幸久、西田恒男、野口正秋、三井寿雄、村瀬善三郎

年次	評 議 員
47、48	青木茂樹、栗野泰吉、飯島喜太郎、石田健二郎、岩波健彦、上田康、大石清、太田英一、加藤容三、春日保男、河合望、木戸義一、栗田肇、小山金次郎、沢田義明、島千広、島田正雄、鈴木憲二、鈴木幸雄、土井静雄、中野幸久、西田恒男、野口正秋、三井寿雄、村瀬善三郎
49、50	栗野泰吉、飯島喜太郎、石田健二郎、太田英一、河合望、黒石亮平、小山金次郎、佐藤芳久、島田正雄、村瀬善三郎
51、52	飯島喜太郎、太田英一、加藤仁、楠兼敬、佐藤芳久、斎藤長男、沢田義明、島田正雄、菱田健夫、増井敏郎
53、54	太田英一、加藤仁、河合望、楠兼敬、栗田肇、斎藤長男、佐藤文雄、佐藤芳久、船橋鉦一、増井敏郎
55、56	太田英一、加藤仁、加藤容三、河合望、木村尚、木村浩哉、栗田肇、財満鎮雄、佐藤文雄、河合望、船橋鉦一
57、58	阿部山尚三、岩瀬郁雄、加藤容三、佐藤文雄、田中光一、長谷川武彦、平田清、平野幸久、藤城郁哉、増井敏郎
59、60	荒井伸治、植松芳郎、太田英一、近藤一義、斉田義幸、堤成晃、平野幸久、船橋鉦一、渡辺敏昭
61、62	青木茂樹、荒井伸治、太田和宏、近藤一義、杉山昉、星鐵太郎、山口勝美、渡辺真一郎、渡辺敏昭
63、平成元	荒井伸治、高原基彰、平野幸久、広瀬徳雄、藤井洋、藤江秀雄、藤城郁哉、星鐵太郎、山口勝美
2、3	磯谷智生、伊藤正治、伊東章郎、杉下潤二、高川溥之、高原基彰、立石博道、藤江秀雄、星鐵太郎
4、5	磯谷智生、伊藤正治、伊東章郎、蛇川忠暉、杉下潤二、高原基彰、江藤秀雄、松田孝、山口一彦、渡辺敏昭
6、7	井川正治、伊藤正治、高原基彰、田中博、都築良彦、藤江秀雄、星鐵太郎、松原十三生、山口一彦、山口勝美
8、9	井川正治、伊藤正治、大野正直、都築良彦、藤井洋、星鐵太郎、松原十三生、松本和男、山口一彦、山口勝美
10、11	伊藤正治、稲村豊四郎、大野正直、緒方誠夫、花木義麿、藤井洋、藤田滋、別所芳則、毛利尚武、山口勝美
12、13	伊藤正治、稲村豊四郎、大野正直、小林明彦、難波義治、藤井洋、藤本英雄、堀内宰、松田孝、毛呂俊夫
14、15	五十君清司、大野正直、小林明彦、近藤猛男、佐藤一雄、鈴木康夫、藤井洋、藤本英雄、堀内宰、村上良彦、毛呂俊夫、柳下福蔵
16、17	五十君清司、稲村豊四郎、大野正直、近藤猛男、佐藤一雄、土屋総二郎、難波義治、東正毅、藤本英雄、堀内宰、村上良彦

年次	評 議 員
18、19	井戸勝則、稲村豊四郎、内村浩、梅原徳次、大野正直、小林明発、重富邦夫、鈴木康夫、難波義治、原田浩史、東正毅、堀内宰、山本修司、米田孝夫
20、21	稲村豊四郎、内村浩、小林明発、斎藤賢宏、佐藤一雄、柴田隆行、難波義治、藤嶋誠、村上正一、山下菊丈、山本秀彦、米田孝夫
22、23	稲村豊四郎、金丸允昭、柴田隆行、斎藤賢宏、相良誠、社本英二、鈴木俊雄、鈴木浩文、住田克彦、長江昭充、堀康徳、山崎靖崇、山本秀彦、米田孝夫
24、25	浅尾文博、井坂雅一、伊藤敦、遠藤進、大岩孝彰、皆見章行、佐野明人、鈴木浩文、鈴木延明、高山直士、二段章、羽生博之、藤尾三紀夫、古谷克司
26、27	浅尾文博、伊藤敦、伊藤裕章、大岩孝彰、岡田伸彦、奥田哲司、佐野明人、鈴木浩文、高山直士、永井亨、秦誠一、羽生博之、藤尾三紀夫、古谷克司
28、29	伊藤敦、伊藤裕章、内山直樹、浦島和浩、小久保光典、近藤好正、酒井茂次、高橋裕、竹内慎太郎、ペトロス・A、永井亨、秦誠一、山田貴孝、湯澤隆
30、令和元	内山直樹、小久保光典、近藤好正、酒井克彦、千田治光、高橋裕、谷尾雅之、鳥井昭宏、永井亨、二ノ宮康弘、松本章宏、山田貴孝、山田篤史、湯澤隆
2、3	板津武志、糸魚川文広、近藤好正、酒井克彦、佐藤海二、社本英二、千田治光、田中浩、谷尾雅之、藤尾三紀夫、永井亨、前田利長、松本章宏、山田篤史
4、5	栗谷龍彦、近藤好正、酒井克彦、佐藤海二、社本英二、千田治光、辻信彦、永井亨、原永志、藤尾三紀夫、前田利長、村木俊之、松本章宏、山田篤史

表4 支部選出理事

年次	理 事	年次	理 事
昭和27 28	久田太郎(庶務)	37 38	荒木鶴雄(庶務)、井形厚臣(庶務)
29 30	土井静雄(庶務)、久田太郎(庶務)	39 40	白井直光(副会長)、鳥千広
31 32	井形厚臣(庶務)、久田太郎(庶務)	41 42	岩波健彦、中野幸久
33 34	久田太郎(副会長)、井形厚臣(庶務)、白井直光(庶務)	43 44	岩波健彦、春日保男 春日保男、長岡振吉
35 36	久田太郎(会長)、荒木鶴雄(庶務)、井形厚臣(庶務)	45 46	春日保男、長岡振吉 石田健二郎、栗野泰吉

年次	理 事	年次	理 事
47	加藤 仁、斎藤 長男	10	松田 孝、山口 一彦
48	加藤 仁、島田 正雄	11	松田 孝、花木 義磨
49	斎藤 長男	12	松原 十三生、花木 義磨
50	栗野 泰吉、村瀬 善三郎	13	松原 十三生、花木 義磨
51	佐藤 文雄、村瀬 善三郎	14	難波 義治、稲村 豊四郎
52	佐藤 文雄、菱田 健夫	15	難波 義治、稲村 豊四郎
53	楠 兼敬、河合 望	16	小林 明発、鈴木 康夫
54	河合 望、楠 兼敬	17	小林 明発、鈴木 康夫
55	河合 望、佐藤 文雄	18	佐藤 一雄、村上 良彦
56	加藤 仁、栗田 肇	19	佐藤 一雄、村上 良彦
57	加藤 仁(副会長)、木村 浩哉	20	東 正毅、柳下 福蔵
58	加藤 容三、木村 浩哉	21	東 正毅、柳下 福蔵
59	加藤 仁、木村 浩哉	22	佐藤 一雄、鈴木 実平
60	加藤 仁(副会長)、船橋 鉦一	23	佐藤 一雄、鈴木 実平
61	斉田 義幸、船橋 鉦一	24	山本 秀彦、辻 裕之
62	太田 和宏、藤城 郁哉	25	山本 秀彦、辻 裕之
63	藤城 郁哉、山口 勝美	26	中村 隆、中島 淑岳
平成元	高原 基彰、山口 勝美	27	中村 隆、中島 淑岳
2	堤 成晃、山口 勝美	28	柴田 隆行、植竹 伸二
3	山口 勝美(副会長)、堤 成晃	29	柴田 隆行、植竹 伸二
4	舘石 博道、堤 成晃	30	大岩 孝彰、村木 俊之
5	蛇川 忠暉、松原 十三生	令和元	大岩 孝彰、村木 俊之
6	松原 十三生、山口 一彦	2	鈴木 浩文、小久保 光典
7	星 鐵太郎、田中 博	3	鈴木 浩文、小久保 光典
8	松本 和男、藤井 洋	4	板津 武志、糸魚川 文広
9	藤井 洋、都築 良彦	5	板津 武志、糸魚川 文広

5.8 支部在住の名誉会員

名誉会員は、本部もしくは支部役員を長く務められ、学会活性化に功績のあった方々が推挙されるもので、名前を記して謝意を表す。

岩波 健彦、岡村 健二郎、春日 保男、加藤 仁、河合 望、斎藤 長男、篠崎 襄、島田 正雄、長岡 振吉、村瀬 善三郎、船橋 鉦一、堤 成晃、近藤 一義、堀内 宰、松原 十三生、丸井 悦男、山口 勝美

5.9 支部賞受賞者

支部賞は、支部役員を長く務められ、支部活性化に貢献された方々に贈られるもので、名前を記して謝意を表す。

伊藤 正治、太田 英一、加藤 仁、堤 成晃、松原 十三生、山口 勝美、稲村 豊四郎、大野 正直、小林 明発、都築 良彦、長江 昭充、難波 義治、花木 義磨、東 正毅、藤井 洋、星 鐵太郎、森 敏彦、佐藤 一雄、山下 菊丈、村上 良彦、柳下 福蔵、鈴木 実平、米田 孝夫、鈴木 俊雄、

中村 隆、山本 秀彦、浅尾 文博、辻 裕之、梅原 徳次、社本 英二、村木 俊之、大岩 孝彰、酒井 茂次、伊藤 敦、鈴木 浩文、ペトロス・アブラハ、谷尾 雅之、小久保 光典、柴田 隆行

5.10 学生優秀賞

精密工学会東海支部では、2013年度（第61期）より「学生優秀賞」を設立し、精密工学分野の学業成績優秀かつ人格の優れた学生を、支部長名で表彰している。

1. 精密工学の分野

設計・生産システム，精密加工，メカトロニクス・精密機器，精密計測，人・環境工学，材料・表面プロセス，バイオエンジニアリング，マイクロ/ナノテクノロジー・新領域

2. 表彰の対象

本年度卒業する，精密工学分野の科目成績

および人格の優れた者で，当該教育組織が推薦する者とする。表彰は，各教育組織につき1名とする。ただし，学生定員が100名を超える教育組織においては2名まで表彰する。なお，大学院修了予定者は，表彰の対象とはならない。また，受賞候補者は，申請時において，精密工学会の会員もしくは，入会申込済みであることを条件とする。

3. 教育組織の条件

対象となる教育組織は，東海地区の大学，工業高等専門学校 of 学科に準ずる組織とする。また，当該組織内に本会正会員が常勤教員として，3名（工業高等専門学校の場合は2名）以上所属していることを条件とする。

表5 学生優秀賞受賞者

所属組織名	2013年度 (第61期)	2014年度 (第62期)	2015年度 (第63期)	2016年度 (第64期)	2017年度 (第65期)
愛知工業大学	山田 倫彰 兒玉 好正	伊賀 龍斗 辻 龍希	片川祐一郎 堀内健太郎	岡田 祥嵩	飯尾 健太 三好 航司
岐阜大学	大野 晃平 佐々 智徳	箕浦 隼世	長崎 圭佑	阿部 翔太 渋谷 俊貴	郡家 伶芽 平野 貴大
静岡大学	鈴木 晶聡 渡部 聡	松本 武士 山本 哲也	白澤 樹 松浦 敏樹	谷口翔一郎 中村 優人	阿部 卓未 福田聖太郎
静岡理工科大学	三浦 貴士		野崎 大督	堀江 貴博	杉山 尚也
中京大学					
中部大学	藤澤 勇太 河合貴未央	谷口 拓瑛 橋本 淳	秋山 裕亮 内方 創士	石川 翔太 玉木 良英	石黒 輔 鍋田 優太
豊田工業 高等専門学校			瀬川 和之	杉浦 幹亮	
豊田工業大学	小坂真太郎	吉積 果奈	来治 紗枝	若狭 守	加藤 匠
豊橋技術科学大学	伊藤 康治 西分 健人	新村 樹 山本 紘太	櫻井 浩人 徳井 彬人	大谷 啓介 小熊 和真	棚木健太郎 塚原 史也
名古屋大学	岡島正太郎 犬塚 幹夫	戸田 達輝 前田 美里	山口 雅弘 山田 直	嶋倉 悠介 鈴木 義久	浅井 弘樹 奥村 亮太
名古屋工業大学		小澤 愛 NGUYEN SINH CON	音田 逸人 富部 雅人	横田 悠樹 元廣 孝徳	高岸 一樹 立田 智仁
沼津工業 高等専門学校		引間 竜也		池神奈穂美	岩田 和磨
三重大学				山村 晃平	尾崎 弘明
名城大学				原口 正義 内藤 嵩久	加藤 弘之 矢敷 啓太

所属組織名	2018年度 (第66期)	2019年度 (第67期)	2020年度 (第68期)	2021年度 (第69期)
愛知工業大学	小西 智之 松崎 秀耶	竹本 雅哉	兵藤 京香	佐藤 将大
岐阜大学	釜屋 和也 山下真之介	今西 巧 大鐘 惇司	嶋本 陸 田谷 海人	熊谷 大樹 鈴木 淳平
静岡大学	鈴木 貴大 山本 竹真	安藤 啄朗 河村 拓実	富田 丈瑠 TAI TEK KEE	土屋 竜人 中村 壮汰
静岡理工科大学	坂部 晃紀		陳 俊達	山本 凌大
中京大学	浦部 由規	野路 佳佑	田中 宏太	田上 鈴奈
中部大学	長谷川 誠 林本 章央	鈴木 豊 竹中 滯南	西垣 一弘	坂井田未来 樋口 峻
豊田工業校 高等専門学校	臼井 康貴		日置 立貫	上水流拓磨
豊田工業大学	北河 正洋	藤岡 みなみ	加藤 響	内田 元規
豊橋技術科学大学	ERIC TAN KAI CHIANG	白石 大河 比嘉 祐一	手嶋 日向 中村 隼大	杉本 雅樹 宮平 大輝
名古屋大学	藤井 海斗 宮本 太一	土屋 諒真 辻 悠介	富田 樹 星川 知駿	村松 祐介 安田 豊
名古屋工業大学	池田 真周 山田 悠斗	池田 遥一 杉浦 良	村山 大騎 山田 剛士	西 拓海 土方 祥平
沼津工業校 高等専門学校	大塩 晃平	伊藤 信秀		
三重大学	西村 祐樹	長谷川 陸	西 啓太	長瀬 匠平
名城大学	西松 巧 山田 侑輝		島ノ上 諒 林 祐介	早川 典秀 吉田 俊輝

学生優秀者表彰者向け企業見学

精密工学会東海支部では、2017年度(第65期)より「特別企業見学会」を企画し、精密工学会に所属する学生のうち、東海支部学生優秀賞の受賞者を優先対象とし、東海支部賛助会員企業による先端技術を紹介する見学会を実施している。

本企画では、「先端/先進技術に触れることのできる交流会」として、現役技術者による会社見学、技術紹介および懇談を通じての先端技術に対するディスカッションの場を設けている。参加者にとっては、精密工学における先端技術・市場動向への知見が深められる機会になるとともに、今後の博士前期・後期課程における研究を開始するに当たってのモチベーションの涵養ならびに質の向上に繋がることを期待している。

協賛企業（令和5年3月現在）

(株)ナガセインテグレックス、日本ガイシ(株)、ブラザー工業(株)、三菱電機(株)、ヤマザキマザック(株)、DMG森精機(株)、NTN(株)（アイウエオ順）

5.11 精密工学会ものづくり賞

精密工学会では、2017年度より「ものづくり賞」を設立し、精密工学の分野で、社会的価値の高い製品や技術を開発した中小・中堅企業等に対し、その精進と努力に報いるとともに、さらなる発展を支援することを目的として贈賞している。贈賞の対象となる業績は、(1)高い評価を受けている、あるいは期

待できる製品や技術等、(2)優れた開発力・改善力や製法の斬新さ等が認められる製品、(3)ものづくりの基盤を維持・発展させる高い技術・技能や人材育成等が認められる製品等の開発実績である。

東海支部賛助会員の受賞実績は下記の通りである。

精密工学会東海支部受賞企業

2017年度 アイコクアルファ(株)、豊ハイテック(株)
 2018年度 (株)ナガセインテグレックス
 2019年度 (株)名光精機

2020年度 パルステック工業(株)、(株)イワタツール
 2022年度 (株)日進機械製作所、(株)和井田製作所

6. 東海支部の事業の概要

当支部は、東海地区において精密工学に携わる研究者・技術者の連携をはかり、精密工学発展のために尽くすことを目的とし、設立当初より講演会および見学会を開催してきた。その後、支部の発展とともに講習会、講義会、セミナー等の事業を興し、会員が新しい情報に速やかに接し得るよう努めている。また、当支部は産官学、他学協会との連携が緊密で、学際的・境界領域的な分野の知識を学会員が吸収できる機会を設けている。連携団体は当初よりの名古屋市工業研究所、日本機械学会東海支部、砥粒加工研究会、自動車技術会中部支部に加えて、現在では日本塑性加工学会東海支部、日本設計工学会東海支部、計測自動制御学会中部支部、電気加工

学会、中部生産加工技術振興会、中部歯車懇話会等と増え、当学会および当支部がカバーする分野の拡がりを反映している。また、2004年度(第52期)より理論と実践を組み合わせ「ものづくり実践講座」を開講し、最近では基礎から最新技術に関する6～8講座を提供するに至っている。以下にこれまでに実施された当支部主催の主な事業を種別ごとにまとめて示す。

6.1 総会(総会・特別講演会・見学会)

毎年3月に定時総会を開き、事業、会計等諸般の報告、新役員紹介、事業計画、予算案、必要に応じて重要事項の議決を行っている。同時に、特別講演会、見学会を開催している。

表6 総会(総会・特別講演会・見学会)

会期	開催年月日	会場	議事	特別講演および見学会	出席者
1	昭和28. 1. 11	愛知県商工館ホール	支部規則決定、役員選出(支部発表式)	特別講演：「「サーボ」機構とその性能試験について」 東京工業大学教授 中田 孝氏 「非切削加工による歯車の工作」 東北大学教授 成瀬政男氏	
2	29. 3. 19	名古屋工業技術試験所		特別講演：「アメリカにおける歯車工業について」 トヨタ自動車(株)歯切工場長 坪田義夫氏 「米独の光学工業を視察して」 興服産業(株)興和光器製作所製造部長 成松明寿氏 見学会：名古屋工業技術試験所	
3	30. 3. 18	名古屋市工業研究所		特別講演：「自動制御に関連して」 名古屋大学工学部教授 古賀豊城氏 「研削砥石に関する二、三の問題」 日本陶器(株)生産技術課長 玉井芳三氏	

会期	開催年月日	会 場	議 事	特 別 講 演 お よ び 見 学 会	出席者
4	31. 3. 27	名古屋工業技術試験所	事業報告、決算報告、役員紹介、事業計画	特別講演：「太陽エネルギー会議に出席して」 名古屋工業技術試験所所長 久田太郎氏 「旋削のビビリ振動に関する最近の研究」 名古屋大学工学部教授 土井静雄氏 見学会：名古屋工業技術試験所	
5	32. 3. 26	愛知県工業指導所	〃	特別講演「欧米に於ける時計信管について（8m/m 映画使用）」 高野精密工業 K.K. 社長 高野時次氏 技術映画：A. Engineering Milling (Sundstrand 社) B. Chanfering Machine (Crass 社) C. Gear Cutting & Gear Finishing Machine (Fellow 社) D. Reduce Roll (National 社)	
6	33. 3. 27	日本電装(株)	〃	特別講演：「ガソリン噴射ポンプについて」 日本電装(株)噴射ポンプ部長 藤平右近氏 見学会：日本電装(株)	
7	34. 3. 27	日本陶器(株)	〃	特別講演：「最近の砥石について」 日本陶器(株)砥石営業部長代理 玉井芳三氏 見学会：日本陶器(株)	61
8	35. 3. 28	豊田工機(株)	〃	特別講演：「ヨーロッパの工作機械工場を見たまま」 豊田工機(株)製造部長 三治武市氏 見学会：豊田工機(株)	
9	36. 3. 10	(株)大隈鉄工所	〃	特別講演：「工作機械の雑感」 (株)大隈鉄工所研究部長 長岡振吉氏 見学会：(株)大隈鉄工所	
10	37. 3. 10	東洋ベアリング(株)桑名工場	〃	特別講演：「転り軸受の変遷と最近の特徴」 東洋ベアリング(株)取締役研究部長 能登鉄治氏 「最近の研削砥石について」 日本陶器(株)砥石技術室長 松田武一郎氏 見学会：東洋ベアリング(株)桑名工場	
11	38. 3. 14	ブラザー工業(株)	事業報告、決算報告、会計監査報告、役員紹介、事業計画、予算案	特別講演：「工業用ミシンの展望」 ブラザー工業(株)検査所長 小林志郎氏 見学会：ブラザー工業(株)本社工場、瑞穂工場	50
12	39. 3. 25	愛知県工業指導所	〃	特別講演：「最近の精密測定」 工技院・計量研所長 朝永博士氏 見学会：愛知県工業指導所	65
13	40. 3. 25	自転車技術研究所	〃	特別講演：「放電加工と電解加工の趨勢」 東京大学工学部助教授 倉藤尚雄氏 見学会：自転車技術研究所、名古屋工業技術試験所機械部門	50
14	41. 3. 7	(株)エルモ社	事業報告、決算報告、会計監査報告、役員紹介、事業計画、予算案	特別講演：「小型映画機器の現在と将来について」 (株)エルモ社技術部長 勅使晴夫氏 見学会：(株)エルモ社	47
15	42. 3. 24	(株)太平製作所	〃	特別講演：「合板機械について」 (株)太平製作所専務取締役 長岡德行氏 見学会：(株)太平製作所	37

会期	開催年月日	会 場	議 事	特 別 講 演 お よ び 見 学 会	出席者
16	43. 3. 25	三 菱 電 機 名古屋製作所	ク	特別講演：「最近の放電・電解加工」 三菱電機(株)名古屋製作所 斎藤長男氏 見学会：三菱電機(株)名古屋製作所	36
17	44. 3. 24	(株)大隈鉄工所	ク	特別講演：「NC の一般機械部品への応用」 (株)大隈鉄工所取締役研究開発部長 長岡振吉氏 見学会：(株)大隈鉄工所	51
18	45. 3. 26	東洋ベアリング製造(株) 桑名工場	事業報告、決算報告、会計監査報告、支部規則変更、役員紹介、事業計画、予算案	特別講演：「ころがり軸受の音響・振動の計測について」 東洋ベアリング製造(株)中央研究所 小林政弘氏 見学会：東洋ベアリング製造(株)桑名工場	51
19	46. 3. 27	鈴木自動車工業(株)	事業報告、決算報告、会計監査報告、役員紹介、事業計画、予算案	シンポジウム：「精密せん断加工に関するシンポジウム」 見学会：鈴木自動車工業(株)	74
20	47. 3. 28	プラザー工業(株) 瑞穂工場	ク	特別講演：「機械設計における信頼性の問題点」 名古屋市工業研究所所長 中野幸久氏 見学会：プラザー工業(株)瑞穂工場	55
21	48. 3. 27	日本特殊陶業(株) 本 社	ク	特別講演：「サーメット工具の切削性について」 日本特殊陶業(株) 鈴木 滋氏 見学会：日本特殊陶業(株)本社工場	45
22	49. 3. 27	労働福祉事業団 労災義肢センター	ク	特別講演：「精密機械と生物機械」 労災義肢センター所長 土屋和夫氏 見学会：労災義肢センター	27
23	50. 3. 27	三 菱 電 機 (株) 名古屋製作所	ク	特別講演：「製造部門におけるミニコンピュータの応用」 三菱電機(株) 穂原 智氏、広中一光氏 見学会：三菱電機(株)名古屋製作所	44
24	51. 3. 26	トヨタ自動車工業(株)本社	ク	特別講演：「自動車工業の現状と今後の諸問題」 トヨタ自動車工業(株) 豊田章一郎氏 見学会：トヨタ自動車工業(株)上郷工場、堤工場	77
25	52. 3. 29	NTN 東洋ベアリング(株) 桑名工場	ク	特別講演：「超精密ころがり軸受の最近の動向」 NTN 東洋ベアリング(株) 沢田義明氏 見学会：NTN 東洋ベアリング(株)桑名工場	80
26	53. 3. 28	豊田工機(株)	ク	特別講演：「DNC システム二、三の事例について」 豊田工機(株) 日下部猛氏 見学会：豊田工機(株)	
27	54. 3. 20	日本電装(株)	ク	特別講演：「類似多種中小量製品のランダム組付における自動ライン化」 日本電装(株) 成木一英氏 見学会：日本電装(株)安城製作所	58
28	55. 3. 24	(株)大隈鉄工所	ク	特別講演：「最近の NC の傾向について」 (株)大隈鉄工所 前田 豊氏 見学会：(株)大隈鉄工所本社工場	85

会期	開催年月日	会 場	議 事	特別講演および見学会	出席者
29	56. 3. 24	静岡大学 工学部	〃	特別講演：「ピアノの話」 静岡大学工学部 柳沢 猛氏 見学会：日本楽器製造(株)本社工場	50
30	57. 3. 26	三菱重工業(株) 名古屋機器製 作所岩塚工場	〃	特別講演：「航空機用歯車の加工について」 三菱重工業(株) 荒川成雄氏 見学会：三菱重工業(株)名古屋機器製作所岩塚工場	80
31	58. 3. 22	ブラザー工業(株) 瑞穂工場	〃	特別講演：「CAD/CAM の応用例」 ブラザー工業(株) 大垣博計氏 見学会：ブラザー工業(株)瑞穂工場	107
32	59. 3. 22	三菱電機(株) 名古屋製作所	〃	特別講演：「産業用ロボットの現状と将来」 三菱電機(株) 宮 幸助氏 見学会：三菱電機(株)名古屋製作所	76
33	60. 3. 19	トヨタ自動車(株) 本 社	〃	特別講演：「最近の自動車生産技術の情勢について」 トヨタ自動車(株) 楠 兼敬氏 見学会：トヨタ自動車(株)下山工場、堤工場	115
34	61. 3. 19	三菱自動車工 業(株)名古屋 自動車製作所 岡崎工場	事業報告、決算 報告、会計監査 報告、支部規則 変更、役員紹介、 事業計画、予算 案	特別講演：「自動車用材料と新素材」 三菱自動車工業(株) 野本正猪氏 見学会：三菱自動車工業(株)名古屋自動車製作所岡崎工場	83
35	62. 3. 19	日本電装(株)	事業報告、決算 報告、会計監査 報告、役員紹介、 事業計画、予算 案	特別講演：「部品工業におけるファクトリーオートメーションの一例 － UTOPIA 池田 ー」 日本電装(株) 太田和宏氏 見学会：日本電装(株)池田工場	106
36	63. 3. 23	工業技術院 名古屋工業 技術試験所	〃	特別講演：「超伝導の応用」 名古屋大学工学部 堀井憲爾氏 見学会：工業技術院名古屋工業技術試験所	52
37	平成 元. 3. 28	(株)ノリタケカ ンパニーリミ テド	〃	特別講演：「ビトリファイド CBN ホイールの研削特性」 (株)ノリタケカンパニーリミテド 酒井安昭氏 見学会：(株)ノリタケカンパニーリミテド本社工場	87
38	2. 3. 22	(株)豊田自動機 械製作所 60周年記念館 「Shine's」	〃	特別講演：「AGVS (Auto Guided Vehicle System) について」 (株)豊田自動織機製作所 物流システム部次長 椿 邦彦氏 見学会：(株)豊田自動織機製作所碧南工場 (フォークリフトエンジンの生産ライン)	75
39	3. 3. 18	豊川商工会議 所	〃	特別講演：「最近の鉄道車両の話題」 日本車輛製造(株) 鉄道車両本部取締役副本部長 堤 淳雄氏 見学会：日本車輛製造(株)豊川廠製作所	54
40	4. 3. 19	名 古 屋 市 工 業 研 究 所	〃	特別講演：「最近の光計測技術について」 名古屋市工業研究所 電子部長 服部 肇氏 見学会：名古屋市工業研究所、ブラザー工業(株)港工場	53
41	5. 3. 17	トヨタ自動車(株) 田原工場	〃	特別講演：「CIM における生産管理」 トヨタ自動車(株) FA システム部情報システム計画室 黒須則明氏 見学会：トヨタ自動車(株)田原工場	70

会期	開催年月日	会 場	議 事	特 別 講 演 お よ び 見 学 会	出席者
42	6. 3. 18	アイシン精機 株技術本館	ク	特別講演：「自動車部品におけるフレキシブルな組付けの自動化について」 アイシン精機(株) 専務取締役 高橋 徹氏 見学会：アイシン精機(株)刈谷工場、新川工場	99
43	7. 3. 17	日本特殊陶業(株) 本 社	ク	特別講演：「新しいセラミック工具の動向」 日本特殊陶業(株) 機械工具事業部 主査 尾頭 勇氏 見学会：日本特殊陶業(株)本社	37
44	8. 3. 22	日本電装(株) 高 棚 製 作 所	ク	特別講演：「製品開発と連携した生産技術開発活動」 日本電装(株) 取締役生産技術 1 部部长 松本和男氏 見学会：日本電装(株)高棚製作所	57
45	9. 3. 14	日本ガイシ(株) 本 社	ク	特別講演：「セラミックスメーカーにおける生産技術開発の現状」 日本ガイシ(株) 取締役 荒川義光氏 見学会：日本ガイシ(株) AC 工場	59
46	10. 3. 13	NTN(株) 桑 名	ク	特別講演：「自動車部品に関する最近の動向」 NTN(株) 取締役自動車製品技術部長 星川文雄氏 見学会：NTN(株)桑名製作所	92
47	11. 3. 11	オーエスジー(株) 豊川本社	ク	特別講演：「最近のコーティング工具の動向」 オーエスジー(株) 専務取締役 大沢茂樹氏 見学会：オーエスジー(株)八名工場	81
48	12. 3. 15	オークマ(株) 本 社	ク	特別講演：「メタルジェットによる三次元構造体の創成」 名古屋大学大学院教授 山口勝美氏 見学会：オークマ(株)大口工場	58
49	13. 3. 16	ブラザー工業(株) 瑞穂工場	ク	特別講演：「ブラザー工業(株)における最近の部品加工事例」 事例 1. 切削加工 ブラザー工業(株) 村上泰三氏 事例 2. レーザー加工 ブラザー工業(株) 青木彦治氏 見学会：ブラザー工業(株)瑞穂工場	51
50	14. 3. 22	トヨタ自動車(株) 本 社	ク	特別講演：「21 世紀のモノづくり」 トヨタ自動車(株) 常務取締役 加藤由人氏 見学会：トヨタ自動車(株)元町工場	62
51	15. 3. 20	名古屋市 工業研究所 第 1 会 議 室	ク	特別講演：「最近のめっき技術の動向」 名古屋市工業研究所 材料技術部長 久米道之氏 見学会：名古屋市工業研究所	
52	16. 3. 4	D スクエア スクエアプラ ザ	ク	特別講演：「変化に対応する生産システム」 (株)デンソー生産技術部部长 小島史夫氏 見学会：(株)デンソー西尾製作所	84
53	17. 3. 7	サイエンス 交 流 プ ラ ザ	ク	特別講演：「テーラードリキッドプロセスによる機能集積材料の開発」 産業技術総合研究所 先進製造プロセス研究部門 グループ長 加藤一実氏 見学会：なごやサイエンスパーク、 産業技術総合研究所中部センター	60
54	18. 3. 28	日本ガイシ(株) 知 多 事 業 所 厚生会館	ク	特別講演：「窒化アルミセラミックスの半導体製造装置用部材への適用」 日本ガイシ株式会社 知多事業所 H P C 事業部 技術部部长 川崎啓治氏 見学会：日本ガイシ(株)半導体製造装置用セラミックス部品の製造ライン	70

会期	開催年月日	会 場	議 事	特別講演および見学会	出席者
55	19. 3. 9	㈱ジェイテクト 刈谷工場	ク	特別講演：「工作機械の最近の動向」 ジェイテクト 工作機械・メカトロ事業本部 商品開発部 担当執行役員 渋川哲郎氏 見学会：(株)ジェイテクト 刈谷工場	57
56	20. 3. 14	大豊工業(株) 細谷工場 技術本館 B 研修室	ク	特別講演：「最近の自動車用すべり軸受の動向について」 大豊工業株式会社 取締役 技術部長 神谷荘司氏 見学会：大豊工業(株) 細谷工場	65
57	21. 3. 4	ヤマザキマ ザック(株) 本 社	ク	特別講演：「工作機械の動向と最新加工技術」 ヤマザキマザック(株) 新技術開発部 第3グループ グループリーダー 村木 俊之氏 見学会：ヤマザキマザック(株)大口工場	52
58	22. 3. 3	アイコクアル ファ(株) 本 社	ク	特別講演：「航空機部品、インベラの5軸 NC 加工」 特別顧問 金丸允昭氏 「5軸 NC 加工シミュレーション」 MS 事業部 CAD/CAM 研究開発担当 浅野哲也氏 見学会：アイコクアルファ(株)本社	64
59	23. 3. 1	中部大学 春日井キャン パス	ク	特別講演：「光学部品成形用微細金型の超精密加工と計測」 機械工学科 鈴木浩文氏 「次世代X線望遠鏡とそれを支える加工技術」 機械工学科 難波義治氏 見学会：中部大学 春日井キャンパス超精密加工技術	49
60	24. 3. 2	オークマ(株) 本 社	ク	特別講演：「オークマの知能化技術」 千田治光氏 見学会：オークマ(株)本社 本館、グローバル CS センター	46
61	25. 3. 5	㈱ジェイテクト 刈谷工場	ク	特別講演：「高速5軸加工シミュレーションによるスキルレス工程設計サポ ートシステムの紹介と活用事例」 工作機械・メカトロ事業部 ユニットシステム技術部 加工、工法開発室切削 G 主任 栗栖 章 見学会：(株)ジェイテクト刈谷工場 カスタマーセンター展示場	47
62	26. 3. 5	三菱電機(株) 名古屋製作所	ク	特別講演：「知能化ロボット『Fシリーズ』の紹介」 三菱電機株式会社名古屋製作所 ロボット製造部ロボット開発課 専任 村田 健二氏 見学会：三菱電機名古屋製作所	45
63	27. 3. 11	(株)ヤマザキマ ザック 美濃加茂第二 製作所	ク	特別講演：「複合加工機による自由曲面の切削、研削、計測」 ヤマザキマザック(株)技術本部 新技術開発部 3グループ グループリーダー代理 山本博雅氏 見学会：ヤマザキマザック 美濃加茂第二製作所	51
64	28. 3. 11	㈱豊田自動織機 高浜工場	ク	特別講演：「水素社会と燃料電池フォークリフトの取組」 トヨタ L&F カンパニー 産車用 FC プロジェクト 主査 吉川浩二氏 見学会：(株)豊田自動織機 高浜工場	53
65	29. 3. 10	サイエンス 交流 プラザ	ク	「金属間化合物を結合相とした硬質材料の開発と工具への応用」 (国研) 産業技術総合研究所 磁性粉末冶金研究センター ソフト磁性材料チーム長 松本章宏氏 「結合相制御による中高温金型用硬質材料の開発」 (国研) 産業技術総合研究所 磁性粉末冶金研究センター 焼結プロセスチーム長 細川裕之氏 見学会：産業技術総合研究所 中部センター	44

会期	開催年月日	会 場	議 事	特別講演および見学会	出席者
66	30. 3. 2	ブラザー工業(株) 刈谷工場	〃	特別講演：「マシナリー事業」 産業機器事業担当 執行役員 星 真氏 「ブラザー工作機械の原点と成長」 マシナリー事業 開発部 開発設計2 G GM 栗木一輝氏 見学会：ブラザー工業株式会社 刈谷工場	52
67	令和 元. 3. 1	(株)ノリタケカン パニーリミテド 三好事業所	〃	特別講演：「砥石の変遷とこれからの研削加工について」 (株)ノリタケカンパニーリミテド 工業機材事業本部 研削ソフト技術部 加工技術グループ グループリーダー 畑 博也氏 見学会：(株)ノリタケカンパニーリミテド 三好事業所	47
68	2. 3. 13	名古屋大学構内 グリーン サロン東山	〃	特別講演：なし 見学会：なし	
69	3. 3. 5	名古屋大学構内 オークマ館 (WEB)	〃	特別講演：「革新が進む生産加工システム」 オークマ(株) 代表取締役会長 花木義麿氏 見学会：名古屋大学構内 オークマ館	52
70	4. 3. 4	中部大学 春日井キャン パス (WEB)	〃	特別講演：「高付加価値を目指す巧妙加工」 中部大学 学長 竹内芳美氏 「光学部品成形用微細金型の超精密加工と計測」 機械工学科 鈴木浩文氏 見学会：中部大学 春日井キャンパス	43

6.2 特別講演会（特別講演会・見学会）

総会（6.1）の際に行われる特別講演会とは別に、見学会と併設して見学会内容に関連した話題についての特別講演会を開催し、見学会をより有意義に

するよう図られている。その他に、独立して開催された講習会的な講演会もある。

表7 特別講演会（特別講演会・見学会）

開催 年月日	会 場	特 別 講 演	見 学 先	参加 者数	共催学協会
昭和 30. 5. 26 ～30	名古屋市 工業研究所	軸受に関する講演会			
31. 6. 15	静岡大学 工学部	「欧米に於ける放射性化学の研究」 静岡大学教授 理博 塩川孝信氏 「現場管理に於ける二、三の問題について」 三菱電機(株)工作部次長 八巻直躬氏 「海外機械工業事情映写」 鈴木自動車工業(株)鈴木俊三氏 遠州織機(株) 阪本藤右エ門氏 「最近に於ける金属材料製造並びに熱処理上の諸問題」 精機学会会長、東京都工業奨励館館長 理博 橋本宇一氏	日本楽器製造(株) 本田技研工業(株)		
32. 7. 6	日本車輛製造(株)	「新しい鉄道車輛について」 日本車輛製造(株)技術部長 寺島道彦氏	日本車輛製造(株) 本社工場	70	日本機械学会 東海支部

開催年月日	会場	特別講演	見学先	参加者数	共催学協会
33. 8. 28	名古屋市工業研究所	「日本における光学工業の近況」 興服産業(株)興和光器製作所工場長 成松明寿氏 「最近のレンズ設計法一掃朝談」 東京大学生産研究所教授 工博 久保田広氏 「最近のカメラ」 千代田光学精工(株)豊川工場工場長 松本三喜氏 「小型映画について」 (株)エルモ社生産部長 榊 由信氏 「特殊レンズ(アナモフィックレンズ・ズームレンズ)について」 興服産業(株)興和光器製作所光学設計部長 小松聡一氏			
45. 2. 12	豊田工機(株)	「すべり軸受ところがり軸受」 京大工学名誉教授 佐々木外喜雄氏	豊田工機(株)	52	
45. 7. 28	鈴鹿工業高等専門学校	「西ドイツの高等工業教育の実態」 三重大学工学部 栗田 肇氏	鈴鹿工業高等専門学校 日本硝子繊維(株)	22	
46. 7. 28	自転車技術研究所	「ロボット技術について」 自転車技術研究所 浮田祐吉氏	自転車技術研究所 サントリー(株) 木曾川工場	26	
47. 10. 27	(株)大隈鉄工所	「シカゴ国際工作機械見本市を視察して」 (株)大隈鉄工所常務 長岡振吉氏	(株)大隈鉄工所 本社工場	70	中部自動化協会
47. 12. 6	三菱電機(株)名古屋製作所	「電気加工の最近の進歩」 三菱電機(株)名古屋製作所 斎藤長男氏	三菱電機(株) 名古屋製作所		日本機械学会 東海支部
48. 11. 14	豊田工機(株)	「無人化生産システムの動向」 豊田工機(株) 和田龍児氏	豊田工機(株)	63	〃
49. 5. 16	(株)大隈鉄工所	「最近のNC旋盤について」 (株)大隈鉄工所第一営業技術部長 後藤佳昭氏	(株)大隈鉄工所 本社工場	54	〃
49. 7. 5	石川島播磨重工業(株)名古屋造船所知多工場	「造船工場における操重運搬機械設備」 石川島播磨重工業(株) 船舶事業部知多工場技術開発設計室長 岡部昌人氏	石川島播磨重工業(株) 名古屋造船所 知多工場	49	〃
49. 11. 25	日本碍子(株)小牧工場	「500kV送電とその碍子」 日本碍子(株)小牧超高压試験所主査 内藤克彦氏	日本碍子(株)小牧工場および小牧超高压試験所	30	〃
50. 11. 6	中部電力浜岡原子力発電所	「原子力発電のすう勢と現状」 浜岡原子力発電所 加藤承胤氏	中部電力浜岡原子力発電所	44	〃
51. 2. 16	名古屋市工業技術試験所	「溶湯鍛造について」 名古屋工業技術試験所 鈴木鎮夫氏 「回転鍛造について」 名古屋工業技術試験所 久保勝司氏	名古屋工業技術試験所	40	日本塑性加工学会

開催年月日	会場	特別講演	見学先	参加者数	共催学協会
51. 2. 21	愛知県中小企業センター	「計量の歴史と SI 単位」 日本計量器工業連合会 小泉袈裟勝氏		53	日本設計製図学会東海支部
51. 5. 25	トヨタ自動車販売(株)春日パーツセンター	「自動車部品管理における機械化の限界」 トヨタ自動車販売(株) 名本二六雄氏	トヨタ自動車販売(株)春日パーツセンター	51	日本機械学会東海支部
51. 12. 4	名古屋大学 教養部	「設計管理における検図の意義と方法」 武蔵工業大学 大西 清氏 「最大実体の原理」 東京工業大学 吉本 勇氏		62	日本設計製図学会東海支部
52. 2. 15	愛知県中小企業センター	「米国における生産技術の動向」 「米国における生産技術の概要および大学における生産技術教育・研究」 京都大学 岡村建二郎氏 「工作機械の現状」 トヨタ自動車工業(株) 高瀬公有氏 「研究会社および企業研究所について」 NTN 東洋ベアリング(株) 工藤健一氏		35	精密工学会本部
52. 5. 26	三菱重工業(株)名古屋機器製作所岩塚工場	「機械工業におけるマイコン応用について」 三菱重工業(株)名古屋機器製作所 勝股琢磨氏	三菱重工業(株)名古屋機器製作所岩塚工場	80	日本機械学会東海支部
52. 7. 14	旭精機工業(株)	「自動化機器とプレス作業について」 旭精機工業(株) 佐藤貞雄氏	旭精機工業(株)	83	〃
52. 9. 12	愛知県工業指導所	「表面分析－その方法と限界－」 東京大学生産技術研究所 松永正久氏		57	愛知工研協会
52. 11. 10	東芝機械(株)沼津事業所	「大型工作機械の動向」 東芝機械(株) 沢田 潔氏	東芝機械(株)沼津事業所	46	日本機械学会東海支部
53. 2. 14	名古屋市工業研究所	「最近の切削工具と研削工具」 講師 4名		128	名古屋市工業研究所他
53. 4. 19	名古屋大学 工学部	“Computer Assisted Operation Planning” The University of Manchester Institute of Science and Technology, Profcssor B.J.Davies.		80	
53. 5. 17	日本車輛製造(株)豊川廠製作所	「新交通システムについて」 日本車輛製造(株)交通システム部 原田博司氏	日本車輛製造(株)豊川廠製作所	51	日本機械学会東海支部
53. 12. 7	三菱自動車工業(株)名古屋自動車製作所 岡崎工場	「自動車工業における溶接自動化の動向について」 三菱自動車工業(株)名古屋自動車製作所 生産技術部生産技術課長 三島 豊氏 「RC 型ロボットの特徴」 三菱重工業(株)名古屋航空機製作所 油圧機器部次長 大橋 宏氏	三菱自動車(株)名古屋自動車製作所 岡崎工場	60	〃

開催年月日	会場	特別講演	見学先	参加者数	共催学協会
54. 2. 27	名古屋市 工業研究所	「最近の小穴、深穴の切削加工に関する講演会」 講師 4名			名古屋市 工業研究所他
54. 5. 16	川崎重工業(株) 岐阜工場	「BK117 双発多用途ヘリコプターの開発について」 川崎重工業(株) 佐藤裕也氏	川崎重工業(株) 岐阜工場	55	日本機械学会 東海支部
54. 10. 23	東京焼結金属(株) 春日井工場	「焼結歯車の現状と問題点」 東京焼結金属(株) 神沼 一氏	東京焼結金属(株) 春日井工場	43	〃
54. 11. 8	名古屋市 工業研究所	「プレス機械類ならびにプレス技術の新しい考え方」 講演会 講師 4名		93	名古屋市 工業研究所他
55. 2. 26	名古屋市 工業研究所	「最近の微細穴あけ加工に関する講演会」 講師 4名		85	〃
55. 5. 20	中部電力(株) 知多火力 発電所	「LNG 焚きボイラを中心とした火力発電設備について」 中部電力(株) 竹内未男氏	中部電力(株) 知多火力発電所 ・知多 LNG 共同基地	50	日本機械学会 東海支部
55. 10. 14	(株)小糸製作所	「KCT 生産方式について」 (株)小糸製作所 松浦高雄氏	(株)小糸製作所 静岡工場	44	〃
55. 11. 7	名古屋市 工業研究所	「転造など回転成形の現状に関する講演会」 講師 5名			名古屋市 工業研究所他
55. 12. 9	新日本製鉄(株) 名古屋製鉄所	「鉄鋼業における省エネルギーについて」 新日本製鉄(株) 松井一美氏	新日本製鉄(株) 名古屋製鉄所	47	日本機械学会 東海支部
56. 2. 3	(株)山崎鉄工所	「工作機械の今後の動向について」 (株)山崎鉄工所 福村直慧氏	(株)山崎鉄工所 本社工場	76	〃
56. 2. 24	名古屋市 工業研究所	「最近の小径の切削・研削加工に関する講演会」 講師 3名		90	名古屋市 工業研究所他
56. 2. 27	名古屋市 工業研究所	「金属加工工程の騒音・振動抑制に関する講演会」 講師 2名		43	〃
56. 5. 21	日本電装(株) 高棚製作所	「自動車用メータの新しい動向」 日本電装(株) 鈴木 喜氏	日本電装(株) 高棚製作所	83	日本機械学会 東海支部
56. 5. 27	大豊工業(株)	「滑り軸受のプレス成形と精度」 大豊工業(株) 饗場 誠氏 「弾性ロールによる滑り軸受の曲げ加工」 大豊工業(株) 市川茂雄氏	大豊工業(株)	31	日本塑性加工学会 東海支部

開催年月日	会場	特別講演	見学先	参加者数	共催学協会
56. 10. 27	セントラル硝子(株) 松阪工場	「熱線反射ガラスについて」 セントラル硝子(株) 神立孝良氏	セントラル硝子(株)松阪工場、セントラルガラスファイバー(株)松阪工場	61	日本機械学会 東海支部 他
56. 11. 6	名古屋市工業研究所	「精密せん断加工の現状に関する講演会」 講師 6名			名古屋市工業研究所 他
56. 12. 10	村田機械(株)犬山工場	「FMSに適した自動搬送装置の例と将来」 村田機械(株) 並河紘一氏	村田機械(株) 犬山工場	81	日本機械学会 東海支部
57. 2. 18	名古屋市工業研究所	「最近の超精密加工に関する講演会」 講師 3名		95	名古屋市工業研究所 他
57. 6. 22	愛知厚生年金会館	「超精密加工・技能・入魂」 大阪大学工学部 津和秀夫氏		63	
57. 11. 5	名古屋市工業研究所	「プレス金型の設計・加工の現状に関する講演会」 講師 6名			名古屋市工業研究所 他
58. 2. 23	名古屋市工業研究所	「最近の超精密加工に関する講演会」 講師 3名		73	〃
58. 4. 26	エヌ・テー・エヌ東洋ベアリング(株) 桑名工場	「新しい軸受技術」 エヌ・テー・エヌ東洋ベアリング(株) 木全 圭氏	エヌ・テー・エヌ東洋ベアリング(株) 桑名工場	65	
58. 10. 17	吹上ホール	「これからの機械工業に関する講演会」 講師 2名			名古屋市工業研究所 他
58. 10. 27	豊橋技術科学大学 鈴木自動車工業(株)湖西工場	「エネルギー開発と大学の役割(豊橋技科大の場合)」 豊橋技術科学大学 大竹一友氏 「ながれ生産方式について」 鈴木自動車工業(株) 石黒昌之氏	豊橋技術科学大学 鈴木自動車工業(株)湖西工場	64	日本機械学会 東海支部
58. 11. 4	名古屋市工業研究所	「精密鍛造技術の現状と発展の方向に関する講演会」 講師 4名			名古屋市工業研究所 他
58. 12. 13	太平洋工業(株) 北大垣工場 三菱金属(株) 岐阜製作所	「タイヤバルブの変遷」 太平洋工業(株) 小森宏陌氏 「最近の超硬工具と工具材料について」 三菱金属(株) 能上 進氏	太平洋工業(株) 北大垣工場 三菱金属(株) 岐阜製作所	54	日本機械学会 東海支部
59. 2. 22	名古屋市工業研究所	「最近の超精密加工に関する講演会」 講師 3名		120	名古屋市工業研究所 他

開催年月日	会場	特別講演	見学先	参加者数	共催学協会
59. 5. 24	(株)大隈鉄工所	「工作機械のシステム化、知能化」 (株)大隈鉄工所 渡辺敏昭氏	(株)大隈鉄工所 本社工場	54	日本機械学会 東海支部
59. 11. 15	大豊工業(株)	「摩擦技術の研究開発システムについて」 大豊工業(株) 大塚隆之氏	大豊工業(株) 細谷工場		〃
59. 12. 7	愛知県中小企業センター	「最近の高能率研削技術に関する講演会並びに討論会」 講師 8名		32	精機学会重研削 技術専門委員会
59. 12. 11	東芝機械(株)	「超精密機械要素の評価」 東芝機械(株) 田中克敏氏	東芝機械(株) 工作機械事業部	60	日本機械学会 東海支部
60. 2. 19	名古屋市工業研究所	「最近の超精密加工に関する講演会」 講師 3名		85	名古屋市 工業研究所 他
60. 5. 23	三菱電機(株) 中津川製作所 飯田工場	「換気用送風機の低騒音化」 三菱電機(株)中央研究所 秋下貞夫氏	三菱電機(株) 中津川製作所 飯田工場	55	日本機械学会 東海支部
60. 7. 23	ブラザー工業(株) 瑞穂工場	「メカトロニクス製品の開発について」 ブラザー工業(株) 安井義博氏	ブラザー工業(株) 瑞穂工場	93	〃
60. 11. 21	シーケーディ(株)	「自動機械の現状と将来」 シーケーディ(株) 早川正俊氏	今仙電機製作所 シーケーディ(株)	55	〃
61. 3. 17	名古屋市工業研究所	「最近の超精密加工に関する講演会」 講師 3名			名古屋市 工業研究所 他
61. 5. 27	ヤマハ発動機(株)	「最近の二輪車の設計動向について」 ヤマハ発動機(株) 水谷昌司氏	ヤマハ発動機(株)	46	日本機械学会 東海支部
61. 6. 24	新日本製鉄(株) 名古屋製鉄所	「名古屋製鉄所における設備診断技術の開発について」 新日本製鉄(株)名古屋製鉄所 河原 孝氏	新日本製鉄(株) 名古屋製鉄所	36	〃
61. 9. 24	川崎重工業(株) 岐阜工場	「最近の航空機の技術について」 川崎重工業(株) 平木敏夫氏	川崎重工業(株) 岐阜工場	79	〃
61. 12. 11	浜松ホトニクス(株)	「画像計測技術とその応用」 浜松ホトニクス(株) 倉沢一男氏	浜松ホトニクス(株) 豊岡工場	54	〃
62. 2. 27	名城大学 理工学部	「最近の超精密加工に関する講演会」 講師 3名		92	名古屋市 工業研究所 他
62. 5. 26	中央発条 鳴海工場	「コイルばねの有限要素解析」 今泉敏幸氏	中央発条 鳴海工場	49	日本機械学会 東海支部
62. 9. 24	ノリタケカンパニーリミテド 本社工場	「ファインセラミックスの研削加工技術の現状と今後」 ノリタケカンパニーリミテド 酒井安昭氏	ノリタケカンパニーリミテド 本社工場	69	〃
62. 11. 17	日本トムソン(株) 岐阜・笠神製作所	「転がり直線運動案内システムの設計」 日本トムソン(株) 今井正也氏	日本トムソン(株) 岐阜・笠神製作所	67	
63. 9. 20	日本電装(株) 幸田製作所	「日本電装における自動車部品製造のFA事例について」 日本電装(株) 榎原 誠氏	日本電装(株) 幸田製作所	53	日本機械学会 東海支部

開催年月日	会場	特別講演	見学先	参加者数	共催学協会
63. 11. 8	三菱電機(株) 稲沢製作所	「最近の昇降機の技術について」 三菱電機(株) 松倉欣孝氏	三菱電機(株) 稲沢製作所	51	〃
平成 元. 3. 20	名城大学 理工学部	「最近の超精密加工に関する講演会」 講師 3名		92	名古屋市 工業研究所
元. 5. 22	富士電機(株) 三重工場	「自販機における電子化」 富士電機(株) 山口俊文氏	富士電機(株) 三重工場	65	
元. 5. 23	(株)ヤマザキマザック美濃加茂製作所	「ヤマザキマザックにおけるFAの歩み」 (株)ヤマザキマザック 溝口清久氏	(株)ヤマザキマザック 美濃加茂製作所	46	日本機械学会 東海支部
元. 9. 19	鈴木自動車工業(株) 湖西第一工場	「軽自動車の技術動向について」 鈴木自動車工業(株) 伊藤隆夫氏	鈴木自動車工業(株) 湖西第一工場	74	〃
元. 10. 3	アスモ(株) 本社工場	「自動車におけるモーターの利用について」 アスモ(株) 久保田祐一郎氏	アスモ(株) 本社工場	66	
元. 11. 15	(株)豊田自動織機製作所 本社	「カーエアコンコンプレッサの現状と今後」 (株)豊田自動織機製作所 中山尚三氏	(株)豊田自動織機製作所 本社 カーエアコンコンプレッサ工場	80	日本機械学会 東海支部
2. 2. 27	名城大学 理工学部	「最近の超精密加工に関する講演会」 豊田工機(株) 辻内敏雄氏、三洋電気(株) 土井 勝氏		70	名古屋市 工業研究所
2. 5. 22	豊田工機(株)本社工場	「製造業の10年先を読む」 豊田工機(株)専務取締役 和田龍児氏	豊田工機(株) 本社工場	67	
2. 5. 22	富士電機(株)鈴鹿工場	「誘導炉の現状と今後の動向」 富士電機(株)鈴鹿工場工業電熱部長 大森次治氏	富士電機(株) 鈴鹿工場	30	日本機械学会 東海支部
2. 10. 9	日本電装(株)豊橋製作所	「日本電装(株)豊橋製作所におけるFA化活動について」 日本電装(株)生産技術開発部主任 榊原 誠氏	日本電装(株) 豊橋製作所	60	
3. 1. 31	ミノルタカメラ(株)	「光を用いた計測機器の現状と今後の動向」 ミノルタカメラ(株)計測機器事業部製造部長 小坂 武氏	ミノルタカメラ(株)	46	日本機械学会 東海支部
3. 2. 12	三菱マテリアル(株) 岐阜製作所	「最近の超硬工具について」 三菱マテリアル(株)岐阜製作所 棚瀬照義氏	三菱マテリアル(株) 岐阜製作所	34	
3. 2. 28	名古屋市 工業研究所	「最近のエネルギービーム加工に関する講演会」		63	中部生産加工 技術振興会
3. 6. 20	浜松ホトニクス(株) 豊岡製作所	「光技術の未来像」 浜松ホトニクス(株)電子管事業本部電子管技術部長 大庭弘一郎氏	浜松ホトニクス(株) 豊岡製作所	44	日本機械学会 東海支部
3. 11. 27	三菱重工業(株)名古屋航空宇宙システム製作所 大江分工場	「宇宙に関する製造技術」 三菱重工業(株)名古屋航空宇宙システム製作所 大江工作部長 高倉 稔氏	三菱重工業(株)名古屋航空宇宙システム製作所 大江分工場	42	
3. 12. 4	神鋼電機(株)伊勢製作所	「クリーンルーム用移動ロボットの現状と動向」 神鋼電機(株)専務取締役 阿部栄司氏	神鋼電機(株) 伊勢製作所	39	日本機械学会 東海支部

開催年月日	会場	特別講演	見学先	参加者数	共催学協会
4. 3. 18	名古屋市工業研究所	「最近の微細加工に関する講演会」 セイコー電子工業(株)営業1グループ課長 滝沢 満氏 他2名			中部生産加工技術振興会
4. 5. 19	トヨタ自動車(株)田原工場	「トヨタクラウンの新車開発について」 トヨタ自動車(株)チーフエンジニア 渡辺浩之氏	トヨタ自動車(株)田原工場	80	日本機械学会 東海支部
4. 10. 28	東芝機械(株)沼津事業所	「レンズ成形用金型加工を主たる用途として開発された超精密非球面研削盤について」 東芝機械(株) 工作機械事業本部 田中克敏氏	東芝機械(株)沼津事業所	37	
5. 5. 13	日本電装(株)基礎研究所	「自動車の安全装置について」 日本電装(株)走行制御技術部次長 大槻弘己氏	日本電装(株)基礎研究所	50	日本機械学会 東海支部
5. 6. 1	リコーエレメックス(株)恵那事業所	「時計の自動化技術について」	リコーエレメックス(株)恵那事業所	32	〃
5. 10. 19	トヨタ自動車(株)東富士研究所	「将来の自動車機器における精密加工技術の開発」 トヨタ自動車(株)生技開発部部長 園田 徹氏	トヨタ自動車(株)東富士研究所	71	〃
5. 12. 15	三菱重工業(株)名古屋航空宇宙システム製作所小牧南工場	「最近の航空機技術の動向」 三菱重工業(株) 将来民間機担当課長 佐藤啓二氏	三菱重工業(株)名古屋航空宇宙システム製作所小牧南工場	58	〃
6. 5. 19	(株)東芝三重工場	「一般産業用電動機の現状と技術動向」 (株)東芝 重電技術研究所部長 鈴木 功氏、主査 石橋文徳氏	(株)東芝三重工場	45	〃
6. 10. 19	日本特殊陶業(株)	「セラミックス IC パッケージの動向」	日本特殊陶業(株)	38	〃
6. 11. 9	ヤマハ蒲郡製造(株)	「FRP製の小型船舶の設計から製造までの流れや複合材料の適用事例などの説明」 ヤマハ蒲郡製造(株)社長 蒲谷勝治氏	ヤマハ蒲郡製造(株)	50	〃
6. 12. 15	イビデン(株)青柳工場	「プリント配線板の現状と今後の技術動向」	イビデン(株)青柳工場	35	〃
7. 5. 16	NTN(株)桑名製作所	「ころがり軸受の新技術開発動向」 NTN(株)軸受技術研究所 所長 対馬全之氏	NTN(株)桑名製作所	49	〃
7. 10. 18	オーエスジー(株)八名工場	「メネジ加工の高速化と難削材加工技術の動向」 オーエスジー(株) 設計課長 林茂氏	オーエスジー(株)八名工場	34	〃
7. 11. 21	(株)豊田自動織機製作所高浜工場	「バッテリーフォークリフトの最近の動向」 (株)豊田自動織機製作所 技術部部長 片山巖氏	(株)豊田自動織機製作所高浜工場	31	〃
8. 5. 29	川崎重工業(株)岐阜工場	「航空機におけるCFDの研究と応用」 川崎重工業(株) 岐阜技術研究所 機体技術研究部 嶋英志氏	川崎重工業(株)岐阜工場	47	〃
8. 10. 3	(株)ニデック捨石工場	「技術開発とマーケット戦略及び今後の展望」 (株)ニデック代表取締役 小澤秀雄氏	(株)ニデック捨石工場	27	〃
8. 11. 5	(株)日立製作所	「空調機・冷凍機の最近の技術動向」 (株)日立製作所空調システム事業部 主管技師長 寺田浩清氏	(株)日立製作所	40	〃
8. 11. 28	(株)デンソー豊橋製作所	「人・機械協調型生産システムについて」 (株)デンソー生産技術部 次席部員 土屋総二郎氏	(株)デンソー豊橋製作所	45	〃

開催年月日	会場	特別講演	見学先	参加者数	共催学協会
9. 5. 15	三菱電機(株) 名古屋製作所	「型彫り放電加工機／ワイヤ放電加工機の最新加工技術」 三菱電機(株)メカトロ技術開発課主事 真柄卓司氏	三菱電機(株) 名古屋製作所	29	〃
9. 9. 12	(株)リコー 沼津事業者	「機能性有機材料の商品化プロセスについて」 (株)リコー RS 開発センター 次長 津布子一男氏	(株)リコー 沼津事業者	24	〃
9. 11. 6	ファイン セラミックス センター	「構造用セラミックス利用の現状と将来」 (財)ファインセラミックスセンター試験研究所 首席研究員 角岡 勉氏	ファイン セラミックス センター	26	〃
9. 12. 12	オークマ(株) 可児工場	「工作機械の最新の技術動向について」オークマ(株) 取締役 技術本部長 花木義磨氏	オークマ(株) 可児工場	32	〃
10. 5. 21	トヨタ自動車(株) 田原工場	「ハイブリッド車プリウスの開発」 トヨタ自動車(株)第2開発センター チーフエンジニア 内山田竹志氏	トヨタ自動車(株) 田原工場	63	〃
10. 8. 28	三菱電機(株) 名古屋製作所	「放電加工による表面処理」 三菱電機(株)放電システム部 開発課長 毛呂俊夫氏	三菱電機(株) 名古屋製作所	29	〃
10. 11. 4	三菱自動車工業(株) 岡崎工場	「最新のエンジンの燃焼制御技術」 三菱自動車工業(株)乗用車技術センター エンジン研究部 部長 安東弘光氏	三菱自動車工業(株) 岡崎工場	39	〃
11. 1. 29	鍋屋工業(株) 関工園	「“ものづくり”の原点を見つめて」 鍋屋工業(株) 代表取締役 岡本太一氏	鍋屋工業(株) 関工園	20	〃
11. 10. 22	(株)樹研工業	「中小企業の技術管理」 (株)樹研工業 代表取締役 松浦元男氏	(株)樹研工業	30	〃
12. 5. 19	アイシン・エイ・ ダブリュ(株) 岡崎工場	「アイシン・エイ・ダブリュにおけるカーナビの開発経緯と今後の動向」 アイシン・エイ・ダブリュ(株) 常務取締役 伊藤健治氏	アイシン・エイ・ ダブリュ(株) 岡崎工場	53	〃
12. 6. 9	NTN(株) 磐田製作所	「最近の軸受技術の動向について」 NTN(株) 軸受技術部 部長 岡田健治氏	NTN(株) 磐田製作所	35	〃
12. 11. 17	(株)豊田自動織 機製作所 共和工場	「プレス金型の設計・製作における CAD、CAM、CAE の取り組み」 (株)豊田自動織機製作所 工機事業部型技術室 室長 工藤恭二氏	(株)豊田自動織機 製作所 共和工場	26	〃
13. 6. 22	大信精機(株)	「(株)デンソーにおける生産システム開発」 (株)デンソー生産技術部 主任部員 瀧口昌之氏	大信精機(株)	40	〃
13. 10. 5	大同メタル工 業(株) 犬山事業所	「F-1、カードを支える高速エンジン用すべり軸受の役割」 大同メタル工業(株) 第1カンパニー 設計室長 水野吉一氏 「船用エンジンの高出力化を支えるすべり軸受の役割」 大同メタル工業(株) 第2カンパニー 設計室長 岡戸 篤氏 「大同メタルにおけるエコマシニングの現状について」 大同メタル工業(株) 第5カンパニー 開発担当 吉村 宏氏	大同メタル工業(株) 犬山事業所	33	〃
14. 9. 19	旭ダイヤモンド 工業(株) 三重工場			16	〃
15. 6. 6	東芝機械(株) 精密機器 事業部	「東芝機械における超精密加工機と最近の超精密加工」 東芝機械(株) 精密機器事業部専任技監 田中克敏氏	東芝機械(株) 精密機器事業部	32	〃

開催年月日	会場	特別講演	見学先	参加者数	共催学協会
15. 11. 25	(株)大同キャスティング (株)ダイドー電子	「希土類磁石の動向」 (株)ダイドー電子 開発部長 古谷嵩司氏	(株)大同キャスティングス 中津川工場 (株)ダイドー電子 本社工場	12	〃
16. 9. 24	ヤマハ(株) 豊岡工場	管楽器工場の説明 「TPM 活動の経緯含む製造革新の状況」 電子楽器& PA 組立工場の説明	ヤマハ(株) 豊岡工場	31	〃
17. 10. 7	西 島 (株)	「産学協同による”ものづくり”の取り組み」 西島(株) 代表取締役社長 西島篤氏	西 島 (株)	20	〃
17. 11. 18	セイコーエプソン(株) 広丘事業所	「商品開発プロセス改革－試作機能強化への取り組み－」 情報画像事業本部 情報画像生産技術部 部長 藤崎清一 「金型製造におけるシステム化推進と人材育成」 広丘事業所 I I P生産グループ 課長 金井保人氏	セイコーエプソン(株) 金型工場	44	〃
18. 5. 12	(株)森精機製作所 伊賀事業所	「セル生産について」 (株)森精機製作所 製造企画部 生産管理課 マネージャー 重本公司氏	(株)森精機製作所 伊賀事業所 伊賀第二工場	54	〃
18. 11. 24	三菱電機(株) 名古屋製作所	「放電加工の最新技術と精密加工事例」 三菱電機(株)放電システム部加工技術課長 大場信昭氏	三菱電機(株) 名古屋製作所	38	〃
19. 5. 10	ブラザー(株)	「TC (タッピングセンタ) の歴史と今後の可能性」 ブラザー工業 M&S カンパニー 開発部開発設計 2G グループマネージャー 山田高志氏	ブラザー工業(株) ブラザーコミュニケーションズ ベース	29	〃
19. 11. 22	(株)メニコン 総合研究所	「眼科用レンズの製法と評価試験法の概要」 総合研究所 計測分析課 課長 石原賢一氏 総合研究所 計測分析課 係長 松岡基道氏 総合研究所 生物化学課 伴野佳弘氏	(株)メニコン総合 研究所	26	〃
20. 5. 23	日本特殊陶業(株) 小牧工場	「グロープラグの概要と製造方法」 自動車関連事業本部・プラグ事業部・グロー技術部 谷口雅人氏 「セラミック工具の特徴と適用事例」 セラミック関連事業本部・機械工具事業部・技術部 浦島和浩氏	日本特殊陶業(株) 小牧工場	25	〃
20. 11. 14	東芝機械(株) 沼津本社	「超精密加工機と精密金型加工事例」 精密機器事業部・加工開発センター センター長 天野啓氏	東芝機械(株) 沼津本社	25	〃
21. 5. 22	住友重機械工業(株) 名古屋製造所	「サイクロ減速機の歴史」 P T C事業部・開発部 峯岸清次氏 「産業用モータ高効率化の現状」 P T C事業部・開発部 水谷清信氏	住友重機械工業(株) 名古屋製造所	22	〃
21. 10. 22	ヤマハ発動機(株)	「ショートラインセル開発報告」 第2 S y S 部 H / C S y S 課 戸谷裕司氏 「アルミ加工技術報告」 第2 S y S 部 H / C S y S 課 多田幸彦氏	ヤマハ発動機(株)	20	〃
22. 5. 21	オーエスジー(株) 大池工場	「切削工具用セラミックコーティング」 技術部開発グループ新コーティング 開発チームリーダー 戸井原孝臣氏 「最新切削工具の加工事例」 企画部CSセンター 顧客サポートチーム1係リーダー 菅原 清氏	オーエスジー(株) 大池工場	45	〃

開催年月日	会場	特別講演	見学先	参加者数	共催学協会
22. 11. 12	NTN(株) 産機技術開発 センター	「工作機械の動向と主軸軸受の適用技術」 産業機械事業本部 産業機械技術部 主査 多胡浩史氏 「セラミック内輪高速円筒ころ軸受の開発」 要素技術研究所 トライボロジーグループ 主査 古林卓嗣氏	NTN(株) 桑名製作所	19	〃
23. 5. 20	アイシン精機(株)	「キレイ便座の開発」 車体生技部L&E生準グループ グループマネージャー 鳥居 厚男氏 「フェムト秒ファイバーレーザーとその産業応用」 新規事業企画室イムラレーザー技術グループ グループマネージャー 上原 譲氏	アイシン精機(株) 安城工場	26	〃
23. 10. 21	新東工業(株) 豊川製作所	「液晶・有機EL・半導体マスクにおける寸法管理」 新東Sプレジジョン(株) 開発製造グループマネージャー 青木達也氏 「精密測定・計測分野への高精度セラミックス活用」 新東工業(株) 研究開発センター 主任担当員 森光英樹氏	新東工業(株) 豊川製作所	22	〃
24. 5. 25	(株)デンソー 安城製作所	「自動車用スタータ・モータコンミテーター一体コイルの線材冷鍛 技術の開発」 電機製造1部 担当課長 高田雅広氏	(株)デンソー 安城製作所	28	〃
24. 10. 19	トヨタ自動車(株) 上郷工場	「アルミ部品の環境対応加工技術開発」 加工・組付要素生技部 グループ長 西 俊行氏	トヨタ自動車(株) 上郷工場	30	〃
25. 5. 31	(財)ファイン セラミックス センター JFCC	ショートプレゼンテーション ・微構造解析技術 ・材料設計のための第一原理計算の活用 ・耐熱・耐環境厚膜のコーティング技術 ・高離型性を有する型部材の開発 ・タングステン超硬代替材料の開発 ・研磨表面の解析技術	(財)ファイン セラミックス センター (JFCC)	28	〃
25. 10. 11	(株)森精機製作所	「先端加工の紹介」 営業エンジニアリング本部 伊賀加工技術部 部長 大岩一彦氏	(株)森精機製作所 伊賀事業所	27	〃
26. 5. 30	ブラザー工業(株) 刈谷工場	「ブラザー工作機械の原点と成長」 マシナリー・アンド・ソリューション カンパニー 開発部 開発設計2G GM 栗木一輝氏	ブラザー工業(株) 刈谷工場	21	〃
26. 10. 9	東芝機械(株) 沼津本社工場	「“工作機械を支える静圧軸受技術” - 大型工作機械～超精密への 適用例と精密立形加工機における具体例 -」 ナノ加工システム事業部 技術顧問 勝木雅英氏	東芝機械(株) 沼津本社工場	29	〃
27. 5. 22	NTN(株) 磐田製作所	「NTNの取り組むモジュール商品」 常務執行役員 梅本武彦氏	NTN(株) 磐田製作所	29	〃
27. 6. 5	大同特殊鋼(株) 星崎工場	「チタンの基礎特性と特徴あるチタン合金のご紹介」 大同特殊鋼(株) 研究開発本部 特殊鋼研究所 耐食・耐熱材料研究室 副主任研究員 小柳禎彦氏	大同特殊鋼(株) 星崎工場	30	〃
28. 5. 19	三菱 マテリアル(株)	「三菱マテリアルの穴あけ工具とその技術」 加工事業カンパニー開発本部 ドリル・超高压開発センター センター長 鈴木克征氏	三菱マテリアル(株) 岐阜製作所	31	〃

開催年月日	会場	特別講演	見学先	参加者数	共催学協会
28. 12. 22	オーエスジー(株)	「切削加工シミュレーション解析事例紹介」 デザインセンター 開発グループエンドミル開発チーム 高井一輝氏 「航空機産業への取り組み紹介」 デザインセンター開発グループリーダー 辻村桂司氏	オーエスジー(株) グローバル テクノロジー センター	22	〃
29. 7. 26	F D K エナジー(株)	「完全自動化ラインによる電池の生産現場」 代表取締役社長 筒井清英氏	F D Kエナジー(株)	22	〃
29. 11. 16	(株)ナガセイ テグレックス	「最新の超精密加工機と加工事例紹介」 常務取締役 技術統括 板津武志氏 「高機能研削盤の新開発ソフトウェア等の紹介」 常務取締役 技術部部长 新藤良太氏	(株)ナガセイ テグレックス	18	〃
30. 5. 18	C K D(株)	「医薬品包装工程におけるインライン検査の最新技術」 自動機械事業本部 技術開発統括部 第1技術開発部 第3G 神戸聡氏	C K D(株)	24	〃
30. 10. 25	中部高周波 工業(株)	「ダイレクト接合技術と熱交換流路内臓金型」 代表取締役社長 高橋義孝氏 (株)松岡鉄工所 代表取締役社長 松岡秀範氏	中部高周波工業(株)	21	〃
令和 元. 5. 24	(株)酒井製作所	「(株) 酒井製作所 - 歴史と製品の変遷」 代表取締役 酒井隆行氏	(株)酒井製作所	19	〃
元. 10. 31	村田機械(株)	「量産部品加工対応「旋盤」及び「周辺装置」の最新動向」 執行役員 工作機械事業部 技術統括部長 松野修氏	村田機械(株) 犬山事業所	17	〃
2. 10. 30	(株)名光精機	「ハイパー知能研削複合一貫加工化によるタービンプレードの 高精度・高効率加工の実現」 (株)名光精機 技監 織田善教氏	(株)名光精機	12	〃
3. 10. 29	ヤマザキマ ザック工作機 械博物館	特別講演会「産業革命と近代工作機械」 副館長 高田芳治氏	ヤマザキマザック 工作機械博物館	15	〃

6.3 ものづくり実践講座

表8 ものづくり実践講座

会期	開催年月日	会場	内 容	共催・協賛学会	参加人数
52	平成 16. 9. 27	名古屋大学	自動化技術	日本機械学会東海支部	12
	16. 9. 28	名古屋大学	切削加工	〃	12
53	17. 9. 5	名古屋大学	自動化技術	〃	10
	17. 9. 6	名古屋大学	振動切削加工	〃	16
54	18. 9. 4	名古屋大学	自動化技術	日本機械学会東海支部 (社)自動車技術会	11
	18. 9. 5	名古屋大学	振動切削	〃	12
	18. 9. 6	名古屋大学	振動切削	〃	10

会期	開催年月日	会 場	内 容	共催・協賛学会	参加人数
55	19. 9. 4	ヤマザキマザック (株)本社および技術 研修センター	デジタルエンジニアリング：基礎から加工の実際まで	日本機械学会東海支部、 自動車技術会中部支部、 日本塑性加工学会東海 支部、日本設計工学会 東海支部、計測自動制 御学会中部支部	19
	19. 9. 6	(株)デンソー・高棚 製作所	実工場で学ぶ生産システムとスケジューリングの基礎	〃	9
	19. 9. 19	名古屋大学	振動切削	〃	14
	19. 9. 20	名古屋大学	自動化技術	〃	7
	19. 9. 21	名古屋大学	プラズマによる薄膜製造技術とトライボロジー特性の評価	〃	14
	19. 9. 25	住友軽金属工業(株)	材料加工技術	〃	7
56	20. 9. 4	ヤマザキマザック (株)本社および技術 研修センター	デジタルエンジニアリング：基礎から加工の実際まで	〃	9
	20. 9. 5	(株)デンソー・高棚 製作所	実工場で学ぶ生産システムとスケジューリングの基礎	〃	11
	20. 9. 11	名古屋大学	振動切削	〃	6
	20. 9. 12	名古屋大学	自動化技術	〃	9
	20. 9. 30	住友軽金属工業(株)	材料加工技術	〃	7
	20. 10. 3	名古屋大学	プラズマによる薄膜製造技術とトライボロジー特性の評価	〃	4
57	21. 9. 4	ヤマザキマザック (株)本社および技術 研修センター	デジタルエンジニアリング：基礎から加工の実際まで	〃	16
	21. 9. 7	(株)デンソー・高棚 製作所	実工場で学ぶ生産システムとスケジューリングの基礎	〃	5
	21. 9. 17	名古屋大学	振動切削	〃	9
	21. 9. 18	名古屋大学	自動化技術	〃	11
	21. 9. 25	名古屋大学	プラズマによる薄膜製造技術とトライボロジー特性の評価	〃	9
	21. 9. 30	住友軽金属工業(株)	材料加工技術	〃	10
58	22. 9. 3	アイコクアルファ(株) 名古屋事務所	未来工場へのアプローチ	〃	10
	22. 9. 13	名古屋大学	振動切削	〃	6
	22. 9. 30	名古屋大学	プラズマによる薄膜製造技術とトライボロジー特性の評価	〃	11
59	23. 9. 12	名古屋大学	自動化技術	〃	12
	23. 9. 13	名古屋大学	振動切削	〃	7

会期	開催年月日	会 場	内 容	共催・協賛学会	参加人数
60	23. 9. 13	アイコクアルファ(株) 名古屋事務所	見える化・ヴァーチャル工場へのアプローチ	〃	10
	23. 9. 27	名古屋大学	プラズマによる薄膜製造技術とトライボロジー特性の評価	〃	5
	24. 9. 3	名古屋大学	自動化技術	〃	9
	24. 9. 4	名古屋大学	振動切削	〃	7
	24. 9. 6	富士通東海支社	見える化・ヴァーチャル工場へのアプローチ	〃	19
	24. 9. 7	名古屋工業大学	ひずみゲージの活用講座	〃	12
61	24. 9. 25	名古屋大学	プラズマによる薄膜製造技術とトライボロジー特性の評価	〃	4
	25. 9. 5	富士通東海支社	見える化・ヴァーチャル工場へのアプローチ	〃	15
	25. 9. 6	名古屋大学	振動切削	〃	7
	25. 9. 9	名古屋大学	自動化技術	〃	10
	25. 9. 20	名古屋工業大学	ひずみゲージの活用講座	〃	9
62	25. 9. 25	名古屋大学	プラズマによる薄膜製造技術とトライボロジー特性の評価	日本機械学会東海支部、 名古屋大学リーディング 大学院、自動車技術 会中部支部、日本塑性 加工学会東海支部、日 本設計工学会東海支部、 計測自動制御学会中部 支部	11
	26. 9. 4	名古屋大学	振動切削	〃	7
	26. 9. 5	名古屋大学	自動化技術	〃	13
	26. 9. 11	名古屋工業大学	ひずみゲージの活用講座	〃	10
	26. 9. 12	富士通東海支社	見える化・ヴァーチャル工場へのアプローチ	〃	11
	26. 9. 29	名古屋大学	プラズマによる薄膜製造技術とトライボロジー特性の評価	〃	9
63	27. 9. 9	名古屋大学	振動切削	〃	13
	27. 9. 10	名古屋大学	自動化技術	〃	13
	27. 9. 11	三菱電機(株) 名古屋製作所	知能化ロボットをあやつる理論から操作実演まで	〃	10
	27. 9. 14	名古屋工業大学	ひずみゲージの活用講座	〃	9
	27. 9. 29	名古屋大学	プラズマによる薄膜製造技術とトライボロジー特性の評価	〃	7
	27. 10. 2	愛知工業大学	3D プリンターを用いた事業発展の可能性を探る	〃	14
64	28. 9. 12	名古屋大学	振動切削	〃	7
	28. 9. 13	名古屋大学	自動化技術	〃	12
	28. 9. 14	名古屋工業大学	ひずみゲージの活用講座	〃	11

会期	開催年月日	会 場	内 容	共催・協賛学会	参加人数
	28. 9. 16	三菱電機㈱ 名古屋製作所	知能化ロボットをあやつる理論から操作実演まで	〃	11
	28. 9. 26	名古屋大学	プラズマによる薄膜製造技術とトライボロジー特性の評価	〃	6
	28. 9. 30	愛知工業大学	3D プリンターを用いた事業発展の可能性を探る	〃	9
65	29. 9. 11	名古屋大学	振動切削	〃	12
	29. 9. 12	名古屋大学	自動化技術	〃	12
	29. 9. 13	名古屋工業大学	ひずみゲージの活用講座	〃	6
	29. 9. 15	三菱電機㈱ 名古屋製作所	知能化ロボットをあやつる理論から操作実演まで	〃	7
	29. 9. 26	名古屋大学	表面近傍の可視化が拓く炭素系硬質薄膜トライボロジー特性の評価	〃	9
66	30. 9. 18	名古屋大学	振動切削	〃	12
	30. 9. 19	名古屋大学	自動化技術	〃	12
	30. 9. 20	名古屋工業大学	ひずみゲージの活用講座	〃	6
	30. 9. 26	名古屋大学	表面近傍の可視化が拓く炭素系硬質薄膜トライボロジー特性の評価	〃	5
67	31. 8. 30	㈱青山製作所 可児工場	ねじ部品の正しい選択と締付け作業の実際	日本機械学会東海支部、 自動車技術会中部支部、 日本塑性加工学会東海支部、 日本設計工学会東海支部、 計測自動制御学会中部支部	8
	31. 9. 2	豊田工業大学	オペアンプ回路の基礎と応用	〃	3
	31. 9. 12	名古屋大学	振動切削	〃	6
	31. 9. 13	名古屋大学	自動化技術	〃	12
	31. 9. 24	名古屋大学	伝えるちから	〃	16
	31. 9. 26	名古屋工業大学	ひずみゲージの活用講座	〃	5
	31. 9. 27	名古屋大学	表面近傍の可視化が拓く炭素系硬質薄膜トライボロジー特性の評価	〃	3
68	令和 2. 9. 30	名古屋大学	伝えるちから	〃	2
69	3. 9. 9	名古屋大学	伝えるちから	〃	5
	3. 9. 10	愛知工業大学	3D プリンタ造形物で学ぶ材料力学とその応用	〃	2
	3. 9. 26	名古屋大学	表面近傍の可視化が拓く炭素系硬質薄膜トライボロジー特性の評価	〃	8

会期	開催年月日	会 場	内 容	共催・協賛学会	参加人数
70	4. 9. 16	名古屋大学	自動化技術	〃	5
	4. 9. 26	名古屋大学	表面近傍の可視化が拓く超高機能コーティングのトライボロジー特性の評価	〃	7

6.4 東海支部創立記念事業

東海支部創立記念事業は10年毎の10周年、20周年、30周年、40周年、50周年、60周年に記念式典が実施され、今回70周年には記念式典を実施し、記念誌も編まれることとなった。

表9 支部記念事業

周年・委員長	年月日	会 場	特 別 講 演	参加者数
設立総会	昭和 28. 6. 11	愛知県 商工館ホール	学術講演会 :10 件 特別講演：「サーボ機構とその性能試験について」 東京工業大学教授 中田 孝氏 「非切削加工による歯車の工作」 東北大学教授 成瀬政男氏 共催：中部歯車懇親会	
10周年 古田久一	37. 10. 24	名古屋市 工業研究所	記念式典 特別講演：「ニューセラミックスについて」 日本硝子(株) 常務取締役研究所長工博 貴田勝造氏	
20周年 岩波健彦	48. 6. 16	名古屋大学 工学部7号館 名古屋大学 職員会館	学術講演会：18 件 記念式典 記念講演：「精機学会東海支部 20年のあゆみ」 日本陶器(株) 岡井 弘氏 特別講演会：「これからの機械工業」 会長 浮田祐吉氏 懇親会	
30周年 加藤 仁	57. 6. 22	愛知厚生年会館	記念式典 記念講演：「支部 30 年を顧みて」 愛知工業大学教授 春日保男氏 特別講演：「超精密加工技能入魂」 大阪大学工学部教授 津和秀夫氏 祝賀会	63 53
40周年			記 念 誌 出 版	
50周年 佐藤一雄	平成 14. 6. 21	名古屋 国際会議場	記念式典 記念講演：“夢が実現化されつつある「ナノテクノロジー」” 大阪大学教授 川合知二氏 記念講演：“「ものづくり」への心配と期待” ノンフィクション作家 山根一真氏 祝賀会	
	14. 12. 6	名古屋 国際会議場	記念フォーラム(予定)	
			記 念 誌 出 版	

周年・委員長	年月日	会 場	特 別 講 演	参加者数
60周年 堀 康 徳	24. 6. 22	名鉄 ニューグランド ホテル	記念式典 記念講演：「はやぶさ」が挑んだ人類初の往復の宇宙飛行、その7年間の歩み 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 川口淳一郎博士 記念講演：「未来社会と科学技術」 日本大学 教授 加藤康司博士	143
			祝賀会	46
70周年 伊 藤 敦	令和 4. 11. 25	ストリングス ホテル名古屋	記念式典 記念講演：「グリーンイノベーション基金事業の概要について」 経済産業省 産業技術環境局 環境政策課 カーボンニュートラルプロジェクト推進室 産業技術総括調査官 田中真悟氏 記念講演：「気候変動と科学技術」 日本放送協会 メディア総局解説委員室 解説主幹 土屋敏之氏	45
			祝賀会	42
記 念 誌 出 版				

(注) 10周年は第37期秋季大会にあわせて実施された。

6.5 秋季大会

東海支部地区において開催された全国大会はこの70年間に10回ある。東海支部創立当初は、支部数が少ないこともあって、3年おきに昭和31年、34年、37年と続けて実施を任されてきた。そのためもあってか、次の開催までには12年の空白期間があった。

以降は、各支部持ち回りで輪番で(関西支部のみは一巡中2回)開催を受けもつこととなった。担当するのに1年以上の準備期間が必要な一大行事となったが、東海支部の盛況を全国の学会員に知ってもらうためには絶好な機会であった。

表 10 秋季大会

開催年月日	開催場所	参加人数	一般講演数	特 別 講 演	行事、見学先
1956年 昭和31年 10/24～25	愛知県 商工会館	160	32件	高速コロガリ軸受の趨勢 ・能登 鉄治氏 (東洋ベアリング㈱)	見学遊覧会(25日) ・関刃物㈱、フェザー安全剃刀 —又はソリバー安全剃刀 ・日本刀鍛錬場—鶴飼実演場 ・トヨタ自動車工業㈱—勘八峡 —名古屋城跡—テレビ塔 ・興和光機器製作所—蒲郡観光
1959年 昭和34年 11/11～13	名古屋市中区 役所ホール	180	35件	振動工学と超音波工学ならびに これ等工業の現状 ・西村 源六郎氏 (東京大学教授) 近代時計工業について ・岩波 健彦氏 (高野精密工業㈱)	見学会(13日) ・日本ミシン製造㈱ ・㈱大隈鉄工所 ・名古屋城
1962年 昭和37年 10/24～26	名古屋市工業 研究所	250	50件	歯車の精度に関する諸問題 ・中田 孝氏 (東工大教授)	東海支部10周年記念式典 ・記念講演 ニューセラミックスについて 貴田勝造氏 (日本硝子㈱) 見学会(26日) ・トヨタ自動車工業㈱ ・豊田工機㈱ ・太平洋工業㈱ ・岐阜精機㈱

開催年月日	開催場所	参加人数	一般講演数	特別講演	行事、見学先
1967年 昭和42年 11/7～10	愛知県中小企業センター	250	111件	最近の精密計測の進歩 ・蓮沼 宏氏 (東京大学教授)	見学会(10日) ・日本電装(株) ・新東工業(株) ・村田機械(株)
1974年 昭和49年 10/20～23	名古屋大学工学部	600	213件	名城をみる ・城戸 久氏 (名城大学) 日本の航空機工業の現状と将来 ・佐々木 義雄氏 (三菱重工業(株))	臨時総会 見学会(23日) ・ブラザー工業(株) ・日本電装(株)
1982年 昭和57年 10/18～21	名古屋大学工学部	1200	242件	核融合研究の現状と未来展望 ・垣花 秀武氏 (名古屋大学)	見学会(21日) ・(株)大隈鉄工所 ・日本特殊陶業(株)
1991年 10/1～4	静岡大学工学部	1300	487件	光先端技術 ・書馬 輝夫氏 (浜松ホトニクス(株))	見学会(4日) ・ヤマハ(株) ・浜松ホトニクス(株)
2000年 平成12年 10/6～9	名古屋工業大学	1080	523件	- 21世紀の“モノ”づくり - (IT革命による変化) ・蛇川 忠暉氏 (トヨタ自動車(株)副社長)	見学会(9日) ・オークマ(株)可児工場 ・日本ガイシ(株)本社工場 ・三菱電機(株)名古屋製作所 ・ヤマザキマザック(株) 本社・大口工場 ・先端技術紹介セッション ・特別イベント 「ネットワーク未来工場 -ここまで来たネットワーク 利用とオープン化-」
2010年 平成22年 9/27～29	名古屋大学工学部	474	444		・先端技術紹介セッション ・国際シンポジウム 「アジア諸国の精密・マイクロ工学研究事情」 「超精密加工と超高精度計測技術の融合」 ・機器・カタログ・パネル展示会
2019年 平成31年 9/4～6	静岡大学工学部	354	375	「SKYACTIVE に込めるこれからのクルマづくり, 守るべきもの, 変えるべきもの」 ・廣瀬一郎氏 (マツダ(株)専務執役員)	・学生によるポスターセッション ・先端技術パネル・機器展示, カタログ展示, ランチョンセミナー ・シンポジウム 「バイクのふるさと浜松で語るバイクテクノロジーの現在・過去・未来」 「最新の超精密微細加工と非球面計測の最前線」 「光の先端都市・浜松から発信する新しい光・フォトニクス技術」 「ピコ精度加工と機能創成加工が開く高付加価値製造技術」

6.6 創立70周年コンテスト企画

東海支部創立70周年記念事業の一環として、①ロゴマーク募集、②ものづくりフォトコンテスト、③絵画・イラスト・CGコンテストを実施した。受賞作品は以下の通り。

■東海支部ロゴマーク

精密工学会の略称である「JSPE」の4文字と東海支部を表す「Tokai」の5文字を合わせて作品をデザインし、「精密工学」という科学技術分野に対するイメージをロゴマークとして表現

<最優秀賞>

小笠原 孝恵 様



■ものづくりフォトコンテスト～「精密を極める」～

「ものづくり」の素晴らしさや凄さなどが伝わる作品（写真）を募集

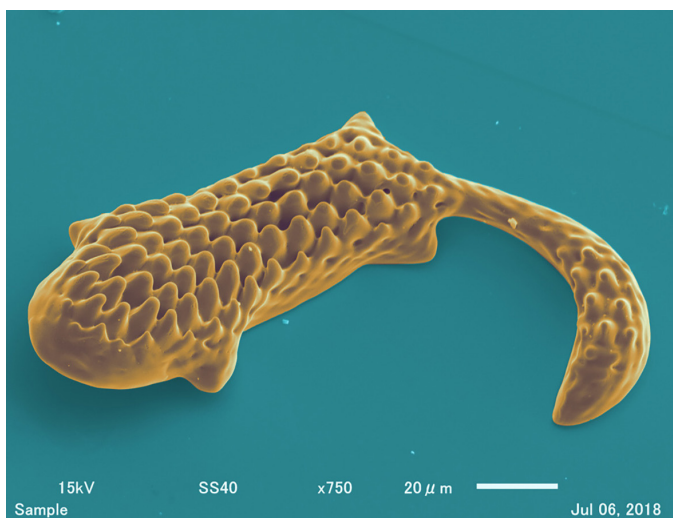
<最優秀賞>

東京大学先端科学技術研究センター
増井 周造 様

“微飛驒山椒魚 /
マイクロヒダサンショウウオ”

< 作品に込めた思い >

研究室独自開発のワンショット3次元光造形法で加工した“マイクロヒダサンショウウオ”です。体幅は40μmと髪の毛よりも細く、光硬化性樹脂の硬化収縮によって全体に躍動感が生まれています。



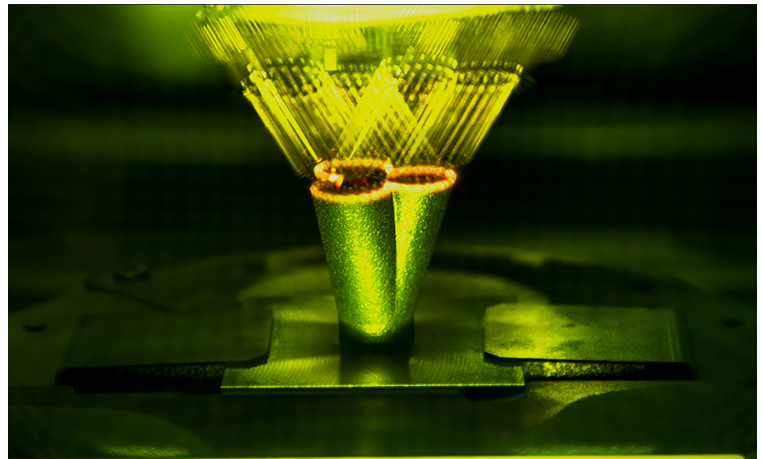
<優秀賞>

DMG 森精機株式会社
鈴木 愛弓 様

“軌 跡”

<作品に込めた思い>

連続的に撮影し重ね合わせることで実際には見ることのできない金属積層加工の軌跡を写し取りました。目に見えないほど小さく精巧な加工が積み重なることで描き出す軌跡の美しさを感じ取ってもらえればと思います。



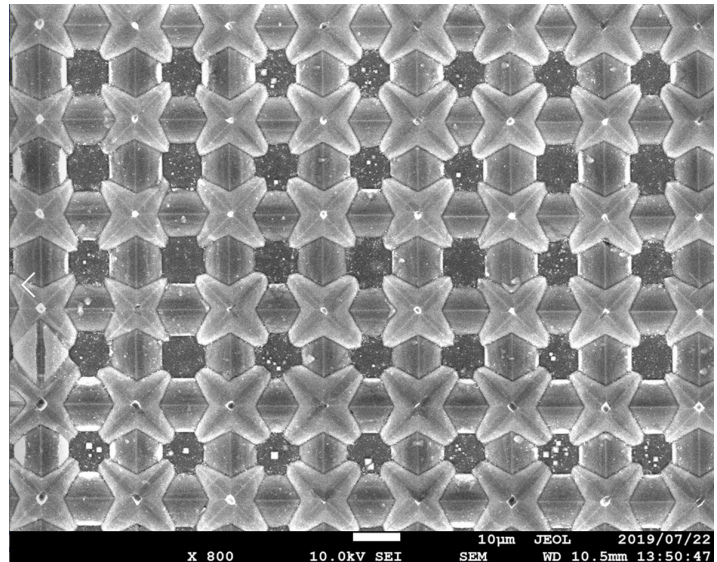
<優秀賞>

大阪大学
服部 梓 様

“シリコン微細加工が織りなす
立体アラベスク”

<作品に込めた思い>

シリコンの微細加工を行っている際に得られた立体的なアラベスク(幾何学的文様)構造です。電子顕微鏡観察をしながら、心が癒やされました。世界最小のアラベスクではないでしょうか?!



<優秀賞>

日本特殊陶業株式会社
北川 修介 様

“セラミック工具による
高速フライス加工”

<作品に込めた思い>

セラミック工具による鋳鉄の高速フライス加工を撮影したものです。DRY加工であるが故に、激しく飛び散った切りくずは火の粉のよう舞い、高速加工の凄さを伝えています。



■絵画・イラスト・CGコンテスト～「精密工学が拓（ひら）く未来社会」～

「精密工学」という科学技術分野を思い思いにイメージし、精密工学が切り拓く豊かな未来社会を想像し、「絵画」、「イラスト」または「CG（コンピュータグラフィックス）」のいずれかで表現

<最優秀賞>

東京工業高等専門学校
小林 桂介 様

“自由に、精巧に。”

<作品に込めた思い>

「繊細かつ自由に楽しく描く」ということを大切にしました。今までの知識や経験を交えながら「人の暮らしを支え、より豊かで明るく自由な精密工学の未来」を思い描いてみました。奥行きのある構図で未来への前進を表しています。



<優秀賞>

ペンネーム
れも 様

“軌 跡”

<作品に込めた思い>

精密工学というと人工的なモノを想像させますが、自然あふれる地球と共に未来を創るため、炎、水、植物の円が中心の光（未来）を囲っています。この無限に広がる未来の可能性を幼い少女の手に託しました。



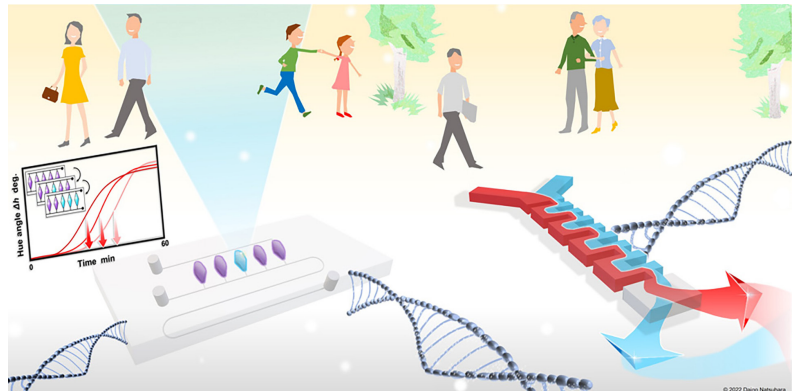
<優秀賞>

豊橋技術科学大学
夏原 大悟 様

“ミクロな技術で
笑顔の見える未来へ”

<作品に込めた思い>

新型コロナウイルスによって私たちの生活は制約のあるものになりました。その中で、遺伝子診断技術やワクチンの製造手法には精密加工技術が活躍しています。私もミクロな技術で明るい社会を実現したいという思いを込めて本作品を描きました。



<優秀賞>

株式会社 太武製作所
太田 和義 様

“習作（20220516-I）”

<作品に込めた思い>

5軸で加工した卵型の地球とAR（拡張現実）を組み合わせました。スマホかタブレットでQRコードを読み取るか、WEBカメラが起動したらマーカーに向けてみてください。



QRコード



こんな感じに見えます。
見る角度を変えたり、マーカーを動かしてみてください。



マーカー

7. 賛助会員名簿

学会の運営維持にあたっては、賛助会員よりの資金援助があって始めて成り立っている。令和4年現在、当地区に所在地をもつ賛助会員名簿を記して謝意を表す。

賛助会員名簿

(株)ジェイテクト、(株)デンソー、日本特殊陶業(株)、
(株)ノリタケカンパニーリミテド、オーエスジー(株)、
三菱電機(株)名古屋製作所、愛知製鋼(株)、大豊工業(株)、

(株)ナガセインテグレックス、(株)日進機械製作所、
(株)ノリタケコーテッドアブレーシブ、富士精工(株)、
ヤマザキマザック(株)、ヤマハ発動機(株)、
(株)和井田製作所、ブラザー工業(株)、オークマ(株)、
日本ガイシ(株)、芝浦機械(株)、アイコクアルファ(株)、
キュリアス精機(株)、(株)アマダマシナリー、
村田機械(株)、鍋屋バイテック(株)、豊ハイテック(株)、
豊田バンモップス(株)、(株)イワタツール、
エイベックス(株)、大同特殊鋼(株)、(株)名光精機、
パルステック工業(株)、(株)名南精密製作所

編 集 後 記

東海支部創立70周年を迎えるにあたり、記念事業の一環として、この記念誌を発行することになりました。創立40周年に支部として初の記念誌が発行され、その後、半世紀の区切りとして、創立以来の支部の歴史や活動が50周年記念誌としてまとめられました。70周年記念誌では、50周年記念誌の内容に、この20年間の記録を追加して、支部会員の皆様の記憶にとどめていただきたいとの思いで作業を開始しました。しかし、50周年記念誌の電子データが存在しないことが判明し、また、過去の統計データも一部欠落しており、作業は困難を極める結果となりました。このため、50周年記念誌に掲載されていた全てのデータを完全に復元するには至りませんでした。極力、過去の記録を損なわないように編集作業を行いました。

一方、会長祝辞、支部長挨拶、特別寄稿、随想として、各氏から精密工学会の過去の貴重な歴史や、変革期を迎えた昨今の製造業の現状と課題、ならびに精密工学を未来へつなぐ道標ともいえる貴重な提言をいただきました。改めて、ものづくり産業の集積地である東海支部の持続的発展が「心豊かな未来社会の実現」には必要不可欠であり、産学官の「知の交流の場」としての学会の役割の重要性を認識しました。東海支部会員の皆様におかれましては、今後とも支部の運営・活動に対しまして、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

創立70周年記念事業としては、本記念誌の発行に加えて、支部ホームページを最新のWebデザインに刷新しました。今後は、支部活動のさらなるコンテンツの充実を図り、会員の皆様ならびに一般市民の方々への情報発信に努めたいと思います。また、3つのコンテスト企画も実施し、東海支部独自のロゴマークをデザインしました。精密工学会のロゴマークがマイクロメータをモチーフにしているのに対し、東海支部はノギスと歯車から構成された作品が支部商議員の投票で選考されました。さらに、ものづくりの素晴らしさや凄さを伝える「フォトコンテスト」、精密工学が拓く未来社会をイメージした「絵画・イラスト・CGコンテスト」を実施することができました。精密工学の未来へとつながる70周年のメッセージとなれば幸いです。また、コロナ禍で自粛も危ぶまれた記念事業最大のイベントである記念講演会・祝賀会も対面での開催が実現し、本部の来賓の方々ならびに歴代支部長のご列席を賜り、盛会のうちに終えることができました。本記念誌にも記念講演の概要と祝賀会の様子を紹介していますのでご覧ください。

最後に、会長および支部長をはじめ、玉稿を賜った各氏に深くお礼申し上げますとともに、文字起こしから資料収集ならびにデータ整理などの多岐にわたる激務を献身的に行っていただいた支部事務局の佐野貴子様、柿崎由里様に心より深謝いたします。

令和5年1月

精密工学会東海支部	創立70周年記念誌発行委員長	柴田	隆行
	同委員	佐野	貴子
		柿崎	由里

令和5年3月

発行者 精密工学会東海支部

〒464-8603 名古屋市千種区不老町
名古屋大学工学部IV系教室内
電話/Fax (052) 789-2500
E-mail : jspe.tokai@mae.nagoya-u.ac.jp
HP : <http://tokai.jspe.or.jp/>

